

平成 29 年度

弘前大学生涯学習教育研究センター年報

第21号

平成 30 年 12 月

弘前大学生涯学習教育研究センター

目 次

はじめに 弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深 作 拓 郎

I. 論文等

- 「社会人の学び」と大学生涯学習に関する一考察
－放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会を一例として－
弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深 作 拓 郎…… 1
- 調査報告
第39回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会照合事項の回答と分析
弘前大学生涯学習教育研究センター 講師 深 作 拓 郎…… 15

II. 事業報告

1. 生涯学習教育研究センター主催・共催事業
事業報告・アンケート集計結果…… 19
2. 学部の主催事業など
 - 人文社会科学部…… 62
 - 教育学部…… 67
 - 医学研究科…… 67
 - 保健学研究科…… 68
 - 理工学研究科…… 69
 - 農学生命科学部…… 70
 - 地域社会研究科…… 72
 - 白神自然環境研究所…… 73
 - 医学部附属病院…… 74
 - 被ばく医療総合研究所…… 87
 - 北日本新エネルギー研究所…… 87
 - 国際連携本部…… 90
 - COI研究推進機構…… 90
 - COC推進機構…… 92
 - 男女共同参画推進室…… 93
 - 事務局…… 94

III. センター関連規則等

1. センター関連規則…… 107
2. 機構・組織…… 112
3. 地図・連絡先…… 113

編集後記

はじめに

弘前大学に生涯学習教育研究センターが開設されたのは1996年（平成8年）です。開設から21年、一貫して地元自治体との共催による公開講座の開催を軸に、地域の社会教育・生涯学習の発展と生涯学習の教育研究に努めてまいりました。この間、大学改革の波が幾度も訪れ、近年では、大学の地域貢献の重要性が唱えられるようになりました。本学でも地域貢献活動の促進を目指した取り組みが行われております。

生涯学習教育研究センターは開設以来、地域が抱える課題や学習ニーズに応じたさまざまな学習プログラムを提供することで、地域に貢献してきたノウハウを活かし、本学の地域貢献に大いに寄与しているものと考えております。この4年間には、対象者を明確にした多様な学習プログラムの開発と提供に特段力を注いでまいりました。また、実施したプログラムの効果や課題を導き出して次回以降の事業に活かせるようにするため「省察」も取り入れてきました。17年度からは、自治体との共催事業終了後に本学専任教員と自治体の事業担当者による面接形式での省察を新たに実施するなど、評価の工夫にも取り組んでおります。

人生100年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策を検討していくことを目的に総理官邸主導で設置した人生100年構想会議では、2018年6月に『人づくり革命基本構想』をとりまとめました。4章には「大学改革」が5章には「リカレント教育」が提唱されております。これまでは「公開講座」を手段とした大学開放が主でしたが、これからは、さまざまなニーズや学習スタイルに応じた「社会人の学び」の充実が求められることになるでしょう。

今回刊行する年報第21号は、「Ⅰ論文編」と「Ⅱ事業報告編」で構成されております。論文編では、拙著論文として、過去4年間の受講者アンケートの分析によって見えてきた当センター公開講座の課題や傾向をまとめました。加えて、調査報告として、全国国立大学の生涯学習系センターが実施している企業で働く方々向け講座の実施状況や内容を調査し、分析した結果を収載しております。事業報告編では、当センターの2017年度の事業実施状況と省察を掲載しております。

ご高覧頂き、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

この春、センター長を6年間勤めてくださいました曾我亨副理事（人文社会科学部教授兼任）から、伊藤成治理事（教育担当）・副学長に交代いたしました。専任教員は私深作が担当しております。引き続き、弘前大学生涯学習教育研究センターをよろしく願い申し上げます。

2018年12月

弘前大学生涯学習教育研究センター 専任教員
講師 深作 拓郎

I. 論 文 等

「社会人の学び」と大学生涯学習に関する一考察

－「放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会」を一例として－

深 作 拓 郎

はじめに

少子高齢化に伴う人口減少社会を迎えた我が国では、政府が「人生100年時代構想」を掲げている。2018年6月には『人づくり革命基本構想』がまとめられた。ここでは、教育の無償化をはじめリカレント教育の充実や大学改革が唱えられている。しかしながら、最盛期には25の国立大学に設置されていた「生涯学習系センター」は、大学の機構改革により他部門との統合再編がなされ、「生涯学習教育研究センター」という名称で現存しているのは本学のみとなった。私立大学においても「生涯学習系センター」を生涯学習支援室などに縮小、あるいは国立大学と同様にボランティア部門や地域連携部門との統廃合が進んでいる。このように、「社会人の学び」の重要性が唱えられる一方で、その拠点となる「生涯学習系センター」の縮小というジレンマが生じている現状である。

弘前大学生涯学習教育研究センターにおいても2014年度から、公開講座のあり方の見直しに着手し、対象者を「専門家」「実践者」「市民一般」に区分、より対象者を明確化することで、大学生涯学習の強化を図ってきた。

本稿は、公開講座の見直しをかけた2014年度から2017年度の4か年の受講者動向を整理するとともに、弘前市と共催して実施してきた「放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会」の3か年の事業を検証することで、当センターの現状と課題を見出していく。

1. 「社会人の学び」と大学生涯学習の動向

(1) 大学開放に関連した近年の動向

1920年代にはじまった大学開放は、大学の研究知を市民に公開する「公開講座」を基本に進められ、戦後は法的基盤の整備も図られたが、啓蒙的な大学知の伝授であったことは否めなかった。60年代以降は大学開放センターや生涯学習教育研究センターという拠点施設が整備されるようになり、「大学開放の拠点」として大学組織としても位置付けられはじめたが、地域社会からは距離を感じるものであった。

1984年の臨時教育審議会発足以降、「生涯学習社会」が叫ばれるようになり、生涯にわたる継続的な学習の場と機会を提供することへの期待が高まり、1990年中央教育審議会答申『生涯学習における基盤整備』において、大学・短大等に「生涯学習センター」の設置が推奨され、国立大学では「生涯学習教育研究センター」という「省令施設」として名称を統一し、「公開講座」を所管する部署が大学に設置されていった。さらには、2005年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」と翌06年の教育基本法の改正により、大

深作 拓郎（ふかさく たくろう）弘前大学生涯学習教育研究センター 講師

学の機能の一つに「地域貢献」が盛り込まれた。

18歳人口はもとより、我が国は人口減少社会を迎え、大学も付加価値（競争力）を継続的に生み出すことが求められるようになり、2012年の「大学改革実行プラン（大学COC）」において、地方再生の機能が大学に求められるようになっていった。2015年度には、「地（知）の拠点整備事業による地方創生推進事業（COC+）」に再編されていき、大学にとって「地域貢献」はより強く意識せざるを得ない状況である。地方自治体においても、大学との連携強化は多岐において意識せざるを得ない。すなわち、地域社会とより協働して「地域再生」の主体を育む拠点として、機能を構築する役割を担うための検討が求められている。

（2）大学開放に関連した調査から

2005年に出された文部科学省『地域の自立とまちづくりを担う人材育成調査報告書』によると、「大学は公開講座を中心に展開しようとしているが、自治体や市民団体の期待は、地域のシンクタンク機能、地域政策や地域づくりに関する提言、産業活性化・発展への貢献、学生による地域活性化への貢献で、公開講座への期待は少ない」¹と興味深い記述がある。そして、「地域が大学を育て、大学が地域を育てる仕組み」として、①実践学習の機会としてのコミュニティ、②地域企業との連携、③地域のシンクタンク機能／専門家ネットワークの形成、④退職者への学習機会の提供、の4点を提言している²。

しかしながら、同省『平成27年度開かれた大学づくりに関する調査研究』³によると、学部（通信制を含む）や大学院、専修学校などへの入学者層約49万人と横ばい傾向であるのに対して、単発あるいは短期の公開講座を実施した大学・短大は約700校と全体の95%を占め、実施した公開講座は約31,000を数え1994年と比較すると5倍増であった。受講者数は約139万人となり、20年前が約62万人であることから2倍に増えている点は興味深い。

大学開放は、「公開講座」を中心に「科目履修制度」などの授業公開なども用いながら展開してきたが、大学の存在が地域社会に浸透し、大学開放に対する期待の高まりが地域のニーズを多様化させているものと言えるだろう。

もう一つ注目したのが、2017年度にイノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社が、文部科学省の委託事業として実施した『社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査』⁴である。この調査では、大学・企業・社会人学生（学部・大学院に所属する者を除く）・社会人教育未経験者らを対象に、それぞれの「社会人の学びなおし」に対する意識を明らかにした。その調査から、筆者は「カリキュラム」「教育方法」「教育環境」について着目し、以下のように整理した（表1～表3）。

表1は、「カリキュラム」に関する項目である。大学と企業は「特定職種の実務に必要な専門的知識・技能」に対する関心が最も高く、2番目には「特定の分野を深く追求した研究・学習」が高いことも共通している。企業は3番目には、「幅広い仕事に活用できる知識・技能」への関心を示すが、大学は「応用・実践問題の研究・学習」となっている。

一方、社会人学生は、「特定の分野を深く追求した研究・学習」「深い洞察力を養う内容」「最先端にテーマを置いた内容」が僅差で高値を示している。社会人教育未経験者では、「特定の分野を深く追求した研究・学習」「最先端にテーマを置いた内容」「幅広い仕事に活用できる知識・技能」への関心が高い。これらのことから、「特定の分野」「幅広い視野」の

捉え方に振幅があるのかもしれないが、広角的に問題や課題を深められるカリキュラムが求められていると言えよう。

	企業等	社会人教育 未経験者	社会人学生	大学等
最先端にテーマを置いた内容	17.7%	21.9%	26.6%	14.7%
企業が抱える諸問題への指針を提供できる	12.8%	8.4%	13.4%	7.9%
分野横断/学際性に配慮した幅広い視点の研究・学習	16.3%	11.8%	25.7%	20.4%
特定の分野を深く追求した研究・学習	27.0%	22.6%	29.7%	43.1%
応用・実践問題の研究・学習	19.9%	14.1%	19.1%	30.6%
基礎理論の研究・学習	7.1%	11.4%	14.5%	13.1%
特定職種の実務に必要な専門的知識・技能	35.5%	17.4%	21.5%	48.0%
幅広い仕事に活用できる知識・技能	22.0%	21.3%	18.0%	13.9%
独創的な発想による問題解決力を養う内容	16.3%	9.3%	17.5%	10.3%
知識に基づいた深い洞察力を養う内容	14.2%	14.6%	28.3%	15.3%
研究推進能力を身に付ける内容	11.3%	4.8%	25.6%	18.0%
実習等実践的な講義を重視した内容	24.8%	12.0%	20.4%	29.5%

表2は、「教育方法」についてである。企業側は「最先端の企業や実務者による講義」に対する期待が一番高いのに対し、他の三者からの期待はさほど高くない。大学側が重視する教育方法の2番目に高い「実習・演習」は、他の三者の期待度はそれほどでもないのに対し、「事例研究・ケーススタディ」は、企業・社会人学生・大学の三者で高い値を示している。「グループワーク・ディスカッション」もさほど低い値でもないことから、ゼミナールのように、文献検討や研究過程の発表ほどのものではないが、対話を通じてより直接的に事例から学びを得たいという意識がうかがえる。また、「専門知識・基礎知識の復習」に対しては、企業側のニーズはそれほど高くないものの、社会人教育未経験者・社会人学生・大学の三者で高い関心を示している。大学という性質から、社会人学生・大学の二者は、「レポート・論文作成指導法」へのニーズも高いことが伺える。

	企業	社会人教育 未経験者	社会人学生	大学
事例研究・ケーススタディ	33.3%	14.4%	30.6%	30.5%
グループワーク・ディスカッション	22.7%	12.5%	24.2%	28.2%
企業等と連携した講義	21.3%	14.6%	16.6%	5.5%
専門知識・基礎知識の復習	19.1%	37.1%	37.1%	27.9%
レポート・論文作成指導法	10.6%	6.3%	33.2%	40.0%
最先端の企業や実務者による講義	34.0%	8.8%	21.3%	18.9%
実習・演習	19.1%	20.7%	20.4%	34.0%

表3は、「教育環境」についてまとめたものである。大学側は、「夜間、土日、休日等の授業」と「体系的な教育課程の充実」「科目履修制度の充実」を重視している。企業・社会人学生も「夜間、土日、休日等の授業」に対する要望が高いことが明示されているが、

体系的なカリキュラムは重視されておらず、むしろ企業の側は「短時間で修了するプログラム」へのニーズが2番目に位置している。

社会人学生・社会人教育未経験者共に「授業料を安く設定すること」が最も高かった。経済的な負担感が強いことが伺える。加えて、大学・社会人学生共に「教員の充実」が高めに位置している。表1や表3から、学びへの意欲が高く多彩な事例から学びを得たい社会人学生のニーズと、そのニーズに対応しきれていない大学の苦慮が伺える。

	企業	社会人教育 未経験者	社会人学生	大学
夜間、土日、休日等の授業	44.2%	17.6%	43.2%	57.8%
短時間で修了できるコース	36.1%	18.9%	18.2%	17.0%
授業料を安く設定すること	24.6%	33.8%	44.2%	15.3%
体系的な教育課程の充実	13.6%	14.6%	27.3%	52.6%
入試時期をフレキシブルにする	18.3%	17.8%	13.1%	7.1%
教員を充実させる	6.0%	8.0%	28.2%	25.4%
履修証明制度を活用すること	2.5%	2.9%	2.9%	11.0%
科目履修制度を活用すること	4.6%	5.3%	5.3%	27.3%

この調査から、すでに大学等での学びを経験している社会人教育経験者のニーズと学びを継続する上での課題、学びの当事者となる社会人教育未経験者のニーズと学びのイメージ、送り出す側の企業、受け入れる側の大学、それぞれに微妙な「ズレ」があることがわかる。どこに照準をあてていくかは、それぞれの地域の実情や個々のプログラムによって振幅はあるだろうが、学びの当事者が学びやすい条件を整備していくことだけは根幹に置かなければならない。

2. 生涯学習教育研究センター「公開講座」受講者の分析から

(1) 弘前大学生涯学習教育研究センターとは

弘前大学生涯学習教育研究センター（以下、センターと称する）は、1996年（平成8年）5月に設立され、生涯学習に関する教育内容及び教育方法の研究、並びに社会人を対象とする公開講座等の生涯学習事業の実施する学内共同教育施設である。社会教育・生涯学習専攻と医学系専攻による専任教員2名が配置され、地方自治体との共催による公開講座・講演会、センター主催の事業を中心に事業を展開してきた。2009年3月に医学系の専任教員が定年退官したことによる補充が図られ筆者が着任した。これにより、2名の専任教員とも社会教育・生涯学習専攻の体制となったが、開設当時から在籍していた教員が2016年度末をもって定年退官となり、以降は筆者1名体制となっている。

他の大学生涯学習系センターと比較すると、自治体と共催して生涯学習事業（公開講座）を多数実施していることが当センターの特徴である。しかし、対象者を市民一般とした講演会形式の講座がほとんどであった。そこで、2014年度からは対象者を「専門家」（その職業で賃金を得ている方を対象としたもの、非常勤・臨時職員を含む）、「実践者」（所得はないものの市民活動などで地域実践をしている方）、「市民一般」と区分し、とりわけ「専

門家」「実践者」を対象とした講座を充実させた。また、受講者同士が交流できより能動的に学習ができるワークショップ・ゼミナール形式の講座も積極的に導入していった。

ここ数年の当センターの事業は、公民館職員や社会教育関係職員を対象とした講座（青森市、弘前市）、児童厚生員・放課後児童支援員を対象とした講座（弘前市）、中高校生が大学生の援助を受けて映像制作をする講座（三沢市）などを自治体と共催して実施している。センター主催事業では、地域おこし協力隊を対象とした研修会、地域で子どもに携わる専門家・実践者向けのゼミナールを実施している。2016年度からは学部教員の提案型の公開講座、17年度には学生企画の公開講座も試行的に実施している。このほか、世界自然遺産「白神山地」とその周辺地域を活用した地域活性化のリーダーの育成を目指した「白神自然環境人材育成講座」を学校教育法の「履修証明制度」に基づくプログラムとして2016年度から開講している。

(2) 受講アンケートからみえる受講者の姿

センターでは、講座ごとに受講アンケートを実施している。実施に当たっては、共催する自治体の意向や講座の内容や特性に応じて質問項目が加除、変更されることがある。また、連続講座の場合は最終回にアンケートを実施する場合もあれば、毎回アンケートを実施する場合もあり、実施条件は定まっていない。終了時間の都合により実施できなかった講座もある。

本稿では、対象者をより明確化するなどの公開講座の改善を開始した2014年度から17年度の4年間で得られたアンケートの中から、「年代」「職業」「受講のきっかけ」「学歴」に絞り、整理した。整理に当たっては、保存されているアンケートの質問紙から必要事項を抽出して集計した（表4～7）。先にも説明したように、同じ条件下で実施しているわけではないので、上記4項目を質問していないものは省いている。今回の分析と対象となった4年間の事業数は、専門家対象8講座、実践者・当事者対象14講座、一般市民対象25講座であり、アンケート総数は1338枚である。実施受講者数と回収数は一致していない。そのため回収率等は省略している。

表4は、受講者の年代を整理したものである。「市民一般」では、60代・70代の受講者が圧倒的に多い。「実践者・当事者」では、10代～50代の参加者が半数を超えているが、とりわけ10代の参加が目立つ。これは、高校生向けの講座が開講されていたことが挙げられる。「専門家」対象では、20代・30代の受講者が6割近くとなり、40代・50代を加えると9割弱を占める。これは、「地域おこし協力隊研修」を実施してきたことが反映されている。

表5は受講者の職業をまとめたものである。「市民一般」「実践者・当事者」ともに、主婦層をはじめとする無職層が多いのに対し、「専門家」では公務員が目立つ。自営業や大学生、団体職員、その他が多い。これは、先に紹介した「地域おこし協力隊研修会」のほか、弘前市と共催している「公民館職員研修」「放課後の居場所づくり研修会」などが反映している。

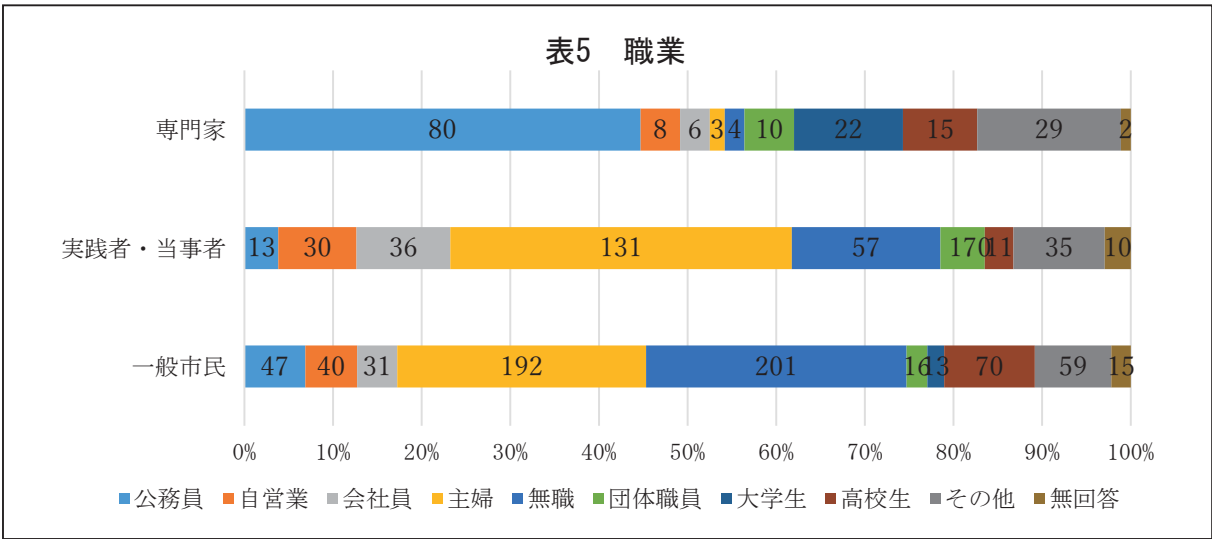
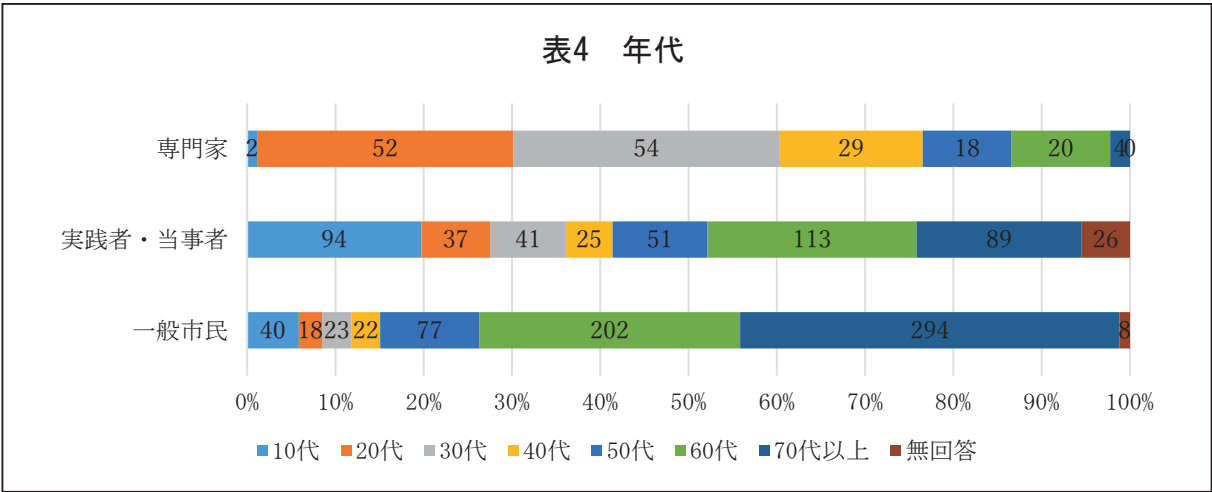


表6は、受講のきっかけについて質問している。市民一般はセンターが毎年6月に発行している学内の公開講座等を取りまとめた『弘前大学で生涯学習を』のほか、個人に郵送されるダイレクトメールを情報手段としていることがわかる。しかしながら、実践者・当事者、専門家では「その他」の割合が高く、専門家では「ダイレクトメール」や「友人から」の割合も高い。その他と回答したの中では自由記述欄に「口コミ」と記載された例が多く、職場や教育委員会からの紹介、学校からの紹介などの記載例も散見された。三者ともにインターネット（ホームページ等）が参加のきっかけと回答した数は少なかった。

現役世代には、対象者に応じたチラシが直接手に渡ること、職場等からの紹介、口コミが有効であると言えるだろう。

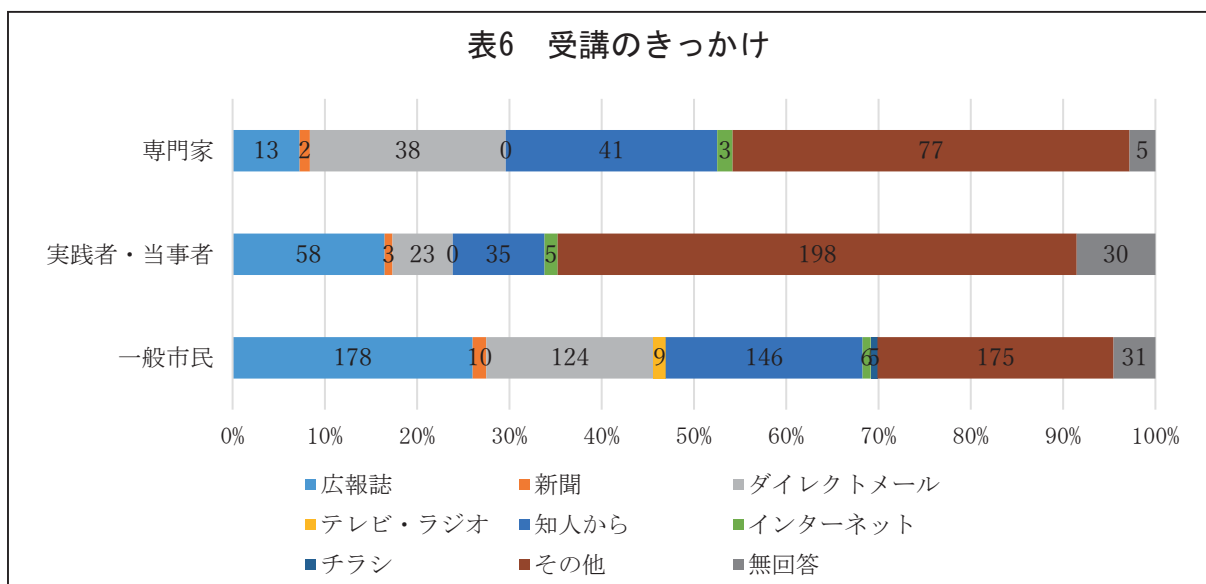
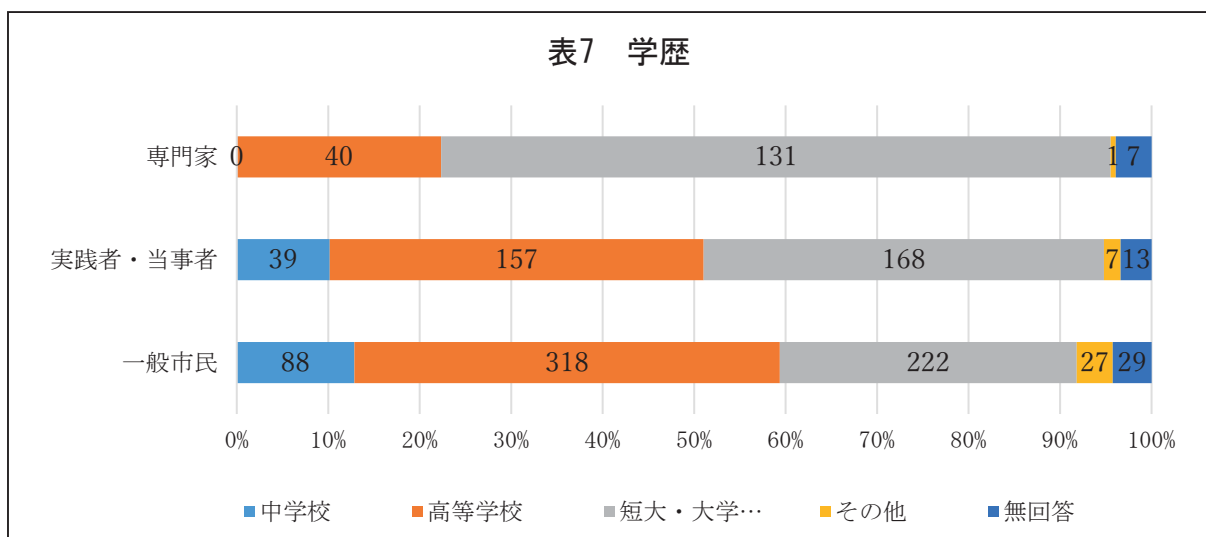


表7は、受講者の学歴について質問している。一般市民、実践者・当事者の二者は、高校卒の割合が高い。中学校卒も1割をキープしていることも特筆できる。60代・70代の参加者が多い「日本のうたをうたおう」では、約半数が中学校卒を占めていた回もあった。

一方、専門家層では、高等教育機関卒が圧倒的に多いが、高校卒も2割強を占めている。受講年齢層との相関がみられるが、青森県の高等教育機関への進学率が5割に満たない状況を考えると、今後も同じような傾向で推移すると思われる。すなわち、「公開講座」や「履修証明プログラム」の実施において、この点を強く意識したカリキュラム開発が求められると言えよう。



(3) 生涯学習教育研究センターの利用者分析からみえてきたこと

まず、センターの受講者の背景について明らかとなったことは、中等教育卒者が多いものの、「実践者」「専門家」対象の講座では、明らかに20代～40代の参加者が目立ち、市民一般を対象とした講座では60代・70代の高齢層の受講者が多い。一般的に「生涯学習」は一生涯にわたる学習機会を保障するものであり、仕事等で平日の受講が難しい壮年層の学習機会をも充実させていく積極的姿勢が求められているが、とかく青森県ではリタイア

した層の余暇を充足するための学びというイメージが定着してしまっていることが考えられる。

また、総合的な学習情報誌として刊行されている『弘前大学で生涯学習を』を情報源としている層も高齢層に限定されており、「専門家」「実践家」は知り合いからの紹介や口コミ、職場を通じての参加が多いことから、公務・職務と関連づけた方が参加のしやすさにつながるものと推察される。社会人の学びを促進するためには、職場の理解は不可欠であり、生涯学習活動への理解を促していく必要がある。

受講アンケートでは、教育方法についての質問項目がないため検証できないが、「専門家」「実践者」対象の講座では、受講者層が若いこと、かつ『社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査』と照らし合わせれば、「事例研究・ケーススタディ」「グループワーク・ディスカッション」へのニーズが高いことから、これまで以上にゼミナール形式やワークショップを導入した講座を多くするとともに、その方法も受講者がより主体的かつ能動的に学習できるような教育方法を導入していくことも重要であろう。

3. 放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会

(1) 企画の経緯

センターの公開講座の改善に着手した翌年である2015年度から新規でスタートした事業の一つに「放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会」(以下、「居場所づくり研修会」)がある。この講座は、弘前市子育て支援課から提案されたもので、当時の依頼文によると「共働き家庭等の『小1の壁』を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、(中略) 本市における放課後の子どもの居場所や子どもの居場所づくりについて、どのように考え、どのような仕組みをつくっていくべきかを検討したい」と、弘前市における放課後の環境醸成のあり方を、大学とともに検討したいというものであった。

2014年度の資料に基づくと、弘前市は小学校が35校あり、児童館・児童センターは25館(併設の放課後児童クラブを含む)、放課後児童クラブは15館となっている。放課後子ども教室の開設はなく、社会教育関係団体としてのスポーツ少年団が83団体という状況である。

センター側の担当教員は筆者となり、2014年度末から15年度の4月までに弘前市の担当者と3回協議し、作成した表に基づき課題を抽出した。

そこから見えてきたことは、設置根拠となる法令、資格、運営体制に違いがあり、それぞれで指導技術に関する研修会は行われてはいるものの、総合的な研修の機会が少ないことから、子どもたちへの支援・援助に差があり、そもそも「子ども観」「放課後観」がいまいであることが明らかとなった。

表8 弘前市における「子どもの放課後」に関わる機関の概要

	児童館 (児童センター)	放課後児童クラブ	放課後子ども教室	スポーツ少年団
設置根拠	児童福祉法第40条 「児童厚生施設」	児童福祉法第6条 の2「市町村が行 う児童福祉事業」	放課後子どもプラ ン	社会教育法 スポーツ振興法
市における所管	子育て支援課	子育て支援課	教育委員会	教育委員会
施設基準 運営に関するガイ ドライン	児童福祉施設設置 基準、児童館ガイ ドライン	放課後児童クラブ ガイドライン	放課後子ども教室 運営の手引き	21世紀の国民ス ポーツ推進方策
運営体制	社会福祉法人へ指 定管理委託	市の直営		各クラブによる運 営
職員の勤務条件	各社会福祉法人に よる	市の臨時職員		ボランティア
指導員の資格	児童の遊びを指導 する者(児童厚生 員) 保育士資格や教員 免許等で代替して いるところもある	放課後児童支援員 保育士や教員免 許、社会福祉士等 の保有者、もしく は児童福祉に2年 以上自由従事した 人、としている		特になし

当時作成された表をベースに深作が再構成した。

2014年段階では、弘前市内に「放課後子ども教室」が開設されていなかったため、空欄とした。

そこで、総合的に「子ども理解」「放課後の独自性」を理解する研修の機会を設けることが必要であると考え、2015年度から実施することとした。実施に当たっては、スポーツ少年団の指導者は、ボランティアであることと、それぞれの種目による特殊性などを考慮し、対象から除外し、市内の児童館職員、放課後児童クラブ職員、関心のある市民、放課後子ども教室の関係者を対象者とした。

(2) 講座の内容

講座の内容は、市役所担当者と筆者が共同で企画を練り上げていった。到達目標としては、「放課後の独自性」「プレイワーク」「子ども主体」を理解して、指導員の役割(専門性)を理解できる内容としていくこととした。毎年度「ねらい」とするテーマを設定し、それに合わせて、筆者が講師の人選を行っている。人選にあたっては、放課後と子ども理解を常に行いながら実践している方々にしている。

表9 2015年度～17年度のテーマ・講師一覧

- ◆ 2015年度：子どもにとっての「心地よい居場所」とは
講師：NPO法人ゆめ・まち・ねっと渡部達也・美樹氏
- ◆ 2016年度：子どもにとっての「放課後の遊び」を考える
講師：岩手県立児童館いわて子どもの森 長崎由紀氏
秋田市秋田市飯島南児童センター 寺田恵美子氏
- ◆ 2017年度：子どもにとっての「放課後の世界」と子どもにとっての「指導員」のあり方考える
講師：東京都台東区松が谷児童館 水野かおり氏
仙台市内児童センター勤務 児童厚生一級特別指導員 渡邊由貴氏

一例として、2017年度の講座を紹介する。この年は、「子どもにとっての『放課後の世界』と子どもにとっての『指導員』のあり方を考える」というテーマ設定をした。放課後の時間を「怪我をさせないように、指導員の管理のもとただ安全に過ごさせればよい」という根強い意識や学校の空き教室やコミュニティセンターの一室で運営している放課後児童クラブでは、教職員や他の利用者への遠慮などもあり、動きの少ない遊びや宿題、読書などに制限してしまうため、本来の放課後の姿とはかけ離れた、大人に管理された世界になってしまっているところが散見される。そこで、「遊びを最大の手段とした子どもの健やかな育ちを促す(=健全育成)」というプレイワークのより深い理解と意識形成。そして、児童厚生員・放課後児童支援員のつながりの必要性を感じてもらうことで、「ヨコのつながりをつくる(=児童館同士の連携)」をめざした。

1回目は、東京都台東区松が谷児童館館長の水野かおり氏を招き、「居場所としての児童館・児童クラブにしていくために」というテーマで、講義とワークショップを行った。児童館(児童センター)・放課後児童クラブが有する機能の一つである「心の拠り所」を、遊び活動から如何に結び付けていくのか、具体例を用いながら講話された。そして、グループに分かれて「あなたがイメージする『居場所』とは」「現在ある『居場所』は実際にどんな感じか」「子どもたちの『居場所』となるためには」についてグループディスカッションを行った。ワークショップでの様子や記録をみると、人とのつながりや素になれる空間を想定できてはいるものの、自身がどのようにアプローチしていくかについては、具体的にイメージできている人と抽象的である人に二分されたように思われる。

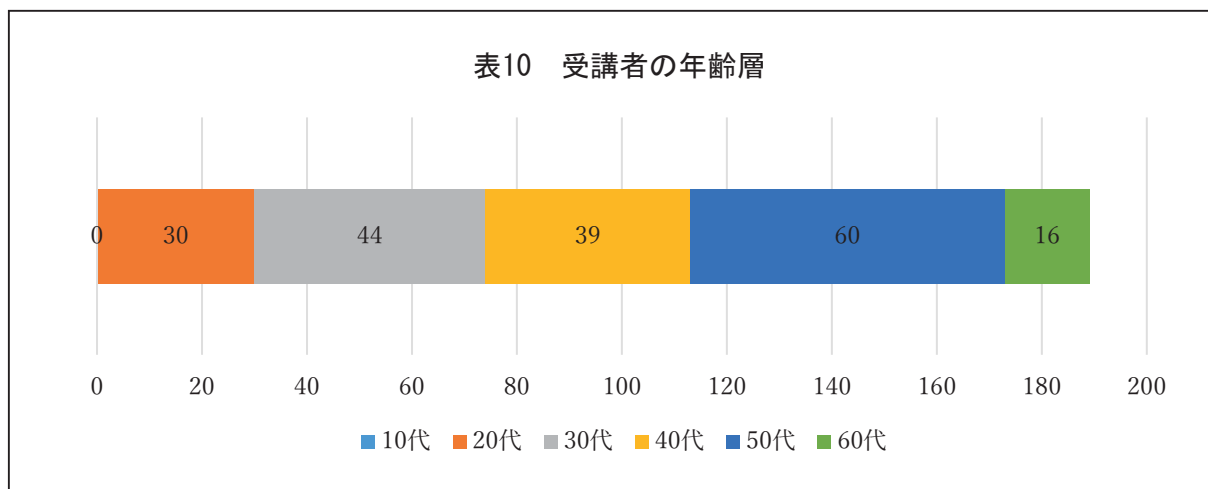
2回目は、仙台市内の児童センターに勤務する渡邊由貴氏に来弘いただいた。前半では、自身が仙台市内の児童厚生員らで組織する「運動あそび研究会きんにくーず」で培ってきた、子どもが室内外で楽しく身体を動かせる遊びのプログラムの一端を受講者と共に楽しんだ。後半は、自身の実践をもとに子ども理解と地域事情を把握することの大切さとそのための工夫、全国の児童厚生員とつながり学びあっていくことが、子どもの利益になることを強調されていた。



(3) 受講アンケートから

各回開始前に「受講アンケート」を全員に配布し、講座終了後に回収している。3年間の延べ参加者数は221名、アンケートの回収数は194枚、回収率87.7%であった。質問項目は、弘前市役所の担当者と筆者が協議して設定している。質問項目は、性別、年代、所属に関する基本属性のほか、1年目は「満足度」を点数にして自由記述としたほか、講座の「良かった点」「悪かった点」「感想など」も自由記述とした。2年目以降は、受講者自身の学びや気づきにどう影響したのかを把握するため、「参加の動機」「講座からの気づきや学び」「その他感想等」の合計3項目の自由記述欄を設け、「講座への満足度」を選択制にし、受講者の属性等の基本項目は1年目を踏襲した。

まず、受講者は女性が圧倒的に多く72.1%を占めた。受講者の年齢層をまとめたのが表10である。50代が約31.7%と多く、次いで30代、40代となっている。男性受講者の年齢層は20代から50代までみられ、30代が一番多かった。



受講者の所属を示したのが表11である。児童館・児童センター職員が多く、放課後児童クラブの職員よりも「その他」と回答している人が多い。これは自治体職員（教育委員会や中央公民館）のほか団体職員やパートと回答している人がここに含まれている。受講名簿と照合すると、今後児童館や放課後児童クラブなどの立ち上げを見込んでいる人のほか、児童館や放課後児童クラブの職員の一部がパートと回答してしまっているものと思われる。

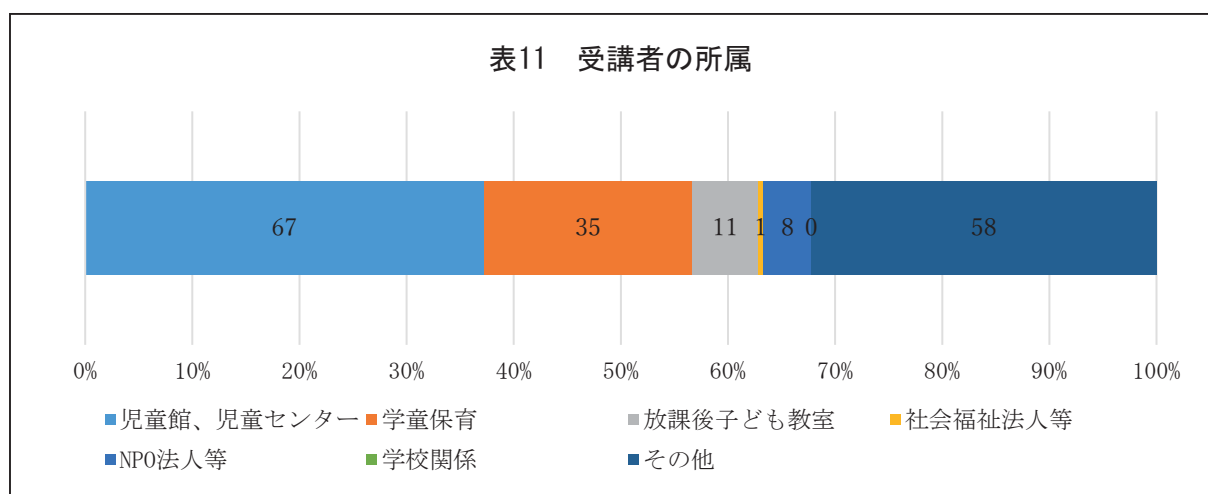
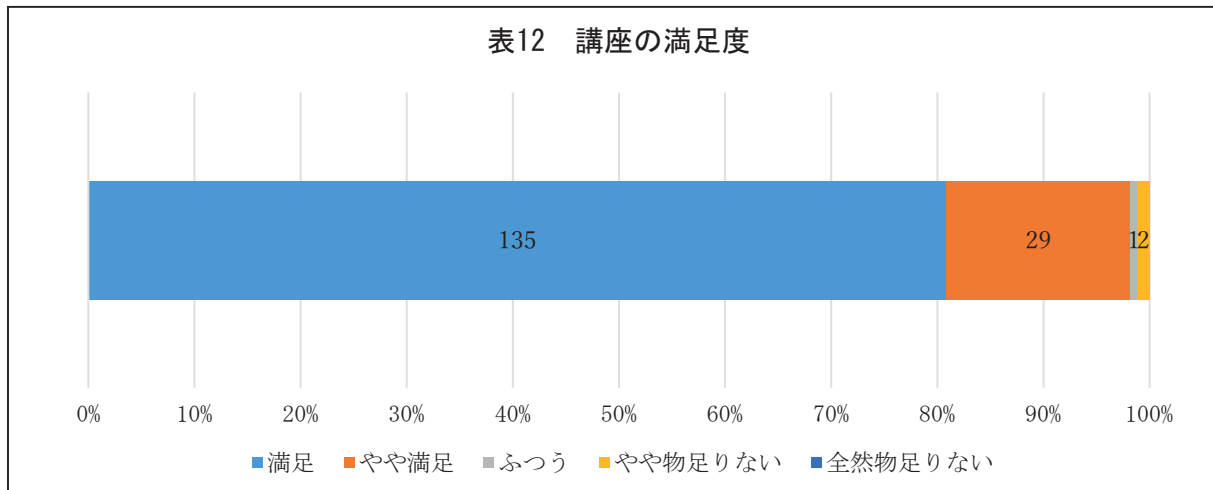


表12は受講満足度を示したものである。「満足」と「やや満足」で97%を超え、受講者の学習欲求を満たしたものであると言えよう。

自由記述「気づき・学び」に記入されている内容を見てみると、①居場所としての機能や遊びの方法など、子どもとの関わり方に関すること、②子ども理解に関すること、③職員の役割や専門性に関すること、の3点に分類することができた。他の自由記述項目も含めてみると、とりわけ、児童館や放課後児童クラブが「子どもにとってどういう場所であるべきなのか」を考えるきっかけとなっている様子がうかがえ、「子ども」と関連付けて書かれている文章が多くみられることも特筆できる。

表12 講座の満足度



「参加の動機」は自由記述方式となっている。初年度は「市役所からの紹介」「所属長からの指示」に関する記述が多く、次いで「居場所」というテーマや講師に興味を持ったとの記述が多かったが、次年度以降になると「市役所からの紹介」「所属長からの指示」は少なくなり、「関わる」「得る」「学ぶ」などの動詞が多くなっている。主語は、「子ども」「居場所」「放課後」「遊び」「児童館」「仕事」が多いことから、子ども理解の必要性や指導員の専門性を深めたいという意識が強まっているのではないかと考えられる。参加の動機の記述内容は、「その他感想等」での記述と連動している点が興味深く、表出単語もほぼ同様であったが、特筆できる点として「楽しい」という単語の出現が一番多かった。子どもの放課後や居場所の最先端で活躍する講師の実践に触れられることがその理由である模様だ。学習欲求と内容が連動していることが伺える。自由記述については、テキストマイニングなどの手法を用いて精査し、分析を深めていきたい。

4. 今後に向けての検討課題

(1) 社会人の学びを充実させていくために

本稿は、社会人の学びに関する先行研究を整理したうえで、生涯学習教育研究センターが2014年度から2017年度の4か年の受講者動向を分析することで、当センターの受講者の傾向を見出した。そして、専門家対象の公開講座として実施している弘前市共催の「居場所づくり研修会」の3か年の事業を検証した。

中央教育審議会では、2018年8月に「今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ」を出している。2017年には約120万人の18歳人口が2040年には81万人にまで減少するという人口推計から、あらゆる世代の学びの場であること、地方拠点の創出などの機能強化が求められてることから、その一つとして、大学等におけるリカレント教育拡充を打ち出している。

そのことから、これからは社会人のスキルアップにつながる、さまざまな教育プログラムが求められる。青森県の地域事情を考えると、大企業だけでなく中小企業に勤務する人や個人事業主、市民活動などで実践者を対象にしていくことが必要であろう。これらを踏まえ、整理した先行研究や当センターの受講者動向から考えると、本学としては次のようなことが検討課題として挙げられる。

受講しやすい環境の整備

- ・ 開講日時 of 精査
- ・ 短期間で履修修了できるカリキュラムの開発
- ・ 日中でも参加できるような職場環境整備への促し
- ・ 広報・周知方法の見直し

満足度の高いカリキュラムの開発

- ・ ケーススタディやゼミナールなど少人数形式のプログラムの検討
- ・ 実査などより具体的・実践的に学べる教育方法の検討
- ・ レポートや論文だけでなく、助成金申請書や報告書などの作成スキルの形成

学習成果を発揮できる機会や環境情勢

- ・ 学習成果が職場や社会で活用できる機会の創設
- ・ キャリアアップ制度の導入など企業側への促し

窓口の一本化と相談体制の確立

- ・ 受講申し込みや問い合わせなどの窓口の一本化
- ・ 全体のコーディネートと相談窓口となる教員の配置
- ・ さまざまな地域課題に対応するための学内協力体制の確立

(2) 「居場所づくり研修会」のこれからの展開

本稿で検証した「居場所づくり研修会」は、自治体と大学が共催して、児童館・児童センター、放課後児童クラブなどの指導員のスキルアップを目指した取り組みとして、全国でも先駆的な取り組みである。受講アンケートの分析から、満足度は高く、企画者側と受講者側の呼応関係がみられた。

後日談ではあるが、児童厚生員2級資格を取得しているある児童センターの指導員が、我々の企画する講座がきっかけとなり、児童健全育成推進財団主催の研修に参加し、児童厚生員1級資格を取得したという。専門家として学び続けていくこととスキルアップの必要性を促した証となるエピソードも得られている。

勤務時間にも配慮し、比較的短期間で完結するプログラムでもある点は、先に掲げた受講環境等の課題を克服できている。全国の先駆的な実践者による、放課後観や子ども理解に通じる専門的な知識や考え方の獲得には寄与できているものの、自分たちの実践を省察する「ケーススタディや事例検証」にまでは至っていない。現在の研修に加え、少人数形式の学習プログラムの導入に向けて検討していく必要がある。

先日、京都市内の児童館長をしている方から指導員のスキルアップ職員に関してヒアリングをした内容が示唆に富むものであった。京都市内には131の児童館と9つの学童保育があり、職員の研修を「京都市児童館学童連盟」（以下、連盟と称する）が一括して企画・運営している。研修は、新卒・新採用者対象の「基礎研修」、おおむね勤続5年以内を対象とした「中堅研修」「専門研修」「実技研修」、館長クラスの「上級研修」、その他派遣研修などがあり、施設運営はいくかの法人に指定管理委託しているものの、職員の研修状況を連盟が把握し、各施設への研修参加を促しているという。研修を受けた職員へは「経手手当」が支給することで、意欲の向上と処遇改善を図っているという点は興味深い。

みずほ情報総研が行った『児童厚生員の処遇や資格の現状と課題に関する調査研究』⁵

では、児童厚生員の専門性の確保と質の向上や資格制度の整備など、5つの提言が出されている。その提言の一つに、「スーパーバイズ」の必要性を唱えている⁶。継続的な研修プログラムが確立されたとしても、それらではカバーできない高度かつ専門的な対応が求められることが想定され、それらの課題への対応について、助言を受けられる仕組みを構築することがこれから重要だと提起している。2018年10月に改訂された『児童館ガイドライン』では、児童館・児童センターの特性について、①地域における子どものための「拠点性」、子どもと家族が抱えるあらゆる課題に対応する「多機能性」、③地域における健全育成の中核施設としての「地域性」の3点を提起している。地域における子どもの拠点施設である児童館、専門職である児童厚生員への期待の大きさがうかがえる。

このことから、大学が専門職員のスキルアップ研修の企画・運営をするにあたり、京都市の事例にあるようにキャリアアップに直結させることは現段階では難しいが、研修機会の確保やスーパーバイズ機能を発揮させていくことは、大学と地域の連携強化させていく、今日の高等教育改革とも結びつく。

現在、当センターが「専門家」対象に実施している、公民館や社会教育関係職員向けの研修（弘前市教委、青森市教委とそれぞれ共催）や地域おこし協力隊対象の研修（青森県後援）、今回着目した「放課後の子どもの居場所づくり研修会」は、学内の協力教員とセンター専任教員の専門領域、研究関心と合致していることが大きい。

しかし、地域連携が叫ばれる中で大学生涯学習の拠点は機構改革の波にのまれ縮小の一途だ。村田和子は、「大学をめぐる競争的環境と大学再編が強化され、センターの改組と連動している」⁷と指摘している。

そのような状況下で、「大学と地域の連携」という課題に対して、生涯学習がいかに両者の架け橋となれるのか。大学が組織として検討する課題もあるのと同時に、地域創生の主体としての地域の側も、大学との連携の成果を発揮すべき時であろう。

(注)

¹ 文部科学省『地域の自立とまちづくりを担う人材育成調査報告書』、2005年、189頁

² 前掲9、190頁

³ 文部科学省がリベルタス・コンサルティングに委託し、全国の大学および短期大学を対象に質問紙による調査と、5つの大学を対象にヒアリング調査を実施した。詳しくは『平成27年度開かれた大学づくりに関する調査研究報告書』、2016年、を参照されたい。

⁴ イノベーション・デザイン&テクノロジーズ『社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査』、

⁵ みずほ情報総研『厚生労働所 平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業報告書児童厚生員の処遇や資格の現状と課題に関する調査研究』、2018年3月。

⁶ 前掲5、211頁。

⁷ 村田和子「大学と地域を結ぶ学び」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所、2017年、795頁

第39回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会照合事項の回答と分析

深 作 拓 郎

はじめに

弘前大学生涯学習教育研究センターでは、1998年の開設以来、自治体と連携・共催による公開講座を中心に事業展開を図ってきた。これは、地域に開かれた大学として、地域課題に対応した内容の講座を開催することにより、地域に根ざした大学開放像を模索してきたからである。これらの公開講座をより強化することを目指し、2014年度からは、対象者を「専門家」「実践者」「市民一般」と区分し、とりわけ「専門家」「実践家」対象の講座を充実させてきた。

加えて、学校教育法に基づく履修証明制度を用いた人材育成講座として、世界遺産「白神山地」とその周辺地域を活用した地域活性化のリーダーの育成を目指した「白神自然環境人材育成講座」（有料）を2016年度から開講している。

さらには、企業で働く人々を対象に、労働環境の向上、職員の個人スキルや企業力をアップさせるためのプログラムを開発したいと考え、全国国立大学生涯学習系センター協議会の会員大学に対し、以下のことについて承合した。

照合内容

弘前大学では、企業で働く人々を対象に、労働環境の向上、職員の個人スキルや企業力をアップさせるためのプログラムを開発したいと考えております。

そこで、企業向けの事業を実施した高等教育機関に、次の点についてご回答頂きたいと思います。

・プログラムの概要 ・対象 ・実施回数と開催時期 ・成果と課題

回答概要

25大学中14大学から回答が得られ、16のプログラムが実施されていることが明らかとなった。14大学中生涯学習系センターが実施主体（あるいは関与）となっていたのは6大学、他の8大学は学部や他の部門が主体となって実施していた（表1）。

分析

①対象者について

大多数の講座が、企業に勤める技術者・専門家・経営者を対象としており、一部市民や大学生にも開放している講座もみられた。

・技術者の育成をめざした講座

第二種電気工事士の資格取得支援（琉球大学）、フードビジネス（高知大学）、焼酎マイスター・林業生産専門技術者の育成（鹿児島大学）デジタルプロセス技術者の育成（静岡大学）、再生エネルギー分野（福島大学）、産業廃棄物処分・循環産業に携わる人材（技術者）育成（北海道大学）など。

- ・ 経営者のスキルアップ、次世代経営者、新事業創造などの育成をめざした講座
稲盛経営哲学プログラム（鹿児島大学）、経営者大学（富山大学）、ビジネスイノベーションスクール（滋賀大学）
- ・ 専門家、その他
企業の社員研修プログラムの設計者育成（熊本大学）、発達障害臨床の検査者のスキルアップ（北海道大学）、地域の産業の高度人材育成（北海道教育大学）、宮大夕学講座（宮崎大学）、地域マネジメント研究科の授業公開（香川大学）

プログラムについて

いずれの講座も複数回のプログラムで構成されており、開催期間も数か月に及ぶものが多い。その中でも鹿児島大学の3つのプログラムは履修証明プログラム（120時間以上）として開講されている。

経営者等を対象とした講座は講義形式が中心のようであるが、専門家・技術者育成をめざした講座のほとんどが、講義形式だけではなく技術指導、ワークショップなど多様な学習方法を取り入れられている。

また、茨城大学：日立製作所とその関連企業、富山大学：中小企業家同友会、熊本大学：熊本経済同友会など企業団体と連携して実施していることも注目点である。

しかし、講師の選定には苦勞されている様子がうかがえる。富山大学が課題として挙げているように、学内のシーズの範囲内では対応できずに学外から講師を招いている事業が散見される。学外講師の選定方法などについても各大学と情報交換を密にしていきたい。

(表1) 弘前大学から国立大学生涯学習系センター研究協議会加盟大学への承合事項

弘前大学では、企業で働く人々を対象に、労働環境の向上、職員の個人スキルや企業力をアップさせるためのプログラムを開発したいと考えております。 そこで、企業向けの事業を実施した高等教育機関に、次の点についてご回答頂きたいと思います。 ・プログラムの概要 ・対象 ・実施回数と開催時期 ・成果と課題					
大学名	実施の有無	テーマ・概要	対象	実施主体	
1 北海道大学	有	WISCによる心理アセスメントの基礎を学ぶ	心理臨床家、検査実施者等	教育学研究院	
		廃棄物学特別講義-循環型社会を創る	企業・技術者、市民	工学研究院	
2 北海道教育大学	有	地域産業を担う高度な地域人材の育成と受講者のキャリアアップ		函館校	
3 福島大学	有	再生エネルギー分野の人材育成講座(文科省委託)	企業関係者、市民	地域創造支援センター	
4 宇都宮大学	無				
5 茨城大学	有	日製関連企業、中小企業向けのスキル向上セミナー	日製関連企業、中小企業	工学部	
6 富山大学	有	経営者大学	中小企業家同友会	地域連携センター	
7 静岡大学	有	デジタルプロセス技術の基礎を身につけたエンジニア育成	ものづくり企業	工学部/市民開放授業	
8 金沢大学	無				
9 岐阜大学	無				
10 滋賀大学	有	ビジネスイノベーションスクール	次世代経営者、コンサルタント等	社会連携センター	
11 大阪教育大学	無				
12 奈良女子大学	無				
13 和歌山大学	無				
14 鳥取大学	無				
15 島根大学	無				
16 徳島大学	無				
17 香川大学	有	大学院授業の公開	市民一般	地域マネジメント研究科	
18 高知大学	有	土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業	農業従事者、食品関連企業	地域連携センター	
19 大分大学	無				
20 熊本大学	有	インストラクショナルデザインの研修設計に関する研修会	熊本経済同友会所属企業	教授システム学研究センター	
21 宮崎大学	有	宮大夕学講座(慶応大学・慶応丸の内シティキャンパスライブ)	県内企業	産学・地域連携センター	
22 長崎大学	無				
23 鹿児島大学	有	履修証明プログラム「焼酎マイスター養成講座」	焼酎関連企業、市民一般	かごしまルネッサンスアカデミー・寄付講座	
		履修証明プログラム「林業生産専門技術者養成プログラム」	森林組合等の生産管理者		
		履修証明プログラム「稲盛経営哲学プログラム」	市民(次世代経営者、地域リーダー育成)		
24 琉球大学	有	第二種電気工事士試験対策講座	市民一般、工学系学生	地域連携機構	
25 弘前大学	有	次世代経営者のための「イノベーション経営戦略講座」	中小企業経営者(後継者・管理職)	八戸サテライト	

II. 事 業 報 告

1. 生涯学習教育研究センター主催・共済事業

放課後の子どもの世界と地域のあり方を考える講演会				
対象者	大学生・子どもの居場所や子ども支援に関心のある方		受講者数	35名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	-
会場	弘前大学総合教育棟310講義室			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成29年5月15日(月) 18:00～19:30	渡部 達也 氏 渡部 美樹 氏	NPO法人ゆめ・まち・ねっと代表	たっちゃん、みつきー、おいちゃんとともに考えよう 「子ども目線で考える居場所のある地域づくりー心が折れるより骨が折れる方がマシだ！気遣い人となって子どもと地域に寄り添おうー」	いじめや貧困など、子どもたちが抱えるさまざまな課題が目まぐるしく注目を浴びるようになり、行政だけではなく、地域・市民レベルでも「こども食堂」や「学習支援」などの取り組みが盛んになっている。これらの活動には大人の関わりが必要不可欠であり、地域社会の子どもへの関心が高まることは非常に好ましいことではあるが、その反面、本来「子どもたちだけの世界」である放課後に、大人が介入することで、ジレンマも生じている。本講演会では、講師の実践から地域での子ども支援とそこに必要な大人のまなざしについて考える機会にする。



放課後の子どもの世界と地域のあり方を考える講演会

「子ども目線で考える居場所のある地域づくり
心が折れるより骨が折れる方がマシだ！気遣い人となって子どもと地域に寄り添おうー」

『Better a broken bone than a broken spirit』
(訳) 心が折れるより、骨が折れるほうがマシだ。
こんな言葉を記した看板を掲げている場所が静岡県富士市にある。「NPO法人ゆめ・まち・ねっと」が運営する「冒険遊び場たごっこパーク」という所だ。遊んでいるのか、勉強しているのか、本を読んでいるのか・・・その場に集まる子どもたちは、誰からも縛られることなく、自分ですることを決め、時間を思い思いに過ごす。大人たちは子どもたちが生き生きと遊べる環境を保障し、あとはニコニコと眺めているだけだ。
そこに集まる子は、大きな自然と地域の大人たちに見守られ、一人ひとりが「命」を生き、輝いている。

講師 NPO法人ゆめ・まち・ねっと代表
渡部達也(たっちゃん)氏、渡部美樹(みつきー)氏

日時 2017年 5月15日(月) 18:00～19:30

場所 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室(人文社会学部棟3階)
※ 総合教育棟310教室に変更になるかもしれません

参加費 無料

対象 大学生・子どもの居場所や子ども支援に関心のある方

主催 学生・教員研究会「らぶちる-Love for children」
弘前大学生涯学習教育研究センター

協賛 松本大研究室、宮崎秀一研究室

問い合わせ takuro@hirosaki-u.ac.jp TEL: 0172-39-3147 深作

放課後の子どもの世界と地域のあり方を考える講演会 内容評価

深 作 拓 郎

(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)

この講演会は、年度当初に急遽企画された講演会である。

一昨年当センター事業の講師として来弘された渡邊夫妻が県教委主催の研修会の講師として来県されることとなったことから、学生たちの要望もあり開催することとした。子どもの貧困問題への関心の高まりから、「こども食堂」や「学習支援」などの取り組みが注目を浴び、こども食堂を例に挙げると全国で約400か所も誕生している。

しかしながら、子どもたちにとって本来あるべき「放課後の姿」とはかけ離れた「大人の目線による大人主導の取り組み」が散見される。

本講演会では、講師の実践から地域での子ども支援とそこに必要な大人のまなざしについて考える機会として開催した。

当初は学生向けの講演会としていたが、県内外の児童厚生員、子育て支援団体、プレイパーク（冒険あそび場）の設立を目標に活動している団体からの熱い要望があり、日中の時間帯の「茶話会」も設定した。

日中の茶話会は、講師と参加者間の意見交換をメインの内容とした。参加者からは、青森の子どもたちが抱える現状や放課後事情が語られ、それを乗り越え豊かな放課後を日常に取り戻すための方法や援助する側の姿勢について議論を深めた。

夜の講演会は、大学生が約30名、社会人10名が参加した。1名ではあるが高校生の参加もあったことが特筆できる。講和のあとの質疑応答では、子どもに対する眼差し、子どもにとって理想的な放課後のあるべき姿、そのための実践について意見交換が繰り広げられた。

このことから、子どもにとっての「放課後の世界」や関わり方などについて理解を深め、子どもに添った支援・援助についての視野を広げることができたものと確信している。

「地域おこし協力隊研修会」				
対象者	本学の教員・学生、自治体職員、地域おこし協力隊（近県も可）、本学の教職員、学生		受講者数	延べ171名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催・後援	弘前大学大学院地域社会研究科・青森県
会場	①～③弘前大学創立50周年記念会館 2階 岩木ホール ④ ラ・プラス青い森 4階「ラ・メール」			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成28年6月2日(金) 13:00～17:30	清水 輝之 氏 園山 和徳 氏	元青森市協力隊、起業者 佐井村協力隊、起業者	「なぜ協力隊が2年間で店舗兼住宅を建てられたのか」 「じえんこの話」	地域おこし協力隊は、2016 度末で全国で4,158 人を超え当初の2020 年度 4,000 人の目標を4 年前倒して達成するほど急速に浸透している。他方で、在任1 年以内で離任する隊員が3 割を超える（平井による東北6 県169 名調査）など、なお受入態勢の構築に問題が残るほか、出口として起業だけでなく「多業」や「継業」など新たな働き方が期待されている。青森県でも2017 年度、受入態勢構築と「継業」に特化した出口戦略について新規のモデル事業を造成した。これを受け、本学の協力隊研修会でも、受入態勢構築と同時に出口に当たる新たな働き方にも照準した研修会の企画・実施を進める。
②平成29年8月31日(木) 13:00～17:30	林 篤志 氏	一般社団法人 Next Commons Lab代表	「ポスト資本主義社会を具現化する」	
③平成29年12月1日(金) 13:00～17:30	石田万梨奈 氏 柳澤 龍 氏	元五城目町協力隊 起業者 元五城目町協力隊 起業者	「マチと私をplusする－五城目町協力隊の3年間とこれから－」	
④平成30年3月8日(木) 15:00～16:30	野口 拓郎 氏	弘前大学COC 推進室 助教	活動報告会 【青森県担当】	



①第1回「地域おこし協力隊研修会」

講師：清水 輝之（元青森市地域おこし協力隊・起業家／ポムミエル）
 園山 和徳（元佐井村地域おこし協力隊・起業家／一般社団法人くるくる佐井村）
 有効回答票数：21票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	14	7			
内容	14	5	2		
資料	14	3	4		
話し方	16	5			
雰囲気	15	5	1		

②第2回「地域おこし協力隊研修会」

講師：林 篤志（一般社団法人 Next Commons Lab 代表）
 有効回答票数：17票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	12	3	2		
内容	10	5	2		
資料	4	9	4		
話し方	12	5			
雰囲気	12	5			

③第3回「地域おこし協力隊研修会」

講師：石田万梨奈（元五城目町地域おこし協力隊・Onozucolor代表・福祿寿酒造(株)クリエイティブディレクター）
 柳澤 龍（元五城目町地域おこし協力隊・Akita Age Lab プロジェクトマネージャー）
 有効回答票数：9票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	6	2			1
内容	6	2			1
資料	4	2	2		1
話し方	5	3			1
雰囲気	7	1			1

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		6	6	11	4	2	2	
女		6	4	2		3		
無回答								1

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌								
新聞								
DM		7	1	8		2		
テレビ・ラジオ								
知人から		1	3	2				
インターネット				1		1	2	
その他		4	4	2	3	2		
無回答			2		1			1

平成29年度「地域おこし協力隊研修会」(全4回)を終えて

平井太郎
(弘前大学地域社会研究科 准教授)

本事業は平成27年度から開始したもので、地域おこし協力隊のスキルアップや活動のブラッシュアップを図る実践的な研修会である。地域おこし協力隊とは平成21年度に創設された総務省の制度で、人口減少に悩む地方の地域づくり活動を、大都市から人材を迎え活性化させようとするもので、平成29年度には全国で4976人が活躍している。その活動の成否は、隊員と地域住民、行政担当者が目標設定や達成度の把握について綿密なコミュニケーションを重ねているかにかかっていることが、平井太郎・曾我亨(2017)などの研究を通じて明らかにされている。この知見を受け本事業では、そうしたコミュニケーションを活発化させるべく、隊員・地域住民・行政担当者を対象としたレクチャーとワークショップを定期的に開催してきた。本年度の参加者は、(地域おこし協力隊、自治体、ファシリテータを含む)171名を数え、3年間にわたり継続的に参加してきた隊員1名が、地元新聞社に就職して定住することとなったほか、平川市や黒石市での受入態勢整備に貢献して、研修会の成果も少なくなかったと考えられる。さらに、昨年度課題として指摘した青森県との連携についても、全4回すべてで共催とし、うち1回は県主催としたほか、来年度からは県委託事業として本研修会を実施することが予定され、顕著な進展を見せたと言えよう。次年度はその枠組みを有効に活用した取組みが求められる。

もう1つ課題として指摘した、北海道や秋田県、岩手県等、隣県の協力隊の参加も促す働きかけについても、前記研究を通じて関係が構築された市町村に対して情報発信を行った結果、岩手県、秋田県等からも参加があったほか、北東北3大学連絡協議会でも本研修会の取組みを報告し、本学の先駆性が確認された。今後も地道な情報発信が必要であるとともに、北海道・東北地方を中心に研修会の実態把握や運営主体との組織的な連携について、可能性を探るべきであろう。

最後に、本研修会で重ねてきたWS手法の検証も行い、その成果を早期に世に問う点としては平井太郎(2017)として公刊され、すでに行われている地域おこし協力隊全国研修会のほか、北海道や宮城県、大分県での研修会に活用され、大分県竹田市の公務員研修会にも利用されるなど広がりを見せており、さらなるブラッシュアップが求められよう。

参考文献：平井太郎(2017)『ふだん着の地域づくりワークショップ』筑波書房

平井太郎・曾我亨(2017)「地域おこし協力隊の入口出口戦略調査」『人文社会科学論叢』第3号pp.121-139

中泊町子育て支援講演会「ママのためのリフレッシュ講座」			
対象者	中里・小泊地区で育児中の保護者	受講者数	延べ22名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	中泊町教育委員会
会場	①なかさとこども園、②こども園こどもり		
日時	講師	所属	実施概要
①平成29年6月8日(木) 10:00～11:30	高間木静香 氏	弘前大学大学院 保健学研究科 助教	子育てや病気の疑問を参加者で共有する。エッセンシャルオイルを使って「フレッシュナー」、「ハンドクリーム」を作り、家族・子ども・ママ友とのコミュニケーションを促す。
②平成29年6月15日(木) 10:00～11:30	北島麻衣子 氏	弘前大学大学院 保健学研究科 助教	
	橋本 美亜 氏	弘前大学大学院 保健学研究科 助手	



**ママのための
リフレッシュ講座**

日 時：平成29年6月8日（木）10：00～11：30
場 所：中里こども園（中泊町中里字紅葉坂27-1）
対象者：子育て中の方（20名）
申込先：中里こども園 57-2057
社会教育課 57-2111（内線1922）
申込み切：5月31日（水）

**参加費
無料**

内容

①エッセンシャルオイルを使ったハンドクリーム作り
何種類かのエッセンシャルオイル（精油）の香りを楽しんでみた後、気に入った香りのオイルを使ってハンドクリームを作ります。初めてでも簡単にできますよ。

②子どもの健康と育児のお悩み相談会
小児看護を専門としている教員とお話してみませんか？
子どもの健康のことや子育てのこと、こんな時はどうしたら良い!?という疑問や質問にもお答えします。

講師
弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域
高間木 静香、北島 麻衣子、橋本 美亜

主催：弘前大学生涯学習教育研究センター、中泊町教育委員会

**ママのための
リフレッシュ講座**

日 時：平成29年6月15日（木）10：00～11：30
場 所：こども園こどもり（中泊町小泊砂山1142）
対象者：子育て中の方（15名）
申込先：こども園こどもり 64-2241（棟方先生）
社会教育課 57-2111（内線1922）
申込み切：6月8日（木）

**参加費
無料**

内容

①エッセンシャルオイルを使ったエアフレッシュナー作り
何種類かのエッセンシャルオイル（精油）の香りを楽しんでみた後、気に入った香りのオイルを使ってエアフレッシュナーを作ります。初めてでも簡単にできますよ。

②子どもの健康と育児のお悩み相談会
小児看護を専門としている教員とお話してみませんか？
子どもの健康のことや子育てのこと、こんな時はどうしたら良い!?という疑問や質問にもお答えします。

講師
弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域
高間木 静香、北島 麻衣子、橋本 美亜

主催：弘前大学生涯学習教育研究センター、中泊町教育委員会

ママのためのリフレッシュ講座を終えて

成 田 寿 美
(中泊町教育委員会社会教育課)

子育て中の方を対象に、今年度は、家族・ママ友とのコミュニケーションを広げることを期待し「フレッシュナーづくり」と「ハンドクリームづくり」、ミニ講話会を6月8日に中里こども園、6月15日にこども園こどもりで実施しました。

弘前大学大学院保健学研究科より講師を招き、お茶を飲みながらとても和やかな雰囲気での講座でした。ミニ講話のテーマが「夏のかぜ」で水分の取り方や、予防などについて参加者みんなで会話をしていたのが印象的でした。

西北五地域には大学がなく、このような連携した事業は非常に貴重な講座であると認識しています。子育てや健康の悩みを参加者で共有することによって、少しでもリフレッシュできるのではと感じています。今回の講座では、植物の香りを取り入れたストレス解消の一助、ハンドクリーム、エアーフレッシュナーを使用して家族とのコミュニケーション拡大に繋がったと認識しています。弘前大学、こども園の協力に感謝申し上げるとともに、今後も地域全体で子どもを見守り、気にかけてくれるよう少しでも貢献していきたいと思います。

中泊町中央公民館「自分史を作ってみよう」			
対象者	65歳～80歳までの男女	受講者数	延べ24名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	中泊町中央公民館
会場	中泊町中央公民館会議室		
日時	講師	所属	実施概要
①平成29年6月17日(土) 9:30～11:30	松本 大 氏	弘前大学教育学部 准教授	「自分史」を作成することで、家庭・職場や地域の中で、これまで自分が歩んできた人生を振り返り、得られた経験を今後の地域作りに生かすことについても理解を深めていくことを目的に実施する。
②平成29年7月8日(土) 9:30～11:30			
③平成29年8月5日(土) 9:30～11:30			
④平成29年9月2日(土) 9:30～11:30			
⑤平成29年10月7日(土) 9:30～11:30			
⑥平成29年12月2日(土) 9:30～11:30			



弘前大学地域連携事業

自分の過去について振り返ってみませんか、お話を聞いて語り合い、思い出してみませんか、きっと、思い出すことはいくらでもあります、そして自分の事柄のことについて文章にして「自分の歴史」を綴り出してみよう。

自分史づくり！！

期 日
平成 29年6月17日(土)、7月8日(土)
8月5日(土)、9月2日(土)
10月7日(土)、12月2日(土)
計6回

時 間 午前9時30分～午前11時30分

場 所 中泊町中央公民館会議室

対 象 65歳以上の中泊町民

募集人数 10名(最低2名以上で開催)

参加条件 計6回の日程に参加できる人を希望

申込期日 5月31日(水)までに電話または
FAXで中央公民館へお申し込みください

問い合わせ 中央公民館 ☎57-2341 FAX57-2343

主催・共催 中泊町中央公民館・弘前大学生涯学習教育研究センター

平成29年度 自分史をつくらう申込み

氏 名	(歳)	生年月日	大正・昭和	年	月	日
住 所	中泊町	電話番号				

①～⑥「自分史を作ってみよう」

講師：松本 大（弘前大学教育学部 講師）

有効回答票数：4票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	1	3			
内容	1	3			
資料		4			
話し方	1	3			
雰囲気	1	3			

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男						1	1	
女						1	1	
無回答								

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌						2	2	
新聞								
DM								
テレビ・ラジオ								
知人から								
インターネット								
その他								
無回答								

中泊町中央公民館「自分史を作ってみよう」内容評価書

古川 優
(中泊町中央公民館)

①企画・構想

自分の事や地域の事について、「語り」、「聴き（かれる）」、「質問される（する）」の過程で、これまで自分が歩んできた人生を振り返り自分として記録に残す。また得られた経験を今後の地域作りに生かす。

②準備過程

本講座も今年度で3年目となり、大学、講師との連絡調整は問題なく進めることができた。今年度は町広報に折込チラシで周知した。

③事業（公開講座）

参加対象を65才以上と制限を設けて募集しており、参加者は60才台、80才台各2名となった。募集チラシに講座の目的を記載しており、その目的に賛同した方々が参加したものと理解している。

④達成度・到達度

参加者の前で自分について「語る」「聴く（聴かれる）」「質問される（する）」くり返しで、最後に文章にし、一冊の冊子を作成するという工程で講座が進められた。自分について「話す」「聴く」「質問される」ことは普段の生活では経験できないことであり、その過程の中で自分についてもう一度見つめなおすことが良い機会であったと思う。文章にすることはとても大変だったと思うが、最後に冊子を受け取ったときにより機会をもらったと満足していた。

⑤今後の課題・展望

今年度で3回目の講座であり、今後も末永く継続するためにファシリテーターの育成が必要とおもわれる。

むつ市講演会「子どもの目線から考える、子どもたちの居場所・放課後とは」

対象者	高校生及び放課後支援に関わる者 その他市民	受講者数	25名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	むつ市教育委員会・ むつサテライトキャンパス	
会場	むつ市立図書館 あすなろホール			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成29年6月24日(土) 13:30～15:15	深作 拓郎 氏	弘前大学生涯学習 教育研究センター 講師	「子どもの目線から 考える、子どもた ちの居場所・放課 後とは」	学校生活外での子 どもの支援につい ても注目し、子ども の居場所づくりにつ いて学ぶ。



弘前大学 生涯学習講演会

むつ市で弘前大学の講演
を聞くことができます！

生涯学習課では、弘前大学と連携し、全2回の講演会を開催します。

1回目は、子どもの居場所づくりについて。むつ市では放課後子ども教室やなかよし会、見守り隊など、様々な放課後支援に取り組んでいます。大人の目線ではなく子どもの目線になって「今、子どもたちに必要なこと」を考えてみると、何か新しい気づきがあるかもしれません。

2回目は、若者の地域づくりについて。若者が地域づくりに関わる意義とは？様々な年齢層が参加対象の当講演会で、一緒に考えてみませんか？

両講演会では、実践例も紹介いただくので、具体的に学ぶことができます。

1回目「子どもの目線から考える
子どもたちの居場所・放課後とは」
講師：弘前大学生涯学習教育研究センター
講師 深作 拓郎 氏
日時：平成29年6月24日(土) 13:30～15:15
場所：むつ市立図書館 あすなろホール
対象：高校生及び放課後支援に関わる者 その他市民
定員：80名



2回目「若者の力が地域づくりに活かされる時」
講師：弘前大学副理事・
弘前大学生涯学習教育研究センター長
曾我 亨 氏
日時：平成29年7月8日(土) 13:30～15:15
場所：むつ市立図書館 あすなろホール
対象：高校生及び市民
定員：80名

受講料：無料
事前申込：不要

★本講演会は、あおもり県民カレッジ・高校生
スキルアッププログラム単位認定講座です。
※1講座で2単位取得できます。



主催：弘前大学生涯学習教育研究センター・むつ市教育委員会
後援：むつサテライトキャンパス
問合せ先：むつ市教育委員会 生涯学習課
0175-22-1111 (内線3143)



「子どもの目線から考える、子どもたちの居場所・放課後とは」

講師：深作 拓郎（弘前大学生涯学習教育研究センター 講師）

有効回答票数：21票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	10	8	1	1	1
内容	9	9	1		2
資料	8	9	2		2
話し方	9	10			2
雰囲気	9	8			4

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男	3					1	1	
女	5				2	5	3	
無回答						1		

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌	1					2		
新聞								
DM						1		
テレビ・ラジオ					1	2	3	
知人から								
インターネット								
その他	7				1	2	1	
無回答								

むつ市講演会「若者の力が地域づくりに活かされる時」				
対象者	高校生及び市民		受講者数	29名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	むつ市教育委員会・むつサテライトキャンパス
会場	むつ市立図書館 あすなるホール			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成29年7月8日(土) 13:30～15:15	曾我 亨 氏	弘前大学副理事、弘前大学生涯学習教育研究センター長	「若者の力が地域づくりに活かされる時」	青森県内における介護する側（被介護者の家族）の諸問題を知り、前向きな介護生活を営むための術を知ることを目的とする。



「若者の力が地域づくりに活かされる時」

講師：曾我 亨（弘前大学副理事、生涯学習教育研究センター長）

有効回答票数：25票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	14	9	1		1
内容	13	10	1		1
資料	7	13	3		2
話し方	15	8			2
雰囲気	16	8			1

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男		7		1	1	2		
女		3	1			5	1	
無回答						1	3	

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌				1		3	1	
新聞						1	2	
DM						1		
テレビ・ラジオ		9	1		1	1		
知人から								
インターネット						3	1	
その他		1						
無回答								

平成29年度弘前大学生涯学習講演会事業評価

新 保 詠美子
(むつ市教育委員会生涯学習課)

○事業の効果

むつ市には大学のような高等教育機関がないので、進路を考えている高校生にとって身近で大学の雰囲気を感じることができる良い機会である。また、専門的な知識を得ることができる機会なので、参加した市民の学びに対する向上心が高まる。

○成果

第1回目の講演会では、放課後の支援に関わる方（放課後子ども教室、通学路見守り隊等）や高校生の参加が見られた。講演の内容には、講師自身の実体験も盛り込まれており、より現実的に子どもたちを取り巻く環境について知る機会となった。

参加者からは、「子どもたちの現状と、それに対する大人の役割を知る機会となった。」という感想が多く見られた。

第2回目の講演会では、20代の若者の参加が多く見られた。

講師の他にも弘前大学生が3名参加し、実際の若者の体験談を交えた講演内容となった。後半ではワークショップを行い、参加者同士が協力してアイデアを出し合い発表するという場面があった。イキイキと取り組んでいる参加者の姿が見られ、大変盛り上がった結果、「発案力を他の場面でも生かして行きたい。」など若者を中心に意欲的な感想が多く見られた。


1, 2回目とも、講師の投げかけにより、参加者の意見をよく把握できる講演会となった。


○課題

本講演会は、高校生スキルアッププログラム単位認定講座となっており、例年多くの高校生が参加している。しかし、今回の講演会については、日程調整の関係で例年ほどの参加とならなかった。今後は、他関係機関と連絡を密に行い、課題解決に努める。

子どもの育ちを考えるゼミナール			
対象者	子どもに携わる職業（教員・保育者・児童厚生員等）、実践者（子ども会、NPO等）、子どもの育ち・学校外教育に関心のある方	受講者数	延べ73名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	—
会場	①～⑦ 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室		
日時	講師	所属	実施概要
①平成29年7月12日(水) 18:30～20:30	深作 拓郎 氏	弘前大学生涯学習教育研究センター講師	一冊の本を手掛かりに、子どもの成育環境についての的確に捉えながら、自由に意見を交わすことで相互学習を深めることで、地域支援のあり方について考察し、各自の実践に反映できるようにする。
②平成29年8月9日(水) 18:30～20:30			
③平成29年9月13日(水) 18:30～20:30			
④平成29年10月11日(水) 18:30～20:30			
⑤平成29年11月8日(水) 18:30～20:30			
⑥平成29年12月13日(水) 18:30～20:30			
⑦平成30年1月10日(水) 18:30～20:30			







地(知)の拠点

参加無料

子どもの育ちを考えるゼミナール

一冊の本を手掛かりに、子どもの成育環境について自由に意見を交わすことで相互学習を深めていきましょう。

*** 対象 ***
子どもに携わる職業（教員・保育者・児童厚生員等）、実践者（子ども会・NPO等）
子どもの育ち・学校外教育に関心のある方 15名程度



*** 日時 ***
7月～1月の毎月第2水曜日 18:30～20:30
①平成29年7月12日(水) ②平成29年8月9日(水)
③平成29年9月13日(水) ④平成29年10月11日(水)
⑤平成29年11月8日(水) ⑥平成29年12月13日(水)
⑦平成30年1月10日(水)

*** 会場 ***
弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室
(人文社会科学部 3階)

*** 受講料 ***
無料（テキスト代を別途徴収）

*** 主催・講師 ***
弘前大学生涯学習教育研究センター
深作 拓郎(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)

*** 申し込み・お問い合わせ先 ***
弘前大学生涯学習教育研究センター
TEL・FAX: 0172-39-3146 【受付時間 10:30-16:00(平日)】
E-mail: sgcenter@hirotsaki-u.ac.jp 申込締切日: 7月5日(水)

※ お寄せ頂いた個人情報の管理には万全を期しております。
本学事業の目的以外に使用することはありません。

子どもの育ちを考えるゼミナール 事後評価

深 作 拓 郎
(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)

企画・構想

この事業は、2009年度からスタートした「子どもの育ちを考えるゼミナール」が基礎となり、2014年度から現在のスタイルとなった。

世代や立場を超えて子どもの成育環境についての的確に捉えながら、自由に意見を交わし相互学習を深めることで、地域支援のあり方について考察し、各自の実践に反映できるようにすることを目的に開催した。

準備の過程

例年同様、過去の受講者・学校、児童館・放課後児童クラブ（学童保育）、公共施設等にチラシを配布し、定員である15名の参加が得られた。そのうち、前年度からの継続参加者は8名であることから、継続的に学習に参加する意欲の高い受講者層であることが伺える。新規の受講者全員が現職の児童厚生員、保育士、教員と有職者であり、自身の仕事に活かす（視野拡大）ことを目的に参加した模様である。

事業について

今年度も6月からスタートし1月までの7回連続の講座（毎月第2水曜日）として開催した。今回は、西川正『あそびの生まれる場所－「お客様」時代の公共マネジメント』ころから、2017年、をテキストとした。毎回指定された受講者（当番制）が、指定箇所をレポートし、受講者間で議論をして深め合っていた。「当事者性」の育成と「円卓（議論の場）」の場づくりが協働であることが受講者が理解できたことが大きい。

今後の課題・展望

社会人を対象としたゼミナール形式の講座は、自身の考えを言葉・文字にし、相手の意見や想いを聞き取れるようになるスキルが形成されるという点で意味の大きさを実感するとともに、そのスタイルの意義を確立させることができたように思う。

しかし、とりわけ有職者が事前に本を読んでこのゼミに参加する、当番に当たればレジュメを作成して当日報告するということへの時間的・精神的負担の大きさも明らかとなり今後の課題となった。

また、自身の（市民）活動に活かしたいという目的での参加と仕事に活かすことを目的に参加した受講者とは、学習に対する意欲・態度の違いが大きく「参加者間のネットワーク形成」「協働で何らかの実践への機運」が醸造されるなどの発展が見られなかった。

ゼミナールのあり方、有職者の職種に応じた学習プログラムの開発、受講者層の変化に対応したコーディネートのあるあり方を検討していく必要がある。

青森市社会教育関係職員スキルアップ研修会

対象者	市民センター、公民館等職員、生涯学習推進員、社会教育委員	受講者数	延べ68名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	青森市教育委員会	
会場	①～②中央市民センター、③沖館市民センター			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成29年6月29日(木) 13:30～15:30	松本 大 氏 野口 拓郎 氏	弘前大学教育学部 准教授 弘前大学COC 推進室 助教	「公民館って何? - 職員の役割とは-」	市民センター・公民館における社会教育活動を充実するため、社会教育事業の実施に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等について研修を行い、市民センター・公民館関係職員の資質の向上及び相互の連携を図る。
②平成29年7月21日(金) 13:30～15:30	平井 太郎 氏	弘前大学地域社会 研究科 准教授	「地域の宝を分かち 合うには?」	
③平成29年9月28日(木) 13:30～15:30	松本 大 氏 野口 拓郎 氏	弘前大学教育学部 准教授 弘前大学COC 推進室 助教	「地域をもっと元気 にするために-市 民センター・公民 館ができること-」	



①「公民館って何？—職員の役割とは—」

講師：松本 大（弘前大学教育学部 准教授）
野口 拓郎（弘前大学COC推進室 助教）

有効回答票数：24票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
公民館の理念	7	15	2		
公民館の役割	11	11	2		
公民館の課題	10	13	1		
ワークショップの方法	14	9			1

②「地域の宝を分かち合うには？」

講師：平井 太郎（弘前大学地域社会研究科 准教授）

有効回答票数：22票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
公民館の理念	10	9		2	1
公民館の役割	4	13	3	1	1
公民館の課題	5	13	3		1
ワークショップの方法	19	2			1

③「地域をもっと元気にするために—市民センター・公民館ができること—」

講師：松本 大（弘前大学教育学部 准教授）
野口 拓郎（弘前大学COC推進室 助教）

有効回答票数：15票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
公民館の理念	9	6			
公民館の役割	8	7			
公民館の課題	9	6			
ワークショップの方法	12	3			

参加した動機・理由（複数回答可）

	第1回	第2回	第3回
職員として自分の知識やスキルを高めたい	11	11	9
公民館の事業や運営をよりよくしたい	13	6	5
地域の課題解決に役立てたい	3	4	2
上司に参加するようすすめられたから	7	5	4
友人・知人からすすめられたから			
研修に参加することは、当然だと思っていたから	7	5	5
前にも研修会に参加して参考になったから		4	6
その他：			

「青森市社会教育関係職員スキルアップ研修会」内容評価について

小形圭史

(青森市教育委員会事務局社会教育課)

本事業は、市民センター・公民館における社会教育活動を充実するため、職員として社会教育事業の実施に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等について研修を行い、市民センター・公民館関係職員の資質の向上及び相互の連携を図ることを目的としています。

平成27年度から開催している本事業は今年度で3年目となりますが、あらためて基礎的な部分から知識を習得していただくため、弘前大学と共催で本事業を行うこととしました。

全3回で開催した研修会はワークショップ形式で行い、公民館とは誰のための何のための施設なのか、そのための職員の役割とは何か、など公民館職員としての基礎的なことや、地域課題を見つけるための方法や身近なものの見方、考え方を学び、1回目、2回目の研修を踏まえ、実際にどうすれば地域づくり・地域活性化をすることが出来るのかを受講者の方に市民センター・公民館で開催する想定で講座を企画してもらうなど実践的な内容で研修会を行いました。

本市の市民センター・公民館職員は主婦の方が多く、社会教育の基本的な部分を理解できていない方が多いと感じておりましたので、今回のような地域課題や魅力、地域住民の生活・教育課題を引き出す問題抽出・課題解決型講座を開催したことで、職員の気づきになった部分は多かったものと思われます。

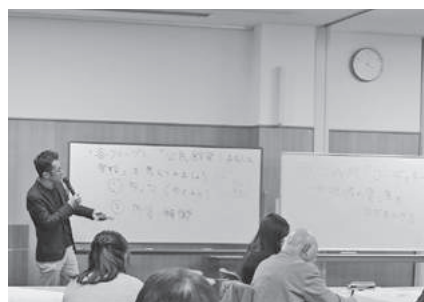
実際に、各回のワークショップでの受講者の発言力は思っていた以上であり、自分たちが市民センター・公民館の講座運営をしていくうえでのスキルは多少なりとも身についたのではないかなと思っております。

唯一の課題としては、各市民センター・公民館の運営（出勤）はシフト制であり、どうしても同じ参加者を出すのが難しいという点です。

研修を企画する側とすれば、全3回を通じて理解していただく内容であるため、欠席をしたり、出席しても前回と出席者が異なる、などの場合は受講者に身につけていただく必要な内容が中途半端なものになってしまうのが担当としては残念であったため、来年度以降はこれらの状況を踏まえて、多くの方に受講していただこうと思っております。

今後は、学校支援・放課後子ども教室のコーディネータースタッフについて、公民館職員（スタッフ）との連携を深めるための研修も行っていきたいと思っているため、受講者の方にあらためて社会教育全体を理解し、より資質を向上できるような研修会を弘前大学と連携し、開催したいと考えております。

弘前市公民館関係職員研修会				
対象者	公民館職員、生涯学習担当職員、社会教育委員		受講者数	延べ116名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	弘前市教育委員会
会場	①弘前市立高杉公民館、②弘前大学創立50周年記念会館 2F 岩木ホール、③弘前大学大学会館 3F 大集会室			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成29年7月25日(火) 13:30～16:00	竹浪 敦 氏 佐藤ゆき子 氏 松本 大 氏	新和公民館 青年教育指導員 高杉公民館 社会教育指導員兼事務長 弘前大学教育学部 准教授	「公民館って何? - 公民館の魅力を変えて考えてみよう -」	今日、健康問題や教育問題、地域活性化、住民の「絆づくり」など、様々な課題が生じている。こうした中で、市内地区公民館や全国の公民館の活動の実践例などをもとに、社会教育・生涯学習の担当職員として必要とされる専門的知識・技能の修得を目指します。
②平成29年12月13日(水) 14:00～16:00	齋藤 有 氏 松本 大 氏	黒石市立中郷小学校 校長 弘前大学教育学部 准教授	「学校と公民館の連携を進めるには - 学校のことを聞いてみよう -」	
③平成30年1月23日(火) 14:00～16:00	近藤 史 氏 松本 大 氏	弘前大学人文社会科学部 准教授 弘前大学教育学部 准教授	「地域課題の見つけ方・活かし方 - 大学生と一緒にできること、考えてみませんか? -」	



①事例発表：「新和公民館における青年活動について」

竹浪 敦（新和公民館 青年教育指導員）

「小中学校との連携事業の紹介」

佐藤 ゆき子（高杉公民館 社会教育指導員兼事務長）

講義+WS：「公民館って何？－公民館の魅力を変えて考えてみよう－」

講 師：松本 大（弘前大学教育学部 准教授）

有効回答票数：44票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
公民館の理念	23	17	2		2
公民館の役割	23	19	1		1
公民館の課題	19	23	1		1
ワークショップの方法	26	17			1

②「学校と公民館の連携を進めるには－学校のことを聞いてみよう－」

講 師：齊藤 有（黒石市立中郷小学校 校長）

松本 大（弘前大学教育学部 准教授）

有効回答票数：23票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
公民館の理念	11	11			1
公民館の役割	12	9	1		1
公民館の課題	7	15			1
ワークショップの方法	13	8	1		1

③「地域課題の見つけ方・活かし方－大学生と一緒にできること、考えてみませんか？」

講 師：近藤 史（弘前大学人文社会科学部 准教授）

松本 大（弘前大学教育学部 准教授）

有効回答票数：24票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
公民館の理念	12	11	1		
公民館の役割	7	16	1		
公民館の課題	15	9			
ワークショップの方法	13	10	1		

参加した動機・理由（複数回答可）

	第1回	第2回	第3回
職員として自分の知識やスキルを高めたい	30	11	10
公民館の事業や運営をよりよくしたい	22	10	12
地域の課題解決に役立てたい	16	11	9
上司に参加するようすすめられたから	5	3	4
友人・知人からすすめられたから			6
研修に参加することは、当然だと思っていたから	10	9	4
前にも研修会に参加して参考になったから	8	5	5
その他：		1	

平成29年度 弘前市公民館関係職員研修会 事後評価

古 川 五 月
(弘前市教育委員会生涯学習課)

○企画・構想

公民館関係職員には、地域づくり、地域課題解決に向け、多様化する住民の学習ニーズに対応するために必要とされる知識や技能の修得がこれまで以上に求められている。

平成29年度は、第1回目は地区公民館を会場に青年活動や地域資源を小中学校と連携して活用する事例紹介を基に公民館の魅力を探り、第2回目、第3回目は弘前大学内の会場において公民館と学校の連携、地域課題の見つけ方や課題をあげることにより公民館が目指す、より良い公民館のあり方、意識を高めることを目的に企画した。

○準備の過程

中央公民館（岩木館・相馬館含む）及び市内12地区公民館、学区まなびいと社会教育委員へ案内文書の送付を基本とし、更に参加を促すことや情報の到達まで差異が生じないようにする目的で一斉メール送信によって積極的な参加と所属長へ職員派遣の配慮を依頼し、募集した。講師・コーディネーターは、弘前大学から教育学部准教授 松本大先生、人文社会科学部准教授近藤史先生、また学校に関する講師は、黒石市立中郷小学校校長齋藤有先生に御協力いただき、円滑に進めることができた。

参加者の内訳では、職務経験が1年未満の方が35%、7年以上の方が30%の割合で、それぞれ、初任者の学習ニーズを反映し、経験豊富であり、かつ職員をけん引する立場の館長の参加が顕著だったといえる。

○事業について

第1回目の研修では2館の事例発表を行ったが、青年教育の事例は受講者にもインパクトのある内容であったほか、単に他館職員にとって参考になっただけでなく、発表を行った職員自身も、発表の準備を進める過程において地域と公民館の関係や地元の学校について、新たな発見があり、地域課題を見出すきっかけにもなっていた。更に、プレゼンそのものに期待される効果として、伝えるためには多くの準備が必要となること、伝える難しさについて、より理解を深め、能力向上に資する研修となっていた。

一方、ワークショップでは参加者がグループ内で意見を出し合っていたが、第2回目、第3回目の研修では、やや活発さに欠ける印象があった。

○今後の課題・展望

次年度の課題として、より多くの職員、特に経験年数が2年以上7年未満の層の職員が参加するために開催時期・時間・場所などの物理的要因も考慮に入れることはもちろん、より活発なワークショップとなるよう職員間のつながりを意識できるような雰囲気づくり、また年度内で継続して参加を促す何らかの工夫が、更なる効果を上げるために必要とされていることも見えた。

内容面に関しては、関係職員が新任者に限らず公民館の基本的理念や役割などを改めて認識する場面設定や通常業務をこなす中で、身に付けたいスキルなどの声にも耳を傾けながら、充実した研修としていきたい。

三沢市講演会「Powerful Voices and Learning for Students in 三沢 ～映像をつくって自分たちの想いを伝えよう～」

対象者	中・高校生	受講者数	延べ 50名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	三沢市教育委員会
会場	①～③ 三沢市国際交流教育センター		
日時	講師	所属	実施概要
①平成29年8月7日(月) 18:00～20:00	森本 洋介 氏	弘前大学教育学部 講師	<p>三沢市内には2校の中等教育機関を有する。高等学校卒業後の進路を調査したところ、約80%の生徒が進学（専門学校含む）していることが明らかとなった。在学中、将来の進路選択で迷っている生徒にとって、「大学でどのようなことを学ぶのか」を知ることは、学問への興味や関心を広げるという点においても大変貴重なものとする。</p> <p>そこで、10代を中心とする青少年が、自己表現のツールとして映像制作を企画・計画し、さらに撮影体験を通して、豊かな感性を育て、映像で伝える手法を学ぶとともに、作品をフィードバックし、映像が伝える姿について理解を深め、青少年同士のつながりを形成する場とする。また、大学生など少し年上の先輩と身近に関わることで、将来への可能性を引き出し、将来に向けた行動と動機付けることを目的とする。</p>
②平成29年8月8日(火) 18:00～20:00			
③平成29年8月18日(金) 18:00～20:00			



Powerful Voices and Learning for Students
in
MISAWA

映像 をつくって自分たちの**想い**を伝えよう。

中学・高校生のみなさん!!!
弘前大学の先生と学生と一緒に取り組める
映像制作ワークショップに参加しませんか?
今回初めて中学生を対象とした弘前大学講座です!
ぜひこの機会に一步、踏み出してみませんか?

日時 8月7日(月)・8月8日(火)・8月18日(金)

場所 三沢市国際交流教育センター 18時～20時

対象・定員 中学生・高校生 30名

参加料 もちろん無料!

講師 弘前大学教育学部 森本 洋介 先生

申込み 下記お問合せ先まで、
Eメール・電話・FAXのいずれかでお申込みください!

期限 7月28日(金)

お問合せ 〒033-8666 三沢市桜町1-1-38
三沢市教育委員会 生涯学習課
TEL : 0176-55111 内線379
Fax : 0176-52-3963
E-mail : msw_shougai@misawashi.aomori.jp

「Powerful Voices and Learning for Students in 三沢
 ～映像をつくって自分たちの想いを伝えよう～」(全三回)

講師：森本 洋介 (弘前大学教育学部 講師)

有効回答票数：15票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	13	2			
内容	13	2			
資料	13	2			
話し方	14	1			
雰囲気	14	1			

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男	3							1
女	10							1
無回答								

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌								
新聞								
DM								
テレビ・ラジオ								
知人から	13							1
インターネット								
その他								1
無回答								

三沢市公開講座（平成29年8月7～8・18日実施）【内容評価書】

テーマ：「Powerful Voices and Learning for Students in 三沢 ～映像をつくって自分たちの想いを伝えよう～」

豊川 奈津子
(三沢市教育委員会 生涯学習課)

1. 企画・構想

当市は身近に大学が無いことから、市民が気軽に大学講座を受講できる事業として、平成14年度から成人を対象に毎年実施してきた。しかし、ほかの類似事業もあり、成人向けの講座が充実していることと、若者向けの学びの場の提供が希薄であることから、今回は中高生を対象とする企画とした。大学生とのつながりを早期に形成することは、進路選択で悩みつつも将来の夢を抱き、もっと知りたいという意欲を持つ子どもにとって、大変貴重であると考えた。次代を担う中高生が、学問への興味・関心、そして意欲を持ち、将来に向けた行動と動機付けの場とすることを目的とした。また、大学生のほか、他校の生徒とコミュニケーションを図りながら、テーマの映像というツールを用いて、「社会に対して言いたいこと」を話し合う場、その想いを映像作品としてまとめ上げる作業は、他人を受け入れ、自分と向き合う体験の場となることを期待した。

2. 準備の課程

広報については、ちらしを作成し、全中学校の生徒と2校の高校へ配付した。その他、広報みさわ8月号へ案内記事を掲載するとともに、市のホームページやマックTVにて周知を図った。大学や講師との連絡調整については、電話もしくはメールにて、連絡調整を図り、スムーズであった。

3. 事業（公開講座）

対象者や目的に応じた内容となった。自分で考えることには限界があり、様々なことをほかの人から学び課題解決策を探っていく必要性を多くの参加者が感じた講座となった。また、コミュニケーション力の重要性や難しさを感じながら、大学生との関わりを持ち、映像作品の完成に向けて取組むことが出来た。

対象とした中高生の受講については、中学生の受講は得られなかったものの、男子生徒4名と女子生徒11名の合計13名の高校生が参加し、延べ50名の受講を得ることができた。

4. 達成度・到達度

大学生を交えて、他学年や他学校生徒がグループを組み、自分の意見を伝える、他人の意見を聴く、そしてまとめ、映像作品を仕上げる課程で、コミュニケーション力の大切さや他人に伝えることの難しさなど、参加者は多くの気づきを得ることが出来た。また、その気づきの多くが、参加者自身の今後において生かすことができると実感し、事業目的はほぼ達成したと感じる。アンケート内容からは、「いろいろな人と関わりを持ち、成長していきたい。」「学校でも積極的に意見を言えるようにしたい。」「違う角度から物事を見てみたい。」など、将来における意欲や前向きな行動が期待できると感じた。

5. 今後の課題・展望

講座の開始時間が夕方からのためか、中学生の参加が得られなかったことが課題である。また、周知方法についても、案内等を早めにとりかかるなど検討する必要がある。今後、中高生の将来に向けた意欲的な学びや自分にもできるという感覚を持って取組を継続できるようにする。そして、社会から期待される人材の育成を目指すものとする。

託児付の育児支援連続講座「パパラボあそび研究所 Vol.2 チビタビのすすめ」

対象者	これから育児に取り組みたいと考える男性、育児に取り組んでいる男性、男性の育児の支援に関わる関係者等	受講者数	延べ19名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	弘前市	
会場	①～③ ヒロロ3階 駅前こどもの広場多目的室 ※②は弘南バスターミナル見学あり			
日時	講師	所属	演題	実施概要
①平成29年9月2日(土) 10:30～12:30	西川 正 氏	特定非営利法人ハ ンズオン埼玉 代 表理事	「あそびの生まれる 場所－あそびや対 話がうまれる風景 を探る」	父親対象の育児参加 促進事業の2年目である 今回のテーマは「た び」。
②平成29年9月9日(土) 10:30～12:30	大野 悠貴 氏	弘南バス(株)・ バスぷら博士	「路線バスのイロハ ー今日からはじめ る弘南バスのチビ タビ」	①弘前市とその近隣 で、②子どもも父親も 機嫌よく過ごせる、③ 自家用車ではなく徒歩 や自転車、公共交通を 使って、④ひとり当 り500円程度で気軽に 出かけられる、⑤地域 の面白いものを発見し たり、地域の人との交 流もできる。
③平成29年10月14日(土) 10:30～12:30	深作 拓郎 氏	弘前大学生涯学習 教育研究センター 講師	「チビタビ報告会－ 発見したお勧めポ イントを紹介して 共有しよう」	手軽に気軽に父と子 の楽しい時間を過ごす コツを一緒に考える時 間にしていく。



駅前こどもの広場託児付き子育て支援講座

今年もやります!!!

パパラボあそび研究所 vol.2

～お父さんとチビ(お)がチビと9ビをしよう～

今回のテーマは「たび」。徒歩や自転車、バスなどの公共交通、いつも違うのりものを使って、どきどきするような発見、パパと子どもが楽しい時間を過ごすコツを見つけませんか？
3回シリーズのPAPAの講座を今年も開催します。埼玉の「あそびが生まれる場所」のお話や、バスのヒミツが知れたり、探検、とっておきのチビタビの報告など、たくさんの「わくわく」が待っています。

その1 平成29年9月2日 土曜日 10:30～12:30
「あそびの生まれる場所-あそびや対話がうまれる風景を探る」
講師：特定非営利法人ハズオン埼玉・代表理事 西川 正 氏

その2 平成29年9月9日 土曜日 10:30～12:30
「路線バスのイロハ-今日からはじめる弘南バスのチビタビ」
講師：弘南バス株式会社・バスぷら博士 大野 悠貴 氏
みんなでバスを探検できますよ。この回はママが一緒もOKです。

その3 ? 3回目はみんなで日にちを決めましょう!
「チビタビ報告会-発見したおすすめポイントを紹介しあおう!」

パパラボ：弘前大学生涯学習教育研究センター 深作 拓郎

場 所：駅前こどもの広場（駅前町9-20 ヒロロ3階）3回とも
対 象：これから育児に取り組みたいと考える男性、育児に取り組んでいる男性、男性の育児支援に関わる関係者等
申込先：弘前市駅前こどもの広場（駅前町9-20 ヒロロ3階）
電話 35-0156（先着順 20名（託児は15名））
託児の受付は8/28までとします。ただし定員になり次第締め切ります。
主 催：弘前大学生涯学習教育研究センター 弘前市駅前こどもの広場
協 力：弘南バス株式会社



① 託児付の育児支援連続講座「パパラボあそび研究所 Vol.2」
「あそびの生まれる場所—あそびや対話がうまれる風景を探る」

講師：西川 正（特定非営利法人ハンスオン埼玉 代表理事）

コーディネーター：深作 拓郎（弘前大学生涯学習教育研究センター 講師）

尾崎 暁子（弘前市駅前こどもの広場 主任保育士）

ファシリテーター：弘前大学教員・学生研究会「らぶちる—Love for children—」

有効回答票数：6票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	4	2			
パパ同士のコミュニケーション	1	4			1

② 「路線バスのイロハ—今日からはじめる弘南バスのチビタビ—」

講師：大野 悠貴（弘南バス株式会社・バスぶら博士）

有効回答票数：10票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	3	4	3		
パパ同士のコミュニケーション	1	3	4	1	1

③ 「チビタビ報告会—発見したお勧めポイントを紹介して共有しよう—」

講師：深作 拓郎（弘前大学生涯学習教育研究センター 講師）

有効回答票数：2票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	2				
パパ同士のコミュニケーション	2				

託児付の育児支援連続講座

「パパラボあそび研究所 Vol.2 チビタビのすすめ」内容評価書

尾崎 暁子

(弘前市健康福祉部子育て支援課駅前こどもの広場 主任保育士)

①企画・構想

弘前市では、女性の就業が多く、子育て支援センターでの状況などから、父親も育児に関わっている様子が多く見られる。市では経営計画の中で、少子化や、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みを行っており、父親の育児参加に関する講座は、子育て支援センターの事業としても必要だと考えている。

②準備過程

通常の告知に加え、市政だより・市ホームページでの掲載、アップルウェブへの告知など更に周知を行ったが、参集状況はあまりよくなかった。

過去の参加者にもPRする必要があるなどアピールの仕方に課題が残った。

③事業（公開講座）

第1回目から第3回目まで内容についてはアンケート自由記載などより、父親ならではの子育ての視点を学ぶ事ができたなど参加者の満足度は高いと考える。

第2回目でバスの乗車について、バスに乗って移動すると考えていた方からは、残念だという声が出た。

第2回目の公共交通機関の利用と子どもの発達に関する講義については関心が高かった。

今まで、利用した事のない参加者がいたので、新たな受講者層にはつながったと思われる。

弘前市は、都会と違いおとなしい父親が多いように思う。今回は参加人数が少なかったが、お母さん同士のつながりで参加したお父さん同士の交流が、回を進めるうちに強くなったと感じている。横のつながりの面では成果があった。

④達成度・到達度

参集者が少ないという課題は残ったものの、参加者については、「何気ないことを一緒にやる・見ることでいい。」「今までは子育てについて考えすぎていた。子供の目線で見れば、色々と楽しいことが見つかる」などの子育てに関する新たな視点の獲得や、公共交通機関を利用することで今までにない子どもとの関わり方の発見など、所期の目的を達成したと考えられる。

講座終了後に駅前こどもの広場入口に掲示しているマップは、閲覧する方も多く、講座への興味をひく効果もあると思われるため今後も継続していきたい。

パパだから出来ること、パパにも出来る事がたくさんある事に気づく事ができた講座だった。今までにない講座の内容で、今後も続けることで自信や仲間作りにきっと役立つと思う。

⑤今後の課題・展望

他の地域の拠点施設でもなかなか出来ない、弘前ならではの講座として、自慢できる内容だったと思う。

3回連続での参加や期限付きの宿題が忙しいパパには負担になったのではないかと。講座の間隔をもう少し長くするとか思いついた時に携帯で画像やコメントを気軽に送ることができるようにしたほうが良かったのかもしれない。その日に参加できなくても何かの形で協力し、継続参加できるようなシステムがあればと思う。

パパ講座については問い合わせもあり、ママの期待も大きいので、参加人数は少ないかもしれないが、続けていきたい。

父親の育児の関わりは母親に言われてやっている「やらされ感」が強く、父親が育児を楽しんでいる様子が感じられないように思う。父親が子育てを楽しむことができる視点の提供など、今後も父親の子育て参加について講座開催も含め情報発信を行いたい。

七戸町生涯学習地域連携講座「歌って踊って健康づくり」				
対象者	一般市民、民生委員、保健協力員	受講者数	38名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	七戸町教育委員会	
会場	七戸町中央公民館 大ホール			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成29年9月29日(金) 13:30～15:00	北嶋 結 氏	弘前大学保健学研究科 助教	「歌って踊って健康づくり」	町民、特に民生委員や保健協力員を対象に、容易に実践可能な運動を学習する機会を提供し、その運動を日頃介護予防教室等に参加することが無い方への訪問の際に実践し普及することで、多くの町民の運動機会を広げ、健康で生きがいのある人生づくりに資する。



弘前大学連携事業

生涯学習地域連携講座受講者募集

「歌って踊って健康作り」講座

日時 平成29年9月29日(金) 13:30～15:00

会場 七戸中央公民館 大ホール(七戸町字森ノ上 210 番地)

内容 演題: 「歌って踊って健康づくり」 ☆参加費無料☆
講師: 北嶋 結 先生 (弘前大学大学院保健学研究科 教授)

対象 民生委員、保健協力員、一般町民 40名

申込み方法 ①氏名、②郵便番号、③電話番号を明記の上、**FAX、Eメール**
または電話で申込みください。
〆切 平成29年9月22日(金)

申込み問合せ 七戸町教育委員会生涯学習課 担当: 今泉
■TEL 62-9702 FAX 62-6256
■E-mail: kyouko-imaizumi@town.shichinohe.lg.jp

主催: 弘前大学生涯学習教育研究センター / 七戸町教育委員会

「歌って踊って健康づくり」

講師：北嶋 結（弘前大学保健学研究科 助教）

有効回答票数：33票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	18	14			1
内容	16	15			2
資料	15	15			3
話し方	21	12			
雰囲気	21	11			1

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男						2	3	
女					3	11	8	
無回答						3	3	

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌						3	2	
新聞								
DM					1			
テレビ・ラジオ								
知人から								
インターネット								
その他					2	13	12	
無回答								

平成29年度 弘前大学連携事業

七戸町生涯学習講座「歌って踊って健康づくり」内容評価

今 泉 今日子

(七戸町教育委員会生涯学習課社会教育係)

①企画・構想

在宅高齢者の状況を民生委員・保健協力員から聞き取りを実施し、七戸町の現状を考慮した上で内容を検討したため、概ねニーズに応じた内容となった。

②準備過程

チラシの毎戸配布、民生委員・保健協力員への個別案内を実施し、周知については徹底したが、前年度から了承を得ていたはずの保健師の協力を、今年度に入り断られたため、当初考えていた企画を変更せざるを得なかった。横の連携の希薄さが露呈することとなった。

③達成度

講座のアンケートの結果は、「ふつう」以下の回答をした参加者は皆無であり、全員が全ての項目において満足している。実施後、参加者から、「とても楽しかった」という生の声が生涯学習課や社会生活課へ多く寄せられた。特に、講師の北嶋先生の講演内容、説明内容、人柄について評価するものが多かった。

事業実施後の成果目標としては、当方で次の内容を設定していた。

- (1) 運動プログラムの実施状況（「週に1回以上」が10%）
- (2) 生活習慣病の予防効果（「平均血圧の低下」と「体重の減少」が共に10%以上）
- (3) 民生委員、保健協力員については、普及活動の実施状況（30件以上）

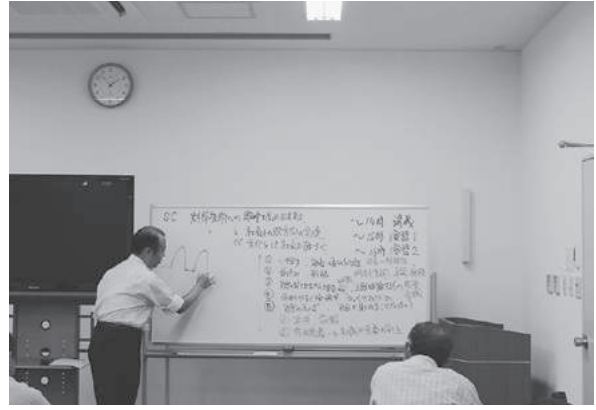
(1)については、回答のあった22人中5人が継続して実施しているという事であった。目標は週に1回以上実施者が10%であったので一応達成となったが、(2)はゼロ（不明）、(3)についてもゼロであったため、未達成となっている。

④今後の課題

各個人で学んだ内容や資料だけでは普及は難しいという意見が多かったので、前回の講座を基に実践しやすい簡易版のマニュアルを作成し、配布することが必要である。

また、生きがいづくりは健康な体があってこそ行えるものであり、連携が必要である事を組織内でも話し合っていく必要がある。

白神自然環境人材育成講座 第一期生			
対象者	白神山地で今やっている自分の活動を学術的にも考えたい人、白神山地をテーマに地域活性化に取り組みたい人		受講者数 第一期生7名 ※延べ249名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	-
会場	【4】・【7】 弘前大学総合教育棟 201講義室 【5】 弘前大学創立50周年記念会館 2階会議室2 【6】 弘前大学人文学部 1階会議室 【8】 (2/17座学) 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室 (2/27実査) 白神アグリサービス (鱈ヶ沢町)、藤里町役場 (藤里町)		
日時	講師	所属	実施概要
①～⑯ 平成29年4月11日(火) ～平成29年7月25日(火) 16:00～17:30	石川 幸男 氏 他 14名	弘前大学白神自然環境研究所 教授	【4】 青森の自然－白神学Ⅰ－
①平成29年7月11日(火) 17:40～19:10 ②平成29年7月18日(火) 17:40～19:10	石川 幸男 氏	弘前大学白神自然環境研究所 教授	【6】 世界自然遺産論
①平成29年8月19日(土) 10:00～12:00 13:00～16:00 ②平成29年8月20日(日) 10:00～12:00 13:00～16:00	中村 剛之 氏 佐藤 崇之 氏 呉 書雅 氏 今村かほる 氏	弘前大学白神自然環境研究所 准教授 弘前大学教育学部 准教授 弘前大学 非常勤講師 弘前学院大学 文学部 教授	【5】 自然ガイド実践論
①～⑯ 平成29年10月3日(火) ～平成30年1月30日(火) 16:00～17:30	伊藤 大雄 氏 他 4名	弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター 准教授	【7】 地球環境－21世紀の地球環境問題②－
①～③ (座学) 平成30年2月17日(土) 13:00～14:30 14:40～16:10 16:20～17:50 ④ (実査) 平成30年2月27日(火) 10:30～17:00	石塚 哉史 氏	弘前大学農学生命科学部 准教授	【8】 白神ブランド戦略論 ※第一期生・第二期生合同



【5】自然ガイド実践論



【6】世界自然遺産論

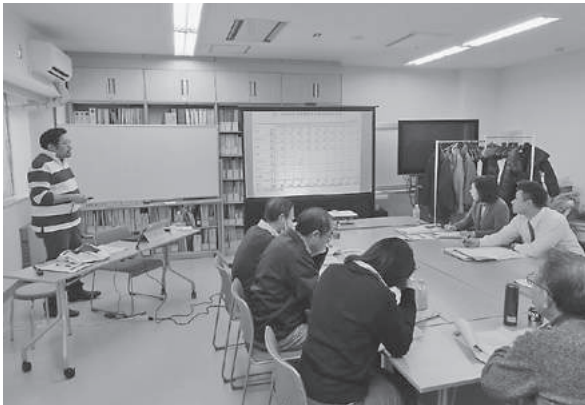


【8】白神ブランド戦略論 ※第一期生・第二期生合同

白神自然環境人材育成講座 第二期生			
対象者	白神山地で今やっている自分の活動を学術的にも考えたい人、白神山地をテーマに地域活性化に取り組みたい人		受講者数 第二期生3名 ※延べ50名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	-
会場	【1】 弘前大学総合教育棟 404講義室 【2】 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室 【8】 (2/17座学) 弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室 (2/27実査) 白神アグリサービス (鱒ヶ沢町)、藤里町役場 (藤里町)		
日時	講師	所属	実施概要
①～⑬ 平成29年10月6日(金) ～平成30年2月9日(金) 16:00～17:30	石川 幸男 氏 中村 剛之 氏	弘前大学白神自然環境研究所 教授 弘前大学白神自然環境研究所 准教授	【1】 生物学の世界 - 生物多様性とその保全 -
①平成30年1月19日(金) 17:40～19:10 ②平成30年1月26日(金) 17:40～19:10 ③平成30年2月2日(金) 17:40～18:40	石川 幸男 氏 中村 剛之 氏	弘前大学白神自然環境研究所 教授 弘前大学白神自然環境研究所 准教授	【2】 白神保全論
①～③ (座学) 平成30年2月17日(土) 13:00～14:30 14:40～16:10 16:20～17:50 ④ (実査) 平成30年2月27日(火) 10:30～17:00	石塚 哉史 氏	弘前大学農学生命科学部 准教授	【8】 白神ブランド戦略論 ※第一期生・第二期生合同



【2】白神保全論



【8】白神ブランド戦略論 ※第一期生・第二期生合同

総合文化祭事業「大学生と語り合おう らぶちるカフェ」			
対象者	中学生、高校生	受講者数	延べ54名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	-
会場	弘前大学生涯学習教育研究センター多目的室		
日時	講師	所属	実施概要
①平成29年10月28日(土) 10:00～16:00 ②平成29年10月29日(日) 10:00～16:00	深作 拓郎 氏 弘前大学教員・ 学生研究会 「らぶちる - Love for children -」	弘前大学生涯学習 教育研究センター 講師	中高生を主対象に、日常のことや学校での生活や友人関係などについて大学生と語り合う「サロン形式」の交流会。 従来、成人が主対象であった生涯学習事業を、大学生が企画・運営し、総合文化祭に来場する小～高校生世代が利用するスタイルを採ることにより、研究(者)だけに捉われない大学が有する「シーズ」と地域の「ニーズ」の掘り起しを行うことをねらいとする。



総合文化祭「らぶちるカフェ」事後評価

深 作 拓 郎

(弘前大学生涯学習教育研究センター 講師)

企画・構想

この事業は、学生主体で行っているもので、今回で6回目（6年目）を迎えた。当初は、「こどもを守る文化会議」の子どもフォーラムの前哨戦として企画したものであったが、大学祭においても日常においても予想以上に中高校生の居場所が少なく、ニーズが高いことから継続して開催している。

準備・当日

総合文化祭で行っていることはもちろんのこと、事業の性質から広報等は行っていない。また、昨年度と同じ会場で開催していることから、準備の過程でも特に支障なく実施できた。

広報を行っていないにも関わらず、常連の中・高校生を中心に約40名の来場があり、日常のことや抱えている悩みなどについて大学生と語り合った。かなり深刻な悩みを打ち明ける（6年目にして）中学生もいたが、適切に対応できていたのではないかと思う。


今後の課題・展望

中高校生を中心に地域の子どもたちの居場所の常設開設が必要であることは明白である。とりわけ「ナナメの関係」とされる大学生が取り組むことの意義は大きく、学生からも定期開設の声は挙がっているが実施には至っていない。その最大の理由は、実習等が増えたことにより学生たちの時間確保が難しくなっていることと、開設場所が見つからないことの2点である。今後も検討を続け、定期開設をめざしていきたい。


放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会 「子どもにとっての「放課後の世界」と子どもにとっての 「指導員」のあり方を考える」

対象者	児童館の児童厚生員、児童クラブやなかよし会などの学童保育に携わる放課後児童支援員、放課後子ども教室のスタッフ他（一般可）	受講者数	延べ63名	
主 催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共 催	弘前市	
会 場	①、② ヒロロ4階 弘前市民交流館ホール			
日 時	講 師	所 属	演 題	実施概要
①平成29年11月2日(木) 10:00～12:00	水野かおり 氏	東京都台東区松が谷児童館 館長	「子どもにとっての放課後とは－居場所としての児童館・児童クラブにしていくために－」	利用が増加している学童保育のなかよし会や児童館等のスタッフ等を対象とし、子どもたちにとって居心地の良い居場所や環境がどのようなものを学ぶ機会とする。昨年度は具体的な遊び方の方法を学んだので、今年度は、子どもたちの視点に立った指導員のあり方を学び、子どもを取り巻く環境の向上を目指す。
②平成29年11月16日(木) 10:00～12:00	渡邊 由貴 氏	仙台市館児童センター 児童厚生員	「子どもにとっての児童厚生員・放課後支援員－指導員同士の学びあい・育ちあい－」	





放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会



子どもにとっての「放課後の世界」と 子どもにとっての「指導員」のあり方を考える

この研修会では子どもにとって、居心地の良い居場所や環境がどのようなものかを学びます。子どもたちの視点に立った放課後の世界や指導員について学び、子どもを取り巻く環境の向上を目指します。
学校でも家庭でもない、子どもにとって大切な場所を一緒に考えます。

11月2日(木)
10:00～12:00

≪講演テーマ≫
「子どもにとっての放課後とは
－居場所としての児童館・児童クラブにしていくために」(仮)

≪講師≫水野 かおり氏 (東京都台東区松が谷児童館・館長)
≪コーディネーター≫
深作 拓郎氏 (弘前大学生涯学習教育研究センター講師)

11月16日(木)
10:00～12:00

≪講演テーマ≫
「子どもにとっての児童厚生員・放課後支援員
－指導員同士の学びあい・育ちあい」(仮)

≪講師≫渡邊 由貴氏 (仙台市泉区館児童センター 児童厚生員)
≪コーディネーター≫
深作 拓郎氏 (弘前大学生涯学習教育研究センター講師)

場 所 弘前市民文化交流館ホール (駅前町9-20 ヒロロ4階)

定 員 40名 (定員になり次第締め切り) **受講料** 無料

対 象 児童館の児童厚生員やなかよし会などの学童保育のスタッフ、放課後子ども教室のスタッフ、希望する一般市民

≪主 催≫ 弘前大学生涯学習教育研究センター・弘前市
≪問い合わせ先≫ 弘前市子育て支援課子育て戦略担当 TEL: 0172-40-7038

①「子どもにとっての放課後とは－居場所としての児童館・児童クラブにしていけるために－」

講師：水野 かおり（東京都台東区松が谷児童館 館長）

有効回答票数：18票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	15	3			

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男5人・12人		1	5	3	4	4		
無回答1人								1

②「子どもにとっての児童厚生員・放課後支援員－指導員同士の学び合い・育ち合い－」

講師：渡邊 由貴（仙台市館児童センター 児童厚生員）

有効回答票数：43票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
満足度	36	4			

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男5人・35人		5	13	8	10	4		
無回答3人								3



「放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会」内容評価書

原 直 美

(弘前市健康福祉部子育て支援課 子育て戦略担当)

①企画・構想

弘前市では児童数の減少はあるものの、女性の就業率が高いためか放課後児童クラブの利用者数は増加している。児童館・児童センターでは放課後児童クラブ、児童館等がない地域では学校等を利用した学童保育（なかよし会）を実施している。子どもが放課後の時間を適切に過ごすために、支援する指導者等の資質向上が必要だと考えている。

②準備過程

児童館・児童クラブを運営している指定管理者の職員やなかよし会の職員などが多数参加したほか、一般の参加もあり、今回のテーマについて興味が高いことが分かった。参加の動機としては、「学びたい」「指導のヒントをつかみたい」などの積極的な動機が多かった。

③事業（公開講座）

第1回目11月2日（木曜日）午前10時から12時

内容：・子どもを取り巻く社会環境の変化、国の施策の変化、

- ・児童館に求められていること、職員に求められていること
- ・居場所づくりのワークショップ（「居場所」に対するイメージと現在の状況、これからについて）

館長の立場から、児童館・児童センターの運営をどうしていくべきかというお話や、自分たちが放課後の居場所をどのように考えるかのグループワークショップを行った。

第2回目11月16日（木曜日）午前10時から12時

内容・「少人数で遊ぼう」目隠し列車、なべなべそこぬけ、背中合わせなど

- ・「仲間と遊ぼう」じゃんけんベースボール、手つなぎおに、ふえるふえるおにごっこなど
- ・館児童センターの実践

体を使った遊びを自分たちが体を動かしながら学んだ。遊びのルールを工夫していくことで、人数やスペース、年齢などに上手く対応していくことも学んだ。

④達成度・到達度

第1回目、第2回目の内容についてはアンケート満足度では、1回目83%が満足、17%がやや満足。2回目は90%が満足、10%がやや満足であった。自由記載も含め、講義が主となった第1回目も、からだを動かす遊びを実践的に学ぶ第2回目も参加者の満足度は非常に高かった。

第1回目では、指導員の子どもや親に対する言葉かけの仕方を具体的に学び、第2回目では具体的な遊びのメニューとそのアレンジの仕方などを学ぶことができたものとする。

⑤今後の課題・展望

3年間の事業の実施を行い、放課後児童クラブ等に係る職員等が、意欲を持って新たな知識の獲得に向かっていることが確認できた。理論や実践など研修会では指導のヒントをつかむことができたものとする。しかし、個々の資質向上には長い時間が必要だと考えられる。

講義を聴いて終わりにせず、現場で学んだことを生かしていくために、今後は、自分たちの現場で実践する研修を取り入れながら、更なるスキルアップに努めていきたい。

つがる市講演会 「第37回西北郡・五所川原市・つがる市 民生委員・児童委員合同研修会」				
対象者	西北郡・五所川原市・つがる市 民生委員・児童委員		受講者数	216名
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター		共催	つがる市教育委員会
会場	つがる市生涯学習交流センター「松の館」			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成29年11月21日(火) 14:20～15:10	北嶋 結 氏	弘前大学保健学研究科 助教	「地域の福祉について～無口な高齢者との接し方を考える～」	一人暮らし、地域の連帯感の希薄化、認知症の発症などにより、無口でコミュニケーションが取りづらい高齢者が増えてきている。そのような高齢者とのコミュニケーションの取り方について考える。



「地域の福祉について～無口な高齢者との接し方を考える～」

講師：北嶋 結（弘前大学保健学研究科 助教）

有効回答票数：91票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	10	24	20	13	24
内容	12	34	21		24
資料	13	28	22	5	23
話し方	11	31	17	6	26
雰囲気	10	30	20		31

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男					1	19	17	
女				3	4	28	8	1
無回答					2	5	3	

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌						2	3	
新聞							1	
DM						1		
テレビ・ラジオ					1		1	
知人から								
インターネット								
その他				3	6	44	20	1
無回答						5	3	

第37回西北郡・五所川原市・つがる市民生委員児童委員合同研修会

「地域の福祉について～無口な高齢者との接し方を考える～」内容評価書

越後谷 嶺

(つがる市教育委員会社会教育文化課 主査)

1、企画・構想

高齢者との接し方を考えるうえで、コミュニケーションとは何か掘り下げることができる内容であった。

2、準備過程

西北郡・五所川原市・つがる市の各民生委員児童委員連絡協議会の会員や事務局職員に参加募集を行った。

講義の演題は、開催地のつがる市民生委員児童委員連絡協議会の会議で出された課題の中から選択し決定した。

3、事業（公開講座）

コミュニケーションについて掘り下げた講義であったため、知識を得るという点では十分な内容であった。

4、達成度・到達度

概ねの参加者にとっては、コミュニケーションについての知識や無口でとつきにくい高齢者との接し方について何かしら得るものはあったようである。

しかし、そのような高齢者に対応した具体的事例やエピソードが聞きたかったという声もあがった。

また、一部の参加者からは講演や資料の内容が難しく理解できなかったという感想があがった。

5、今後の課題・展望

参加者の理解度にばらつきがあったことが今回の反省点であると感じた。

講演内容と参加者が求める内容にギャップがあったことが原因と推測される。

そのギャップを埋めるためには、民生委員児童委員連絡協議会と講師側との間で設定した演題に対するすり合わせがもう少し必要だったように思える。

事務担当者として、積極的に双方に働きかけて設定した演題に対してのギャップの埋め合わせに努める必要があることを反省した。

つがる市講演会 「地域農業について考える—国際化が進展する中での青森の食と農—」				
対象者	一般	受講者数	23名	
主催	弘前大学生涯学習教育研究センター	共催	つがる市教育委員会	
会場	つがる市生涯学習交流センター「松の館」視聴覚室			
日時	講師	所属	演題	実施概要
平成30年1月20日(土) 13:30～15:00	石塚 哉史 氏	弘前大学農学生命 科学部 准教授	「地域農業について 考える—国際化が 進展する中での青 森の食と農—」	つがる市の基幹産 業である農業につ いて、国の政策転換が 図られようとする中 で、今後の地域農業 の発展方向を探る学 習機会とする。



「地域農業について考える—国際化が進展する中での青森の食と農—」

講師：石塚 哉史（弘前大学農学生命科学部 准教授）

有効回答票数：22票

講座の評価

	よい	ややよい	ややよくない	よくない	無回答
理解度	5	5	5	3	4
内容	5	6	5	3	3
資料	4	8	3	2	5
話し方	6	7	5		4
雰囲気	4	8	5		5

受講者の割合

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
男			1	3	1	7	2	
女			2		1	1	2	
無回答						1	1	

受講のきっかけ

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
広報誌				1		6	2	
新聞								
DM					1			
テレビ・ラジオ				2				
知人から								
インターネット								
その他			3		1	3	3	
無回答								

弘前大学公開講座

「地域農業について考える

—国際化が進展する中での青森の食と農— 内容評価書

越後谷 嶺

(つがる市教育委員会社会教育文化課 主査)

1. 企画・構想

本市の基幹産業である農業の今後の発展方向を探るために、地域資源（地域ブランド農産物）を活用した振興策の展開と課題について学ぶ機会となった。

2. 準備過程

市の広報・ホームページ、チラシ配布、社会教育委員や前年受講者へのダイレクトメールで周知を行った。また、米の生産調整説明会に出向きチラシ配布を行ったので、市内の多くの農業者に周知することができた。

3. 事業（公開講座）

地域ブランド農産物の概要や石川県金沢市の「加賀野菜」「金沢そだち」といった地域ブランド実践の具体例を学ぶことができた。

また、つがる市立図書館とも連携し、講師の推薦図書を紹介を行った。

つがる市立図書館では、農業関係資料の充実を図ったり農業支援講座を行うなど、本市の農業支援に力を入れている。

今回の受講者の多くは農業者であったため、図書館と農業者をつなぐ良い機会になったと思われる。

4. 達成度・到達度

地域ブランド化による高付加価値化等のメリットや、国内だけでなく海外向けに市場を開拓するなどの運営方法についても参考になったと思われる。

受講者アンケートの結果を見るとやや満足できたという評価が多かった。

5. 今後の課題・展望

今回の講座は、地域ブランドの運営方法や関連政策の動向についての内容が主であったので、受講者の多くを占めた農業者（生産者）だけでなく、行政職員や農協関係者向けに行っても効果があったと思われる。

2. 学部の主催事業など

【人文社会科学部】

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 JSPS二国間交流事業共同研究／セミナー「地方大学生の地元就職の決定要因とその促進策」		(1日目) 【基調講演】 「地方の若年労働市場と雇用政策を考える」 第1分科会 「地方大卒者労働市場における需給のミスマッチ」 (2日目) 第2分科会 「若者の地元と就業に関する意識調査結果報告」	
平成29年8月1日(火) 13:30~16:30 ~平成29年8月2日(水) 10:30~14:00	(1日目) 【基調講演】 慶應義塾大学経済学部 教授 太田 聡一 第1分科会 慶北大学校経済通商学部 教授 朴 相雨 (Park Sangwoo) 弘前大学人文社会科学部 教授、地域未来創生センター長 李 永俊 (2日目) 第2分科会 慶北大学校経済通商学部 教授 嚴 昌玉 (Um Changok) 安東大学校経済学部 教授 魯 洸旭 (Ro Kwanguk) 東京学芸大学教育学部 准教授 山口 恵子 弘前大学教育学部 准教授 李 秀眞		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 (8月1日) 弘前市民文化交流館ホール、 (8月2日) 弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対 象】 一般の方・行政関係者・学生 【定 員】 100名 【参加費】 無料		44名	【主催】 弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター 【後援】 青森県、弘前市

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2017 「日本を知り、世界を知る」		今年度は「今こそ人文学－人間の世界を見つめるまなざし－」をテーマとして、弘前大学における多彩な「人文学」研究を、4名の教員が紹介します。津軽・日本・中国・アメリカの文学・歴史・文化について、最新の研究成果を、地域の皆さまにわかりやすくお伝えします。	
平成29年11月3日(金) 10:00～16:30	【講演1】 弘前大学人文社会科学部 講師 尾崎 名津子 【講演2】 弘前大学人文社会科学部 准教授 南 修平 【講演3】 弘前大学人文社会科学部 教授 荷見 守義 【講演4】 弘前大学人文社会科学部 教授 山田 巖子 【特別講演】 韓国外国語大学校 教授 文 明載		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホール 【対 象】一般市民の方 【定 員】100名 【参加費】無料		112名	【主催】弘前大学人文社会科学部・弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【後援】弘前市、東奥日報社、陸奥新報社

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 地域未来創生センター・東北6県合同研究フォーラム 「民俗資料の「発見」と新たな「活用」の可能性を探る」		「民俗資料の『発見』と新たな『活用』可能性を探る」のテーマにより、民俗資料への新しい向き合い方について、東北各県の民俗学研究会の会員が報告を行い、会場も交えて意見交換をします。	
平成29年11月25日(土) 12:30～16:45	東北6県研究会による発表 (青森県) 増田 公寧 (秋田県) 鎌田 幸男 (岩手県) 東 資子 (宮城県) 岡山 卓矢 (福島県) 國井 秀紀 (山形県) 盛永 未来		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対 象】一般の方、行政関係者(教育・観光・地域活性化等の担当者)、学生 【定 員】100名 【参加費】無料		75名	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、青森県民俗の会 【後援】青森県教育委員会、弘前市教育委員会、三沢市教育委員会、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社

名 称・開催日	講 師	内 容	
「シンポジウム 裁判員裁判を地域に根づかせるために」		このシンポジウムでは、どうすれば市民に裁判員制度について深く考えてもらえるのか、そして市民が裁判を通じて地域の様々な問題を自分の問題として捉えることができるかについて考えます。そのため、学校教育における法教育の在り方や市民への裁判員制度の情報提供の先駆的な取り組みなどを紹介し、それらを踏まえて裁判員経験者を交えたパネルディスカッションを行います。	
平成29年12月2日(土) 14:00~17:30	<p>【第1部】講演「学校現場の法教育」 明治大学文学部 教授 藤井 剛</p> <p>【第2部】報告 「地域の世代間対話を促す模擬裁判+模擬評議～『コミュニティ・コート』の構想～」 弘前大学教育学部 教授 宮崎 秀一</p> <p>「裁判員制度を育てる市民活動—裁判員ラウンジと大学での模擬裁判を中心に」 専修大学法学部 教授 飯 考行</p> <p>【第3部】パネルディスカッション コーディネーター： 飯 考行 パネリスト：藤井剛、宮崎 秀一、法曹関係者、マスコミ関係者、裁判員経験者、学生など</p>		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<p>【会 場】 弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール 【対 象】 本学教職員、学生、一般の方等どなたでも 【定 員】 【参加費】 無料</p>		52名	<p>【主催】 弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター、 弘前大学人文社会科学部、 教育学部 【後援】 青森家庭少年問題研究会</p>

名 称・開催日	講 師	内 容	
犯罪被害者遺族講演会 「最愛の娘を奪われて～事件後、遺族にもたらずもの～」		講演：「最愛の娘を奪われて～事件後、遺族にもたらずもの～」	
平成29年12月9日(土) 13:30~15:00	秋田看護福祉大学 教授、あおもり被害者支援センター 理事 山内 久子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<p>【会 場】 弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール 【対 象】 本学教職員、学生、一般の方等どなたでも 【定 員】 【参加費】 無料</p>		36名	<p>【主催】 弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター 【後援】 青森家庭少年問題研究会</p>

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 産学連携サービス経営人材育成事業 「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める 中核人材育成事業」平成29年度成果報告会		「学生による青森の魅力を高める事業企画提 案～大学生のチャレンジ2017～」 －協力企業先－ ①株式会社あおもり海山 ②企業組合でる・そーれ、津軽鉄道株式会社 ③株式会社楽天野球団（東北楽天ゴールデン イーグルス） ④株式会社コンシス ⑤一般社団法人青森県発明協会（順不同）	
平成29年12月22日(金) 15：00～17：30	学生による取組成果発 表		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 ヒロロ4階 市民文化交流館ホール 【対 象】 本学教職員及び学生、国公立大学、高校、 企業関係者、行政関係者、一般市民 【定 員】 【参加費】 無料		125名	弘前大学人文社会科学部 (サービス経営人材育成事業事務 局)

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 地域未来創生センターフォーラム 「自然栽培法がもたらす付加価値について－販 売・加工の側面から－」		「自然栽培法がもたらす付加価値について－ 販売・加工の側面から－」 【趣旨説明】 自然栽培農産物および加工品の 流通形態	
平成30年1月20日(土) 14：00～18：00	【趣旨説明】 弘前大学 人文社会科学部 教授 黄 孝春 株式会社福島屋 会長 福島 徹 株式会社山信商店 会長 山中 勲 農業生産法人みどりの里 農場責任者 野中 慎吾 岡山県木村式自然栽培 実行委員会 理事長 高橋 啓一 有限会社サンスマイル 代表取締役 松浦 智紀 自然栽培の仲間たち 店舗責任者 伊藤 誠 株式会社精華堂あられ総本舗 会長 清水 精二 株式会社木村興農社 社長 木村 秋則		1. 今！日本！食！農業&自然栽培 2. スーパーマーケットにおける自然栽培農 産物の手応えと農福連携 3. 木村式自然栽培米の流通について・・・私 共の取り組み 4. 自然栽培の草の根運動（販売）と大量流 通の現状 5. マーケットインで自然栽培を普及させる 6. あられにおける自然栽培米の導入 7. 総合討論 8. 講評
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対 象】 本学教職員、学生、一般の方等どなたでも 【定 員】 【参加費】 無料		98名	【主催】 弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター 【共催】 青森県木村式自然栽培実 行委員会

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 地域未来創生センターフォーラム 「文化“財”の活用を通じた地域デザインを考える」		【基調講演】 文化遺産の継承と信仰環境の維持－仏像盗難被害対策の事例から－ 【ディスカッション】 文化“財”の活用を通じた地域デザインとは	
平成30年2月23日(金) 18:00～20:00	【基調講演】 和歌山県立博物館 主査学芸員 大河内 智之 【ディスカッション】 コーディネーター： 弘前大学人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ4階） 【対 象】一般の方・行政関係者・学生 【定 員】100名 【参加費】無料		68名	【主催】弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター 【後援】青森県、青森県教育委員会、 弘前市、弘前市教育委員会、 東奥日報社、陸奥新報社

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 地域未来創生センターフォーラム 「東日本大震災からの復興を考える」		第1部 野田村中学校同窓会調査結果報告 第2部 【パネルディスカッション】	
平成30年3月10日(土) 14:30～16:50	第1部 弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊 京都大学大学院人間・ 環境学研究科 教授 永田 素彦 東京学芸大学教育学部 准教授 山口 恵子 コーディネーター： 弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ4階） 【対 象】一般の方・行政関係者・学生 【定 員】100名 【参加費】無料		32名	【主催】弘前大学人文社会科学部 地域未来創生センター 【後援】弘前大学ボランティアセ ンター、チーム北リアス、 弘前市、野田村、弘前市 社会福祉協議会、野田村 社会福祉協議会

【教育学部】

名 称・開催日	講 師	内 容	
「津軽デジタル風土記の構築」 プロジェクト推進に関する覚書締結記念講演会		「津軽の魅力と文化を世界に発信！」－古典籍・歴史資料のデジタル公開に向けて－ 【記念講演】 「森林資源の活用から見た近世津軽－白神山地・岩木川・弘前城下－」 「『弘前藩庁日記』に刻まれた江戸のリアリティ」	
平成29年7月15日(土) 13:00～15:50	弘前大学 名誉教授 長谷川 成一 国文学研究資料 館長 ロバート キャンベル		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対 象】一般市民、学生、教職員 【定 員】先着250名 【参加費】無料		220名	弘前大学教育学部

【医学研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
「女性の一生」		第1 講義 中高年から気をつけたい病気 －更年期障害、骨粗鬆症など－ 第2 講義 母子手帳は一生の宝物 第3 講義 女性ホルモンとがんの関係	
平成29年9月22日(金) 18:00～20:00	第1 講義 弘前大学保健学研究科 看護学 教授 樋口 毅 第2 講義 弘前大学医学研究科 産科婦人科学講座 助教 飯野 香理 第3 講義 弘前大学医学研究科 産科婦人科学講座 教授 横山 良仁		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対 象】一般の方、学生、教職員 【定 員】80名 【参加費】無料		80名	弘前大学医学研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 弘前大学大学院医学研究科 「健康・医療講演会」大腸がん検診と生活習慣病		第1 講義 「大腸がん検診のすすめ」 第2 講義 「糖尿病になりやすい体質ってあるの？」	
平成29年12月9日(土) 14:00～16:00	第1 講義 公立野辺地病院 内科 副院長 中島 道子 第2 講義 弘前大学医学研究科内分泌代謝内科学講座 教授 大門 眞		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】公立野辺地病院 講義室 【対 象】一般の方、学生、教職員 【定 員】80名 【参加費】無料		50名	弘前大学医学研究科

【保健学研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
市民公開講座 「足の科学からみたスポーツ障害の予防」		足の機能や形態について科学的見地からスポーツ時の障害予防について講師がわかりやすく説明します。また、足の健康について実際に足部計測して相談にのります。	
平成29年10月28日(土) 10:00~11:30	弘前大学保健学研究科 教授 尾田 敦		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対 象】一般市民、スポーツ指導者、運動部員、保護者等 【定 員】 【参加費】 無料		89名	弘前大学保健学研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 大学院活性化講演会 「看護学の新機軸－創傷看護学から看護理工学へ」		講演：「看護学の新機軸－創傷看護学から看護理工学へ」	
平成29年11月6日(月) 17:50~19:30	東京大学大学院医学系 研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学 ／創傷看護学分野 教授 真田 弘美		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学保健学研究科E棟6階第63講義室 【対 象】大学院生・看護について興味のある方 【定 員】240名 【参加費】 無料		150名	弘前大学保健学研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
北方圏の超高齢社会創生セミナー in弘前 「活力有る超高齢社会を創造していくための方策」		講演1：「日常生活支援のための福祉・リハビリテーション工学～転倒防止の知識と技術・トレーニングの実際～」	
平成29年11月17日(金) 16:00~18:00	北海道科学大学北の高 齢社会アクティブライ フ研究所 所長 田中 敏明 弘前大学保健学研究科 助教 田中 真	講演2：「高齢者との傾聴を用いた対話」	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学保健学研究科E棟6階第63講義室 【対 象】研究者、学生、一般市民、技術者、公務員 【定 員】 【参加費】 無料		95名	【主催】弘前大学保健学研究科、 北海道科学大学 【後援】青森県、弘前市、北海道 科学大学同窓会青森支部

【理工学研究科】

名 称・開催日	講 師	内 容	
地質の日in弘前2017		今年は「弘前大学における大学院生の地質研究」と銘打って、理工学研究科で学んでいる大学院生が自分達の研究内容についてわかりやすく講演します。	
平成29年 5月14日(日) 13:30~15:00	弘前大学大学院生		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学理工学部1号館2番講義室 【対 象】 おおむね高校生以上 【定 員】 【参加費】 無料		18名	弘前大学理工学研究科

名 称・開催日	講 師	内 容	
夏休みの数学2017		中学校や高等学校の数学の教科書に出てくる数学の世界のすぐ近くに面白い話題がたくさんあります。そのような数学の魅力の一端を高校生や一般市民の方に知ってもらうための企画です。	
平成29年 8月5日(土) 平成29年 8月6日(日) 10:30~15:00	弘前大学理工学部数物科学科 准教授 金 正道 弘前大学理工学部数物科学科 教授 中里 博		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学理工学部 【対 象】 中学校・高校の数学担当教員、一般市民、高校生 【定 員】 各40名 【参加費】 無料		66名	弘前大学理工学部数物科学科

名 称・開催日	講 師	内 容	
2017年度「化学への招待」弘前大学一日体験化学教室		先端科学・技術の一端を担う科学に興味を抱いてもらえるよう、高校生(中学生)を対象に「化学への招待」を開催します。	
平成29年 8月7日(月) 10:00~16:30	弘前大学理工学研究科 教授 阿部 敏之 弘前大学理工学研究科 准教授 川上 淳 弘前大学理工学研究科 准教授 北川 文彦 弘前大学理工学研究科 准教授 増野 敦信 弘前大学理工学研究科 准教授 宮本 量 弘前大学理工学研究科 助教 太田 俊 弘前大学理工学研究科 助教 山崎 祥平 弘前大学教育学部 准教授 岩井 草介 弘前大学農学生命科学部 助教 栗田 大輔		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学理工学部、弘前大学教育学部、弘前大学農学生命科学部 【対象】 高校生（中学生も可） 【定員】 60名 【参加費】 無料	88名	弘前大学理工学研究科、日本化学会東北支部

名称・開催日	講師	内容
弘前大学総合文化祭「楽しい科学」		
平成29年10月29日(日) 10：00～16：00	弘前大学理工学研究科 教職員	理工学部の実験室をみなさんに開放します。教員や学生のていねいな指導のもとで、いろいろな実験や実習を体験することができます。小中学生向け「楽しい科学」22企画では、様々な科学体験・展示をご覧ください。
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学理工学部 【対象】 小学生、中学生とその父母 【定員】 【参加費】 無料	571名	弘前大学理工学研究科

名称・開催日	講師	内容
弘前大学総合文化祭「サイエンスへの招待」		
平成29年10月29日(日) 10：00～16：00	弘前大学理工学研究科 教職員	理工学部で行っている最新の研究や社会のために役立つ研究の内容を、教員や学生がわかりやすく紹介します。また、いろいろな実験や実習をとおして科学のおもしろさにふれることができます。高校生向け「サイエンスへの招待」20企画では、様々な科学体験・展示をご覧ください。
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学理工学部 【対象】 小学生、中学生、高校生、一般 【定員】 【参加費】 無料	571名	弘前大学理工学研究科

【農学生命科学部】

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 弘前大学総合文化祭 「農学生命科学部公開講座：ナマコよもやま話」		
平成29年10月29日(日) 13：30～15：30	弘前大学農学生命科学部 教授 渋谷 長生	講演：「江戸時代ナマコは輸出のスターだった。そして今もスターである。ナマコよもやま話。」
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学農学生命科学部4階433講義室 【対象】 一般、教職員、学生の方等どなたでも 【定員】 80名 【参加費】 無料	38名	弘前大学農学生命科学部（地域連携推進室）

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度「戦略1」事業「(取組3) 国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地方創生サイクル”の確立」研究成果報告		戦略1「(取組3) 国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地方創生サイクル”の確立」において取り組んできた研究成果を学内外に公表することにより、関係機関と一層の連携をはかり、“青森型地方創生サイクル”の確立を推進することを目的として、研究成果報告会を開催します。	
平成30年2月5日(月) 9:00~15:50	【事業全体状況報告】 総括リーダー・弘前大学農学生命科学部 教授 石川 隆二 【第1部】研究成果報告 5分×17件 【第2部】研究成果報告 5分×29件		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対 象】本学教職員・連携機関関係者・企業等関係者・一般市民・本学学生 【定 員】 【参加費】無料		81名	弘前大学農学生命科学部

名 称・開催日	講 師	内 容	
金木農場・藤崎農場「親子体験学習参加者募集」 ～ふれ合おう、人と自然と農業に！～		第1回目 5月27日(土) 出合いの会・羊の毛刈り・田植えに挑戦・じゃがいもの植え付け 第2回目 6月17日(土) リンゴの摘果・昆虫採集 第3回目 9月30日(土) 稲刈り・もちつき体験・じゃがいもの収穫 第4回目 10月7日(土) リンゴの収穫・羊毛作品作り 第5回目 10月28日(土) お米の精米・別れの会	
平成29年5月27日(土) ～平成29年10月28日(土) (延べ5日間) 9:30~15:30 ※第5回目は、午前で終了	弘前大学農学生命科学部 附属生物共生教育研究センター教職員		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学金木農場・弘前大学藤崎農場 【対 象】小学生に限ります。但し、保護者2名以上であれば小学生と共に未就学児の参加も可能です。 【定 員】先着25組(保護者1名につき子供2人までとします) 【参加費】延べ5日間分全額で大人1名につき1,200円(但し、大人2名以上から1名追加につき1,000円)お子様は参加費無料となります。		第1回 39名 第2回 73名 第3回 57名 第4回 59名 第5回 31名	弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター

名称・開催日	講師	内 容	
公開講座「リンゴを科学する」		リンゴ生産者やリンゴ関係者・一般市民を対象として、リンゴに関する様々な最新情報を提供する外、生物共生教育研究センター教員の研究の紹介を行います。	
平成29年12月9日(土) 9:00~15:55	青森県産業技術センターりんご研究所 工藤 剛 青森県産業技術センターりんご研究所 赤平 知也 弘前大学農学生命科学部 助教 林田 大志 弘前大学農学生命科学部 助教 田中 紀充 農研機構果樹茶業研究部門りんご研究領域 花田 俊男		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】平川市生涯学習センター2F多目的ホール 【対象】一般(リンゴ産業にかかわる方・一般市民) 【定員】100名 【参加費】無料		163名	【主催】弘前大学農学生命科学部 附属生物共生教育研究センター、平川市 【後援】弘前市、藤崎町、板柳町

【地域社会研究科】

名称・開催日	講師	内 容	
地域社会研究科 公開セミナー 「ポスト地方創生」in八戸		(1日目) 講義×まちあるき 講義①「いま地域に必要な3つのマネジメント」 まちあるき、交流会 (2日目) 講義×相談会 講義②「地場中小企業と社会的課題の解決」 講義③「地域づくりワークショップの肝」 講義④「市民主体の集いの場づくりによるコミュニティ創生」	
平成29年10月21日(土) 13:00~17:30 ~平成29年10月22日(日) 9:00~14:40	弘前大学地域社会研究科 教授 北原 啓司 弘前大学地域社会研究科 教授 佐々木 純一 弘前大学地域社会研究科 准教授 平井 太郎 弘前大学地域社会研究科 准教授 土井 良浩		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】ユートリー(八戸地域地場産業振興センター)4階研修室 【対象】地域の社会人、自治体関係者、教育研究関係者、地域おこし等地域で活動する団体・NPO等関係者 ※大学院レベルの研究分野に興味がある方 【定員】30名 【参加費】無料		58名 (2日間 累計)	弘前大学地域社会研究科

【白神自然環境研究所】

名 称・開催日	講 師	内 容	
春の観察会		「春の白神散策－春植物・スプリングエフェメラルをみにいこうー」	
平成29年 5月13日(土) 10:00～14:00 (雨天決行)	弘前大学農学生命科学部 准教授 本多 和茂 弘前大学白神自然環境 研究所 助教 山岸 洋貴		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学白神自然観察園 【対 象】 小学4年生以上 【定 員】 20名 【参加費】 1人につき1000円 (テキスト・傷害保険代金)		25名	弘前大学白神自然環境研究所、弘前大学白神研究会

名 称・開催日	講 師	内 容	
夏の観察会		「白神山地・十二湖方面 ～青池周辺散策と十二湖形成要因についての観察～」	
平成29年 8月26日(土) 10:30～15:00 (雨天決行)	弘前大学農学生命科学部 准教授 本多 和茂 弘前大学白神自然環境 研究所 助教 山岸 洋貴		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 十二湖ビジターセンター－青池－金山の池－湧き壺の池＋深浦海岸 【対 象】 小学4年生以上 【定 員】 20名 【参加費】 1人1000円 (テキスト・傷害保険代金)		24名	弘前大学白神自然環境研究所、弘前大学白神研究会

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学白神自然環境研究所シンポジウム 「未来へつなぐ～津軽半島の豊かな自然～」		つがる市の湖沼群において、環境省が定める絶滅危惧IA類に指定された希少な水生植物「ガシャモク」が、新潟大学教育学部と弘前大学白神自然環境研究所、津軽植物の会の合同チームの調査によって確認されました。現存する自然個体群は、福岡県北九州市の一湖沼に次いで2例目であり、これまでの国内の北限とされていた場所を500km以上更新する新産地の発見となります。この発見と津軽半島の豊かな自然環境を広く皆様に知っていただく為に、公開シンポジウムを開催します。	
平成29年12月11日(月) 17:00～19:30	新潟大学 研究院 藤 光太郎 北九州市いのちのたび 博物館 学芸員 真鍋 徹 青森自然環境研究会 齊藤 信夫 津軽植物の会 石戸谷 芳子 弘前大学白神自然環境 研究所 准教授 中村 剛之		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 つがる市生涯学習交流センター「松の館」交流ホール 【対象】 本学教職員、学生、一般の方 【定員】 先着50名 【参加費】 無料	80名	【主催】 弘前大学白神自然環境研究所、新潟大学教育学部、研究総合推進費 4-1705「湿地の多面的価値評価軸の開発と広域評価に向けた情報基盤形成」研究チーム 【後援】 環境省東北地方環境事務所、青森県、つがる市、津軽植物の会、青森県自然環境研究会

名称・開催日	講師	内容
積雪期観察会スノートレッキング		「積雪期の白神散策（スノートレッキング）～雪の十二湖を散策しましょう～」
平成30年3月10日(土) 10:30～14:30 (雪・雨天決行)	弘前大学農学生命科学部 准教授 本多 和茂 弘前大学白神自然環境研究所 助教 山岸 洋貴	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 深浦町：十二湖ビジターセンター－青池－金山の池－湧き壺の池 【対象】 小学4年生以上 【定員】 20名 【参加費】 1人1000円（テキスト・傷害保険代金）	24名	弘前大学白神自然環境研究所、弘前大学白神研究会

【医学部附属病院】

名称・開催日	講師	内容
第9回さくらミーティング		Session 1 若手研修報告 Session 2 特別講演「成育医療の挑戦」
平成29年4月22日(土) 16:00～18:00	慶應義塾大学 教授 黒田 達夫	
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前市中央公民館中会議室 【対象】 医療従事者、医学生 【定員】 特になし 【参加費】 無料	70名	【主催】 NPO法人外科支援機構弘前 弘前大学大学院医学研究科（消化器外科学講座、小児外科学講座）

名 称・開催日	講 師	内 容	
緩和ケア研修会			
平成29年 5月20日(土) 8:30~18:20 平成29年 5月21日(日) 8:00~17:35	弘前大学医学部附属病院 病院長 福田 眞作 弘前大学大学院医学研究科 教授 佐藤 温 静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科 部長 大坂 巖 山形県立河北病院 緩和ケア科 科長 奥山 慎一郎 山形県立中央病院 緩和医療科 医長 神谷 浩平 弘前駅前メンタルクリニック 院長 菊池 淳宏 医療法人ときわ会ときわ会病院 医師 蝦名 正子 あおり協立病院 内科 医長 佐々木 洸太 弘前大学大学院医学研究科 准教授 古郡 規雄 弘前大学医学部附属病院 講師 佐藤 靖 弘前大学医学部附属病院 産業医(麻酔科医師) 伊藤 磨矢 弘前大学医学部附属病院 講師 木村 太 弘前大学医学部附属病院 助教 工藤 隆司	「がん対策推進基本計画」において、すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得することが目標として掲げられている。 本研修会は、青森県内の医師及び看護師、薬剤師ほか医療スタッフを対象に、緩和ケアについての基本的な知識を習得する。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院大会議室 【対 象】 青森県内でがん診療に携わる医療従事者 【定 員】 45名 【参加費】 無料		42名	【主催】 弘前大学医学部附属病院

名 称・開催日	講 師	内 容	
外科手術セミナー 君もカッコいい外科医になってみないか! 「高校生外科手技体験セミナー」 in 十和田			
平成29年 7月 1日(土)	弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院、青森市立市民病院の外科の医師	医療従事者自身が病院から外に出て、現地で子供たちと触れ合い、7つの模擬手術を体験してもらい、子供たちに医師の仕事の素晴らしさを知ってもらう。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 青森県立三本木高等学校 【対 象】 高校生 【定 員】 特になし 【参加費】 無料		56名	【主催】 弘前大学医学部附属病院 (外科)

名称・開催日	講師	内 容	
平成29年度 第2回青森県がん相談員研修 がん患者への意思決定支援の質を高める ～診断時から終末期までを支える～		青森県独自の文化的背景や社会的背景を把握し、がん相談員として地域で暮らす患者・家族への意思決定支援ができるようになる。	
平成29年7月8日(土) 14:00～16:15	弘前大学医学研究科 教授 佐藤 温		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学研究科臨床小講義室 【対象】・青森県内のがん診療連携拠点病院のがん相談員 ・がん相談に従事している医療関係者 ・がん相談に関心のある医療関係者 【定員】50名 【参加費】		40名	【主催】 青森県がん診療連携協議会 相談支援部会 【共催】 弘前大学医学部附属病院（がん相談支援センター）

名称・開催日	講師	内 容	
みんなで知ろう！がんフェスティバル		第1部 青森県のがんに関する情報と取り組み 第2部 がんとお金のはなし 第3部 体験談～がんの不安から現在の活動につながるまで～ 第4部 「がんと一緒に生きるということ -がんイコール死ではない-」	
平成29年8月27日(日) 12:00～16:30	第1部 青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課 がん対策推進グループ グループマネージャー 櫻庭 仁明 第2部 メットライフ生命保険(株) 佐々木 渉一 第3部 がん体験者5名 第4部 東京都立駒込病院 名誉院長 佐々木 常雄		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】土手町コミュニティパーク多目的ホール 【対象】一般市民 【定員】特に無し 【参加費】無料		309名	【主催】 弘前大学医学部附属病院

名称・開催日	講師	内 容	
第1回肝臓病教室		【講演】 ・ウイルス性肝炎について ・肝臓病と日常生活 ・お薬の正しい使い方 ・肝臓と食事	
平成29年9月1日(金) 14:30～16:00	弘前大学医学部附属病院 講師 遠藤 哲 弘前大学医学部附属病院 看護師 宮田 優輝 弘前大学医学部附属病院 薬剤師 兵藤 累 弘前大学医学部附属病院 管理栄養士 須藤 信子		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学部附属病院内科外来 【対象】 肝疾患の患者さん及びご家族 【定員】 特になし 【参加費】 無料	16名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（肝疾患相談センター）

名称・開催日	講師	内容
第19回 家庭でできる看護ケア教室		講演：「体験してガッテン！認知症と脳卒中～その人らしさのために私たちができること～」
平成29年9月29日(金) 13:30～16:00	弘前大学医学部附属病院（看護部） 脳卒中リハビリ看護認定看護師 福岡 幸子 弘前大学医学部附属病院（看護部） 認知症看護認定看護師 葛西 優子	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対象】 一般市民 【定員】 先着30名 【参加費】 無料	19名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 青森県腎臓バンクセミナー 透析患者さん&ご家族との交流会		講演：「腎不全とその治療について」から腎移植もお勧めします～
平成29年10月1日(日) 14:00～15:00	弘前大学医学研究科 教授 大山 力	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 青森市民ホール 【対象】 【定員】 100名 【参加費】 無料	100名	【主催】 青森県腎臓バンク、 青森県腎臓病患者連絡協議会 【共催】 弘前大学医学研究科（泌尿器科学講座、先進移植再生医学講座）、 青森県透析医会

名 称・開催日	講 師	内 容	
レジデント 心エコーハンズオンセミナー ECHO TOHOKU 若手医師を育てるプロジェクト 2017 in 青森 「心エコー図を自分のものにする！」 ～スペシャリストと学ぶ心エコー図法～		セッション1 「新エコー図法の基本を学ぶ」 セッション2 「臨床現場で新エコー図をどう使うか」 セッション3 「総括」	
平成29年10月29日(日) 9：30～16：00	弘前大学医学研究科 教授 富田 泰史 福島県立医科大学 高野 真澄 わたり病院内科循環器科 渡部 朋幸 弘前大学医学研究科 講師 山田 雄大		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院大会議室 【対 象】 青森県内の臨床研修病院に在籍する主として初期研修医 【定 員】 36名 【参加費】 6000円		23名	【主催】 弘前大学医学研究科 (循環器腎臓内科学講座)

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学総合文化祭 市民公開講座		講演：腎臓を大切にして健康長寿を実現しましょう	
平成29年10月29日(日) 15：00～16：00	弘前大学医学研究科 教授 大山 力		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホール 【対 象】 一般市民 【定 員】 100名 【参加費】 無料		100名	【主催】 弘前大学医学研究科（泌尿器科学講座、先進移植再生医学講座） 【共催】 青森県腎臓バンク 青森県透析医会

名 称・開催日	講 師	内 容	
臨地実習指導者育成研修		「魅力的な実習を展開する方策を考えよう！」をテーマに、教育専門家の講義を聞いて教育の基礎を知り、人材育成のスペシャリストからコーチングを学んで相手との関わり方を身につける。	
平成29年10月30日(月) 9：00～16：30 平成29年11月28日(火) 9：00～16：30	株式会社ビジネスコンサルタント 木村 智子 弘前大学教育学部 准教授 松本 大 弘前大学保健学研究科 准教授 小倉 能理子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対 象】 看護学生の実習を受け入れている施設の看護職 【定 員】 15名 【参加費】 無料		30名 (延べ60名)	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名 称・開催日	講 師	内 容	
<p>第3回ELNEC-J in弘前 看護師教育プログラム</p> <p>平成29年12月2日(土) 8:20~18:30 平成29年12月3日(日) 8:10~15:20</p>	<p>コアカリキュラム 看</p> <p>青森県立中央病院 緩和ケア認定看護師 秋庭 聖子</p> <p>下北医療センターむつ 総合病院 緩和ケア認定看護師 佐藤 美紀</p> <p>八戸市立市民病院 緩和ケア認定看護師 馬場 教子</p> <p>十和田市立中央病院 緩和ケア認定看護師 八重樫 学</p> <p>十和田市立中央病院 看護部 力石 圭子</p> <p>青森市民病院 緩和ケア認定看護師 一戸 真紀</p> <p>青森市民病院 がん性 疼痛看護認定看護師</p> <p>八戸赤十字病院 緩和ケア認定看護師 宮崎 紫穂</p> <p>津軽保健生活協同組合健生病院 緩和ケア認定看護師 野里 春華</p> <p>弘前大学保健学研究科 教授 野戸 結花</p> <p>弘前大学保健学研究科 助教 北島 麻衣子</p> <p>弘前大学保健学研究科 助教 三上 佳澄</p> <p>弘前大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 浅利 三和子</p> <p>弘前大学医学部附属病院 腫瘍センター長 佐藤 温</p> <p>弘前大学医学部附属病院 産業医(麻醉科医師) 伊藤 磨矢</p>	<p>エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護、 痛み・症状のマネジメント、エンド・オブ・ ライフ・ケアにおける倫理的問題など、エン ド・オブ・ライフにある患者さんご家族に 必要なケアを包括的に学習する。</p>	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
<p>【会 場】弘前大学医学部附属病院大会議室 【対 象】看護師 【定 員】36名 【参加費】無料</p>		40名	<p>【主催】 弘前大学医学部附属病院(腫瘍センター) 【共催】 弘前大学保健学研究科地域医療保 健教育研究センター 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン</p>

名称・開催日	講師	内 容	
第11回 弘大病院がん診療市民公開講座		【演題1】 進歩する肺がん薬物療法～個別化治療、免疫療法を中心に～ 【演題2】 血液がんのいろいろ	
平成29年12月17日(日) 13:00～15:30	弘前大学医学部附属病院 (呼吸器内科) 講師 當麻 景章 弘前大学医学部附属病院 (輸血部診療) 教授 玉井 佳子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前市民会館 大会議室 【対象】 一般市民 【定員】 100名 【参加費】 無料		37名	【主催】 弘前大学医学部附属病院 (がん相談支援センター)

名称・開催日	講師	内 容	
がんプロ公開セミナー 「乳がん塾2018」		講義1 チーム医療総論 講義2 乳癌薬物療法総論 講義3 進行・再発乳癌の治療 講義4 乳癌化学療法における薬剤師の役割 講義5 乳癌チーム医療における看護師の役割 講義6 ACPについて ロールプレイ「BAD NEWSの伝え方」	
平成30年1月27日(土) 13:00～18:00 平成30年1月28日(日) 9:00～12:00	横浜労災病院 乳腺外科 部長 千島 隆司 千葉医療センター 乳腺外科 医長 鈴木 正人 横浜栄共済病院 外科 部長 俵矢 香苗 昭和大学横浜市北部病院 がん薬物療法専門薬剤師 縄田 修一 JA秋田厚生連平鹿総合病院 乳がん看護認定看護師 武石 優子 神戸大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科 谷野 裕一		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学部附属病院大会議室 【対象】 医療従事者・医療系大学院生・学部学生 【定員】 30名 【参加費】 無料		25名	【主催】 弘前大学医学研究科 (腫瘍内科学講座) 【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名称・開催日	講師	内 容	
緩和ケア公開講座		【講演】 ・がん疼痛のマネジメントについて ・アンガーマネジメントについて知ろう～自分の怒りを知り、よりよい援助職となるために～ 【ワークショップ】 ・Hope Tree (ホープツリー) 作成 TSUNAGU-NOTE (つなぐノート) 紹介	
平成30年1月30日(火) 18:00～19:30	弘前大学医学部附属病院 麻酔科 講師 木村 太 弘前大学大学院医学研究科 腫瘍センター 臨床心理士 島田 恵子		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学研究科臨床小講義室 【対象】病院職員 【定員】特になし 【参加費】無料	54名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（腫瘍センター）

名称・開催日	講師	内容
第12回 訪問看護師対象学習会		講演：認知症の人からのサインをキャッチ！ ～みんなが笑顔になる認知症看護～
平成30年2月17日(土) 13：30～16：00	医学部附属病院 看護師 葛西 愛子	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対象】訪問看護師 【定員】30名 【参加費】無料	16名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（総合患者支援センター）

名称・開催日	講師	内容
がんプロ公開セミナー 医療者のためのコミュニケーションスキルトレーニング 基礎編 ～問題発見解決のための手法～		クライアントの潜在的なニーズを引き出すために必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。
平成30年2月18日(日) 10：00～16：00	特定非営利活動法人 ムラのミライ 和田 信明 原 康子	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対象】医療従事者・医療系大学院生・学部学生 【定員】30名 【参加費】無料	20名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（腫瘍センター） 【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名称・開催日	講師	内容
皮膚科学講座皮膚がんセミナー		講演：メルケル細胞癌とその多様性～癌の発症から治療まで～
平成30年3月2日(金) 19：00～20：00	佐賀大学医学部 講師 永瀬浩太郎	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター大会議室 【対象】医学生、医療従事者 【定員】100名 【参加費】無料	20名	【主催】 弘前大学医学研究科（皮膚科学講座） 【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名称・開催日	講師	内容
皮膚科学講座皮膚がんセミナー		講演：メルケル細胞癌とその多様性～癌の発症から治療まで～
平成30年3月2日(金) 19：00～20：00	佐賀大学医学部 講師 永瀬浩太郎	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター大会議室 【対象】医学生、医療従事者 【定員】100名 【参加費】無料	20名	【主催】 弘前大学医学研究科（皮膚科学講座） 【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名称・開催日	講師	内 容	
学びなおし研修 ～糖尿病と認知症の看護を身につけよう！		看護職は、安全な医療を提供と患者・家族へ適切な指導をすることが求められることから、最新の糖尿病看護と認知症看護に関する専門知識と実践的なスキルを学ぶ。	
平成30年3月7日(水) 13:30～16:45	弘前大学医学部附属病院 看護師 桜庭 咲子 弘前大学医学部附属病院 看護師 葛西 愛子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対象】 医療機関（病院を除く）に勤務している看護師、現在仕事をしていない看護師 【定員】 20名 【参加費】 無料		13名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内 容	
がんプロ公開セミナー がんセンターにおけるチャイルド・ライフ・スペシャリストの役割～AYA世代、子育て世代のがん患者への関わりを中心に～		学齢期から思春期、若年成人の固形腫瘍の患者さんとそのご家族及び、未成年の子を持つ成人がん患者さんとそのご家族へのサポートについて。	
平成30年3月7日(水) 18:00～20:00	静岡県立静岡がんセンター 小児科主任 チャイルド・ライフ・スペシャリスト 阿部 啓子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学研究科臨床大講義室 【対象】 医療従事者、教育関係者 【定員】 100名 【参加費】 無料		55名	【主催】 弘前大学医学部附属病院(腫瘍センター) 【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名称・開催日	講師	内 容	
第2回肝臓病教室		【講演】 ・ウイルス性肝炎について ・肝臓病と日常生活 ・お薬の正しい使い方 ・肝臓と食事	
平成30年3月9日(金) 14:30～16:00	弘前大学医学部附属病院 講師 遠藤 哲 弘前大学医学部附属病院 看護師 宮田 優輝 弘前大学医学部附属病院 薬剤師 兵藤 累 弘前大学医学部附属病院 管理栄養士 須藤 信子		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学部附属病院内科外来 【対象】 肝疾患の患者さん及びご家族 【定員】 特になし 【参加費】 無料		17名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（肝疾患相談センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
第1回 緩和ケア領域における臨床心理士の事例検討会		テーマ1	「セラピストのふるまい、クライアントを敬い、そして守ること～傷ついた尊厳を修復するイメージをセラピストが抱えて」
平成30年3月10日(土) 13:00～18:30	心理臨床オフィスすが わら 臨床心理士 菅原 憲 四国がんセンター 臨床心理士 井上 実穂 高槻赤十字病院 緩和 ケア診療科 部長 岸本 寛史	テーマ2	「死にゆくことと生きることの間にあること～緩和ケア病棟 Tさんと共に過ごした2年間～」
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 アートホテル弘前シティ 【対 象】 臨床心理士 【定 員】 50名 【参加費】 500円		33名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（腫瘍センター） 【共催】 弘前大学保健学研究科地域医療保健教育研究センター 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名 称・開催日	講 師	内 容	
がんプロ公開セミナー ここに寄り添うということ～紡がれる語りをよりよく「聴く」ために～		講演1	「対話の力～希望を紡いでいくために」
平成30年3月11日(日) 9:10～15:00	心理臨床オフィスすが わら 臨床心理士 菅原 憲 四国がんセンター 臨床心理士 井上 実穂 高槻赤十字病院 緩和 ケア診療科 部長 岸本 寛史	講演2	「喪失を支える～避けられない死を前に私達はどうかあればいいのか～」
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 アートホテル弘前シティ 【対 象】 医療関係者、学生（医療福祉系、教育系） 【定 員】 150名 【参加費】 無料		72名	【主催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン 【共催】 弘前大学医学研究科（腫瘍内科学講座） 弘前大学医学部附属病院（腫瘍センター）

名 称・開催日	講 師	内 容	
がんプロ公開セミナー がん相談の基礎を学ぶ～がん対策・社会資源～		講義 1 がん対策 講義 2 第3期がん対策推進基本計画における情報提供および相談支援に関して 講義 3 がん患者・家族の療養生活と社会資源	
平成30年 3月17日(土) 13:00～17:00	青森県がん・生活習慣病対策課 課長 嶋谷 嘉英 国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供部 部長 高山 智子 国立がん研究センター東病院 がん相談統括専門職 坂本 はと恵		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学研究科臨床大講義室 【対 象】 がん相談従事者・がん相談に関心のある医療従事者・行政関係者・医療系学生 【定 員】 100名 【参加費】 無料		47名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（腫瘍センター） 【共催】 未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 青森県腎臓バンクセミナー 腎不全医療 入門		講演 1) 「腎不全とその治療」 講演 2) 「腎移植の実際」 講演 3) 「臓器移植コーディネーターの役割」 まとめ 「青森県の腎移植と弘大病院の役割」	
平成29年 4月26日(水) 14:50～16:20	弘前大学医学部附属病院 助教 村上 礼一 弘前大学医学研究科 講師 畠山 真吾 青森県臓器移植コーディネーター 鈴木 旬子 弘前大学医学研究科 教授 大山 力		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 八戸市立高等看護学院 【対 象】 看護学生 【定 員】 80名 【参加費】 無料		80名	【主催】 青森県腎臓バンク 【共催】 弘前大学大学院医学研究科（泌尿器科学講座、先進移植再生医学講座） 青森県透析医会

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年 8月23日(水) 14:00～15:20	弘前大学医学部附属病院 助教 村上 礼一 弘前大学医学研究科 講師 畠山 真吾 青森県臓器移植コーディネーター 鈴木 旬子	講演 1) 「腎不全とその治療」 講演 2) 「腎移植の実際」 講演 3) 「臓器移植コーディネーターの役割」 まとめ 「青森県の腎移植と弘大病院の役割」	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 八戸看護専門学校 【対象】 看護学生 【定員】 40名 【参加費】 無料	40名	【主催】 青森県腎臓バンク 【共催】 弘前大学医学研究科（泌尿器科学講座、先進移植再生医学講座） 青森県透析医会

名称・開催日	講師	内容
平成29年10月11日(水) 14:00~16:00	弘前大学医学部附属病院 助教 村上 礼一 弘前大学医学研究科 講師 畠山 真吾 青森県臓器移植コーディネーター 鈴木 旬子	講演1) 「腎不全とその治療」 講演2) 「腎移植の実際」 講演3) 「臓器移植コーディネーターの役割」 まとめ 「青森県の腎移植と弘大病院の役割」

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 八戸学院大学 【対象】 看護学生 【定員】 40名 【参加費】 無料	40名	【主催】 青森県腎臓バンク 弘前大学医学研究科（泌尿器科学講座、先進移植再生医学講座） 【共催】 青森県透析医会

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 弘前大学医学部附属病院看護部 認定看護師による公開講座 平成29年5月26日(金) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 奈良 順子 弘前大学医学部附属病院 看護師 片山 美樹	「怖がらないで！明日から使える人工呼吸ケアのポイント」をテーマに、人工呼吸器装着患者のケアに必要な基本的知識を学ぶ。

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学研究科臨床大講義室 【対象】 看護師免許をお持ちの方 【定員】 50名 【参加費】 無料	84名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内容
平成29年6月16日(金) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 福岡 幸子	「脳卒中急性期の安全な経口摂取を考えよう」をテーマに、脳卒中急性期における嚥下障害と誤嚥のリスクについて理解し看護師がベッドサイドで実施できる嚥下スクリーニング技術を習得する。

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対象】 看護師免許をお持ちの方 【定員】 30名 【参加費】 無料	35名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内 容	
平成29年7月13日(木) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 桜庭 咲子	「これは知っておきたい糖尿病の治療薬の知識～患者さんの安全を守るために～」をテーマに、糖尿病治療薬の特徴を理解し、食事量や欠食時、検査時の薬剤管理ができる。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対象】看護師免許をお持ちの方 【定員】30名 【参加費】無料		63名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内 容	
平成29年9月14日(木) 18:00~19:00	弘前大学医学部附属病院 看護師 粟津 朱美 弘前大学医学部附属病院 看護師 阿保 恵美子 弘前大学医学部附属病院 看護師 佐藤 裕美子	「あきらめないで！がん治療における皮膚障害～がん化学療法・がん放射線療法の視点から～」をテーマに、それぞれの皮膚障害の症状を理解し、予防を含めた適切なスキンケアが実践できる。	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学部附属病院看護部研修室 【対象】看護師免許をお持ちの方 【定員】20名 【参加費】無料		52名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（看護部）

名称・開催日	講師	内 容	
青森県抗菌化学療法セミナー		講演：「感染症診療および抗菌薬適性使用マニュアル」の解説1・2	
平成29年4月27日(木) 1部：18:00~18:45 2部：18:45~19:30 平成29年4月28日(金) 1部：18:00~18:45 2部：18:45~19:30	弘前大学医学部附属病院 感染制御センター 副センター長 齋藤 紀先		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学医学研究科臨床大講義室、臨床小講義室 【対象】医師、薬剤師、感染制御に関わっている職員 【定員】特になし 【参加費】無料		279名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（感染制御センター）

名称・開催日	講師	内 容	
平成30年2月1日(木) 1部：18:00~18:45 2部：18:45~19:30 平成30年2月2日(金) 1部：18:00~18:45 2部：18:45~19:30	弘前大学医学部附属病院 感染制御センター 副センター長 齋藤 紀先	1部：「CRPに頼らない感染症診療」 2部：「外来での抗菌薬の選び方」	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学医学研究科臨床小講義室 【対象】 医師、薬剤師、感染制御に関わっている職員 【定員】 特になし 【参加費】 無料	193名	【主催】 弘前大学医学部附属病院（感染制御センター）

【被ばく医療総合研究所】

名称・開催日	講師	内 容	
弘前大学被ばく医療総合研究所連携協定締結記念講演会		講演：「福島大学環境放射能研究所の紹介」	
平成30年2月26日(月) 16:00~17:30	福島大学環境放射能研究所 所長 難波 謙二		
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催	
【会場】 保健学研究科F棟1階 大学院講義室I 【対象】 学生、教職員、一般の方 【定員】 - 【参加費】 無料	40名	被ばく医療総合研究所	

【北日本新エネルギー研究所】

名称・開催日	講師	内 容	
風車ブレードメンテナンスロボットの現地試験および風車メンテナンスの講演会		【現地試験】 ①「試験概要説明」 ②「機材説明・試験」 【講演会】 ①「研究会の趣旨説明」 ②「NEDOにおける風力発電の取り組み」 ③「スマートメンテナンス技術研究開発 風車SCADAデータによる故障トラブル 検出」	
平成29年7月24日(月) 13:00~17:00	【現地試験】 森山ディーゼル株式会社 宮本 政一 豊通ケミプラス株式会社 浜村 圭太郎 弘前大学理工学研究科 助教 竹囲 年延 【講演会】 ①弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 本田 明弘 ②NEDO新エネルギー部風力・海洋グループ 統括調査員 伊藤 正治 ③東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授 飯田 誠		
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催	
【会場】 市民風車「わんず」鱒ヶ沢、グランメール山海荘 【対象】 教職員、企業等関係者、公務員等 【定員】 【参加費】 無料	57名	【主催】 弘前大学北日本新エネルギー研究所 【後援】 株式会社みちのく銀行、青森県	

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 第1回 新エネルギーフォーラム 「北方圏の「省エネ+創エネ」技術の展開連続セミナー in青森」		【特別講演】 「世界の風力発電の状況と東北・北海道の風力発電の展望」	
平成29年12月14日(木) 14:00~17:00	【特別講演】 足利工業大学 理事長 牛山 泉 【講演】 ①北海道科学大学都市環境学科 教授 白石 悟 ②東北工業大学環境エネルギー学科 助教 野澤 壽一 ③弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 本田 明弘 ④弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 桐原 慎二	【講演】 ①「北海道における風力エネルギー」 ②「宮城県における風力エネルギー」 ③「青森県における風力エネルギー」 ④「洋上風力と漁業協調」	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 青森県水産ビル 【対 象】 一般市民、技術者、公務員、研究者等 【定 員】 【参加費】 無料		84名	【主催】 弘前大学北日本新エネルギー研究所、東北工業大学、北海道科学大学 【後援】 青森県、青森市、弘前市、(一社)青森県建築士会、(一社)青森県建設業協会、北海道科学大学同窓会青森支部、東北工業大学同窓会青森県支部

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 第2回 新エネルギーフォーラム 「北日本新エネルギー研究所の設立後7年間と今後の飛躍」		<p><第1部> 【基調講演1】「再生可能エネルギーアンサンブルを奏でよう！」 【基調講演2】「地方創生としての再生可能エネルギー研究」</p>	
平成30年3月6日(火) 14:30~17:00	<p><第1部> 【基調講演1】 再生可能エネルギー協議会理事 長・東京農工大学 名誉教授 黒川 浩助 【基調講演2】 国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 上席イノベーションコーディネーター 近藤 道雄</p> <p><第2部> ①弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 伊高 健治 ②弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 官 国清 ③弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 井岡 聖一郎 ④弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 本田 明弘 ⑤弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 桐原 慎二</p>	<p><第2部> 各部門のこれまでと今後</p>	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】 教職員、企業等関係者、一般市民、学生等 【定員】 80名 【参加費】 無料		60名	弘前大学北日本新エネルギー研究所

【国際連携本部】

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 学都ひろさき未来基金 「弘前大学グローバル人材育成事業」成果発表会		【テーマ】 ～学生市民等協働プログラム～	
平成30年 2月23日(金) 14:30～17:00	【成果発表】 ①発表：人文社会科学部 ②発表：人文社会科学部 ③発表：教育学部 ④発表：理工学研究科 ⑤発表：地域社会研究科 ⑥発表：北日本新エネルギー研究所 ～学生海外PBLプログラム～ ①発表：教育推進機構 ②発表：人文社会科学部 ③発表：農学生命科学部 ④発表：農学生命科学部	①台湾の観光客増加を目的とした弘前市観光ガイドブック流通事業 ②多角的「弘前プロモーション」の海外実践と「弘前ツーリズム」への展開調査 ③タイ・パンガー県におけるインド洋大津波の被害と復興の実態から学ぶ防減災 ④医療機器開発拠点の形成と国際基準の医用技術者養成のための実践的教育システムの創設 ⑤加工用リンゴ作業機械化プロジェクト ⑥オランダにおける再生可能エネルギーを用いたスマートシティの現地調査 ～学生海外PBLプログラム～ ①グローバル市民になるためのハワイに学ぶ地域社会の構築 ②人文社会科学部授業科目「トラベルスタディーズ」に係る学生の海外学習奨励事業 ③農産物・食品のFBI戦略対応人材育成事業－中国進出日系食品企業での企業研修プログラム－ ④農村地域における環境保全型で強い農業を考える	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 ホテルニューキャッスル NOVA 2階「曙の間」 【対 象】 本学教職員、学生、一般市民 【定 員】 【参加費】 無料		149名	弘前大学国際連携本部

【COI研究推進機構】

名 称・開催日	講 師	内 容	
第20回 弘前大学COI特別講演会		講演：「IoT時代のヘルスケアサービスにおけるオープン標準化戦略と動向」	
平成29年 5月23日(火) 13:30～14:30	産業技術総合研究所 人間情報研究部門 部門長 持丸 正明		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学医学研究科 基礎大講義室 【対 象】 企業・研究関係者・一般市民等 【定 員】 【参加費】 無料		約50名	弘前大学COI研究推進機構

名称・開催日	講師	内 容	
第4回 弘前医療技術イノベーションシンポジウム			
平成29年6月25日(日) 13:00~16:30	【基調講演】 名古屋大学総長補佐・ 名古屋大学医学部附属 病院先端医療・臨床研 究支援センター病院教 授・COI研究アドバイザー（構造化チーム） 水野 正明 【指定講演】 花王エグゼクティブ・ フェロー・弘前大学COI 社会実装統括 安川 拓次 長野県松本市長 菅谷 昭 弘前大学特任教授 中路 重之 【パネルディスカッション】 コーディネーター：(公 財) 先端医療振興財団 臨床研究情報センター センター長 福島 雅典	地域住民の健康増進や先進的な医療に関する取り組みを一般市民の皆様や大学生、医療関係者、研究者等に広く紹介し、弘前におけるライフ・イノベーションを推進することを目的に開催します。 【テーマ】 健康づくりを中心とした社会イノベーションに向けて 【基調講演】 「健康づくりを中心とした社会イノベーション：その現状と課題」 【指定講演】 「健康づくりを中心とした社会イノベーション」 <企業の立場から> ~社会に貢献できるヘルスケア事業をめざして~ <自治体の立場から> <大学の立場から> 【パネルディスカッション】 「近未来の健康づくりのイノベーションについて」	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館 【対象】 一般市民、大学生、医療関係者、企業、研究者等 【定員】 約300名 【参加費】 事前申込制・無料		約200名	【主催】 弘前市、弘前大学医学研究科（整形外科学講座）、（社会医学講座）

名称・開催日	講師	内 容	
弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2017			
平成29年10月20日(金) 13:00~17:30	協和発酵バイオ株式会社 代表取締役社長 小谷 近之 長野オリンピック金メ ダリスト 元スピードスケート選手 清水 宏保 料理研究家 浜内 千波 他	【講演】 「発酵技術で健康をイノベする」 「スポーツ医学と健康」 「健康で笑顔のある毎日は食生活から」 他	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 一橋講堂 大ホール 【対象】 企業・研究関係者・一般市民等 【定員】 先着500名 【参加費】 無料		約700人	【主催】 弘前大学、青森県、弘前市 【共催】 (国研) 科学技術振興機構 (JST) 【後援】 文部科学省、経済産業省等

名 称・開催日	講 師	内 容	
第21回 弘前大学COI特別講演会		講演：「AMEDにおける臨床研究の導出」	
平成29年11月2日(木) 15：00～16：00	京都府立医科大学 学長 竹中 洋		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】弘前大学医学研究科 臨床小講義室 【対 象】企業・研究関係者・一般市民等 【定 員】 【参加費】無料		約70名	弘前大学COI研究推進機構

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2018		青森県の短命県脱却と、県民・国民の健康寿命延伸、QOL（生活の質）とGNH（幸福度）の最大化による「寿命革命」実現に向けて、弘前COI拠点による社会イノベーション（社会実装・新産業創出）の進展と進むべき方向性など、真の「健康の姿（未来）」のあり方について、COI参画機関をはじめとした産学官金トップが一同に会して徹底討論します。	
平成30年2月9日(金) 13：00～17：20	【基調講演】「健康未来イノベーション戦略」 弘前大学医学研究科 特任教授・COI拠点長 中路 重之 カゴメ株式会社 代表取締役社長 寺田 直行 青森県医師会 会長 齊藤 勝 料理研究家 浜内 千波 他		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】アートホテル弘前シティ 【対 象】一般市民、医療関係者、大学、企業、研究機関等 【定 員】先着300名 【参加費】サミットは無料 交流会は3000円程度		約500名	【主催】弘前大学、青森県、弘前市 【共催】(国研)科学技術振興機構(JST)、青森県医師会、健やか力推進センター、(公財)21あおもり産業総合支援センター、(地独)青森県産業技術センター、ひろさき産学官連携フォーラム等 【後援】文部科学省、経済産業省等

【COC推進機構】

名 称・開催日	講 師	内 容
社会人ネットワークづくりプログラム 社会人のみなさん「やわラボ」に参加しませんか？		県内在住の社会人と学生が和やかな雰囲気 で楽しく話す場「やわラボ」で、会社の枠を 越えた異業種交流を楽しむ。 事例報告「私がやわラボに参加する理由」
平成30年1月23日(火) 18：00～20：00	木村食品工業(株) 辻脇 悟志 弘前大学人文学部 4年 浅賀 陸	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学コラボ弘大1階フリースペース 【対象】 県内在住の社会人 【定員】 【参加費】 無料	42名	青森COC+推進機構（弘前ブロック）

【男女共同参画推進室】

名称・開催日	講師	内 容	
男女共同参画トップセミナー 「ダイバーシティ教育研究環境の基盤づくりとしての ポジティブ・アクションー岩手大学の実践から」		岩手大学における女性教員の採用や上位職登用等のポジティブ・アクションの具体的方策・成果・課題等について、実践を踏まえてご講演をいただきます。	
平成29年5月22日(月) 13:15~14:45	岩手大学 理工学 部長 船崎 健一		
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催	
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進 会議構成機関の幹部職員、地域の教育研究 機関や企業等の幹部職等 【定員】 100名程度 【参加費】 無料	44名	弘前大学男女共同参画推進室、北 東北ダイバーシティ研究環境実現 推進会議	

名称・開催日	講師	内 容	
本学学生による理系女子のための進路相談会in オープンキャンパス		本学の理系分野の女子学部生・大学院生が、 理系分野へ進学を考えている女子高校生を主 な対象として、進路や大学生活に関する疑問 や不安等について相談に応じることで、理系 進学を後押しするとともに、ロールモデルを 提示し、理系女性の視野拡大を図ります。	
平成29年8月8日(火) 10:00~12:00 13:00~15:00	弘前大学の理系女子学 生		
会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催	
【会場】 弘前大学総合教育棟1階ロビーホール 【対象】 オープンキャンパスに訪れる女子高校生 【定員】 【参加費】 無料	54名	弘前大学男女共同参画推進室	

名称・開催日	講師	内 容	
「2017年 北東北女性研究者研究・交流フェア」		女性研究者による共同研究グループの立ち 上げや共同研究への参画等の研究活動の活性 化を図ることを目的とした「2017年 北東北 女性研究者研究・交流フェア」を開催します。	
平成29年9月15日(金) 12:30~16:30	東京海洋大学海洋資源 エネルギー学部門 准教授 青山 千春 東北大学大学院環境科 学研究科 教授 松八重 一代		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前駅前公共施設ヒロロスクエア3階イベントスペース、4階市民文化交流館ホール 【対象】 北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議構成機関の方々、あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（仮称）構成機関の方々、テーマに関心のある方 【定員】 100名 【参加費】 無料	97名	弘前大学男女共同参画推進室、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 弘前大学総合文化祭における 女性研究者パネル展 平成29年10月28日(土) 平成29年10月29日(日) 10:00~17:00	弘前大学男女共同参画推進室教職員	本学の女性研究者の研究や人物についてパネル展を通じて紹介し、男女共同参画推進室の意識啓発や女性研究者のロールモデル提示による視野拡大を図ります。

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館ロビー 【対象】 学生、教職員、総合文化祭に訪れる地域の方々（高校生や保護者を含む） 【定員】 【参加費】 無料	95名	弘前大学男女共同参画推進室

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 「研究リーダー力向上支援セミナー」 平成29年12月15日(金) 14:20~15:50	慶応義塾大学大学院 (システムデザイン・マネジメント研究科) 講師 富田 欣和	女性研究者の研究リーダーの資質・能力向上を目的とした「研究リーダー力向上支援セミナー」を開催します。

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホール 【対象】 事業連携・参加機関の他、関係機関・企業等の女性研究者・技術者・大学院生等 【定員】 先着50名 【参加費】 無料	18名	弘前大学男女共同参画推進室、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議

【事務局】

名称・開催日	講師	内容
学術講演会「サル化する人間社会」 平成29年5月11日(木) 15:30~17:00	京都大学 第26代総長 山極 壽一	学術的に著名な識者を弘前大学に招き、学術講演会を開催することで、学内教職員の研鑽意識を高めるとともに、学生にレベルの高い学習機会を提供すること、また、学外へも広く周知し、地域還元することを目的として開催します。

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】 一般の方、教職員、学生 【定員】 先着300名 【参加費】 無料	300名	弘前大学研究・イノベーション推進機構

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 第1回「弘前大学知財塾」 平成29年9月6日(水) 14:30~16:00	国立遺伝学研究所知的財産室長 A B S 学術対策チーム責任者 鈴木 睦昭	生物多様性条約に関する講演 「名古屋議定書国内発効-学術研究分野での対応-」

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】 教職員、学生、大学院生、一般企業 【定員】 【参加費】 無料	60名	【主催】 弘前大学研究・イノベーション推進機構 【共催】 弘前大学COI研究推進機構、ひろさき産学官連携フォーラム、大学コンソーシアム学都ひろさき

名称・開催日	講師	内容
ひろさき産学官連携フォーラム “コーディネート研究会” 発足記念講演会 平成29年9月14日(木) 16:00~19:00	講演1: 株式会社津軽バイオマスエナジー代表取締役/農地所有適格法人株式会社津軽エネビジ代表取締役 奈良 進 講演2: 地域イノベーション戦略支援プログラム プロジェクトディレクター/公益財団法人21あおもり産業総合支援センター プロジェクトディレクター 阿部 馨 講演3: 山形大学 学術研究院(大学院理工学研究科主担当)教授/産学連携推進本部副本部長 理事特別補佐 学学連携プラットフォーム 世話人 小野 浩幸	講演1: 16:10~16:50 (40分) 「困ったときの解決策 私の経験から ためらいをすてて・・・」 講演2: 16:50~17:10 (20分) 「弘前大学から始まったプロテオグリカン産業化の奇跡と展望」 講演3: 17:10~17:30 (20分) 「地域イノベーションシステムとしての学学連携プラットフォームの試み」

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 土手町コミュニケーションプラザ 【対象】 【定員】 【参加費】 無料	73名	ひろさき産学官連携フォーラム/産学連携学会/地域活性学会/地域政策学会

名 称・開催日	講 師	内 容	
学術講演会「科学を学ぶ～日本語と英語～」		学術的に著名な識者を弘前大学に招き、学術講演会を開催することで、学内教職員の研鑽意識を高めるとともに、学生にレベルの高い学習機会を提供すること、また、学外へも広く周知し、地域還元することを目的として開催します。	
平成29年10月18日(水) 10:30～12:00	2000年ノーベル化学賞 受賞 筑波大学 名誉教授 白川 英樹		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対 象】 一般の方、教職員、学生 【定 員】 先着300名 【参加費】 無料		300名	弘前大学研究・イノベーション推進機構

名 称・開催日	講 師	内 容	
【ひろさき産学官連携フォーラム】 「第26回イブニングフォーラム」		講 演 1 : 18:30～18:50 「IoTによるセンシングと情報処理～医療・農業分野への応用を目指して」 講 演 2 : 18:50～19:10 「ICTを活用した建設機械のロボット化」	
平成29年10月25日(水) 18:30～20:00	講演 1 : 弘前大学理工学研究科 教授 中村 雅之 講演 2 : 弘前大学理工学研究科 教授 今西 悦二郎		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学コラボ弘大8階「八甲田ホール」 【対 象】 一般 【定 員】 【参加費】 1000円（ドリンク、軽食代として）		43名	ひろさき産学官連携フォーラム

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 「弘前大学起業家塾」		【第1回】「食ビジネスの概略」 【第2回】「商品開発のポイント」 【第3回】「機能性食品の開発、起業ブランドづくり」 【第4回】「事例紹介、原価計算と値段の付け方、ビジネスプラン作成」 【第5回】「品質管理、ビジネスプラン作成」 【第6回】「ビジネスプラン検討会」	
平成29年11月18日(水) ～平成29年12月21日(木) 18:30～20:00 (全6回)	ケイ・シグナル 代表 加藤 哲也		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学 総合教育棟309講義室 【対 象】 学生、研究者等 【定 員】 【参加費】 無料		54名	弘前大学研究・イノベーション推進機構

名 称・開催日	講 師	内 容	
【ひろさき産学官連携フォーラム】 「第27回イブニングフォーラム」 「青森県産学官金オープンイノベーションサロン～弘前」		サロン開催の目的紹介 東北経済産業局の説明 林精器製造(株) (福島県須賀川市) の事例 エクトム(株) (五所川原市) の事例	
平成29年11月21日(火) 15:30～17:15			
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 ヒロロ3階 ヒロロスクエア 多世代交流室(2)		37名	公益財団法人21あおもり産業総合支援センター、ひろさき産学官連携フォーラム
【対 象】 一般			
【定 員】			
【参加費】 無料			

名 称・開催日	講 師	内 容	
【ひろさき産学官連携フォーラム】 「平成29年度 企業見学会in山形」		11/27 ～鶴岡メタボロームクラスター、鶴岡工業高等専門学校の研究拠点の取組みを聴講するほか、施設見学の実施～ 11/28 ～鶴岡工業高等専門学校と食品製造企業、木材チップ加工企業、果樹園、飲食店等が連携する燻製プロジェクトの主要プレイヤー訪問～	
平成29年11月27日(月) ～11月28日(火)			
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 (バス移動と各地見学)		13名	ひろさき産学官連携フォーラム
【対 象】 一般			
【定 員】 10名			
【参加費】 10,000円			

名 称・開催日	講 師	内 容	
〔弘前大学グロウカルファンド・八戸菊プロジェクト成果報告会〕八戸菊の世界 ―香月園所蔵『菊押葉添句標本帖』を通して―		平成28年度「弘前大学グロウカルファンド」採択課題である八戸市の造園業株式会社香月園との共同研究の成果報告。 香月園が所蔵する和古書の中から発見された『菊押葉添句標本帖』(仮称)には、120種類の菊の押し葉に、その菊の名に寄せた「句」が添えられていた。この書を解読したところ、明治期の八戸の菊文化、また文化人たちの文化生活のいったんが判明した。その成果を八戸市民にお知らせするための報告会。	
平成30年2月4日(日) 13:00～15:50	株式会社香月園 専務取締役 橋本 修 山形大学農学部 准教授 小笠原 宣好 弘前大学人文社会科学部 教授 渡辺 麻里子 弘前大学人文社会科学部 学生4人		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 八戸商工会館4階 大会議室		110名	(主催) 弘前大学、(共催) 香月園
【対 象】 一般市民			
【定 員】			
【参加費】 無料			

名称・開催日	講師	内 容	
平成29年度 第2回「弘前大学知財塾」		「農業と知的財産」	
平成30年2月5日(月) 16:15~17:30	国立大学法人山口大学 大学研究推進機構知的 財産センター 特命准教授 陳内 秀樹		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】教職員、学生、大学院生、一般企業 【定員】50名 【参加費】無料		47名	弘前大学研究・イノベーション推進機構

名称・開催日	講師	内 容	
【ひろさき産学官連携フォーラム】 「平成29年度 青い森の食材研究会セミナー」		基調講演 ①『食品の機能性研究を地域の活性化につなげる－岩手の取組み事例－』 ②『秋田県総合食品研究センターにおける機能性食品開発支援～素材探索からヒト臨床試験まで～』 情報提供 ①『食品の網羅解析から見えてくる産業発展の糸口～青森短命県を打破する最強の手法～』 ②『食品表示に関する法律のポイントと注意点』	
平成30年2月18日(日) 13:00~16:05	基調講演 ①公益財団法人岩手生 物工学研究センター／ 生物資源研究部 研究部長 矢野 明 ②秋田県総合食品研究 センター 上席研究員 畠 恵司 情報提供 ①ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 溝口 祥子 ②青森大学 教授 川村 仁		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】青森国際ホテル 【対象】一般 【定員】 【参加費】無料		約30名	ひろさき産学官連携フォーラム 青い森の食材研究会

名称・開催日	講師	内 容	
【ひろさき産学官連携フォーラム】 「第28回イブニングフォーラム」		講演1:18:00~18:20 「地域の食資源の付加価値を高める機能性の探索と利用」 講演2:18:20~18:40 「食品成分の水和解析と食品の力学物性機能発現との関わり」	
平成30年2月27日(水) 18:00~19:45	講演1:弘前大学農学 生命科学部 教授 岩井 邦久 講演2:弘前大学農学 生命科学部 教授 佐藤 之紀		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学コラボ弘大8階「八甲田ホール」 【対象】一般 【定員】 【参加費】1000円（ドリンク・軽食代として）	約30名	ひろさき産学官連携フォーラム

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 弘前大学若手・新任研究者支援事業 並びに青森ブランド価値創造研究採択課題の研究 成果発表会		若手・新任研究者支援事業並びに青森ブランド価値創造研究に採択された研究者による成果発表会を開催します。
平成30年3月1日(木)	・青森ブランド価値創造研究成果発表 ・若手・新任者プレゼン	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】弘前大学会館3階「大集会室」及び「多目的室」 【対象】本学教職員、大学院生、学部学生、URA、産学官連携CD、企業、マスコミ、その他興味のある方 【定員】 【参加費】無料	約200名	弘前大学研究推進部研究推進課

名称・開催日	講師	内容
【ひろさき産学官連携フォーラム】 平成29年度 第2回白神酵母研究会		第一部：白神酵母研究会の研究発表（勉強会） 18：00～18：30 第二部：東奥日報ジョシマルコラボ企画～1日限りの豪華楼コラボディナー～ 18：45～20：30
平成30年3月2日(金) 18：00～20：30		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】中国料理豪華桜 【対象】一般 【定員】 【参加費】第2部のみ4000円	約40名	ひろさき産学官連携フォーラム 白神酵母研究会

名称・開催日	講師	内容
【ひろさき産学官連携フォーラム】 「平成29年度 コーディネート研究会」		・コーディネート事例紹介 「産学官が連携した地域ブランドの開発～学（鶴岡高専）の視点から一考察～」
平成30年3月12日(月) 18：00～	鶴岡工業高等専門学校 教育研究技術支援センター 副技術長 伊藤 真子	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】ヒロロ3階 多世代交流室2 【対象】一般 【定員】 【参加費】無料	21名	ひろさき産学官連携フォーラム 「コーディネート研究会」

名 称・開催日	講 師	内 容	
日台国際観光フォーラム 「青森県におけるインバウンド観光の人材育成～台湾 開南大学の取組を参考に大学の役割を考える～」		青森県におけるインバウンド観光の人材育成～台湾 開南大学の取組を参考に大学の役割を考える～	
平成29年 7月25日(火) 10:20～15:20	<基調講演> 一般社団法人東北観光推進機構 専務理事 紺野 純一 <パネルディスカッション> 司会進行：弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男 パネリスト： 弘前市長 葛西 憲之 平川市長 長尾 忠行 青森県観光国際戦略局 次長 堀 義明 たびすけ合同会社西谷 代表 西谷 雷佐 開南大学教員、開南大学大学院生	<基調講演> 東北におけるインバウンド観光拡大をめざして～東北観光推進機構の取組～ <パネルディスカッション> テーマ：地方におけるインバウンド観光人材の育成について	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対 象】 大学生、本学教職員、自治体職員、地元金融機関職員、一般市民 【定 員】 【参加費】 無料		180名	弘前大学社会連携部社会連携課

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前市民対象「おもてなし英語セミナー」楽しく話しておもてなし英語～わんどの弘前を外国人に紹介するべ～		弘前市観光および国際交流に関心のある住民の方（20～30名程度）をイングリッシュ・ラウンジに招待して、外国人教員からおもてなしの英語を習ったあと、ホテル、レストランや観光案内を想定して参加者全員で楽しくおもてなし英会話の練習を行います。	
①平成30年 3月 5日(月) ②平成30年 3月 7日(水) ③平成30年 3月 8日(木) 両日16:00～19:00	イングリッシュ・ラウンジのネイティブ・日本人教員ほか（弘前大学）		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学イングリッシュ・ラウンジ（総合教育棟2階） 【対 象】 観光・旅行事業関係および国際交流に関心がある人 【定 員】 各日30人（先着順） 【参加費】 無料（教材を配布します）		80名 （①28名、 ②27名、 ③25名）	弘前大学イングリッシュ・ラウンジ

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 第1回市民ボランティア講座 「ボランティア・マネジメントの基本(考え方)に学ぶ」		講演：「ボランティア・マネジメントの基本(考え方)に学ぶ」～ボランティアの力を最大限に活かした成果を生むために～	
平成29年6月23日(金) 18:00～20:00	藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授 船木 幸弘		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学総合教育棟2階 【対 象】 市民、学生、行政関係者、教職員 【定 員】 【参加費】 無料		16名	弘前大学ボランティアセンター

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 第2回市民ボランティア講座 「避難所設営・運営のノウハウを学ぶ」		第1部で平成28年に発生した熊本地震の際に実際に避難所設営・運営を行った公益財団法人熊本YMCAながみねファミリーセンター館長の丸目陽子氏から避難所設営・運営のノウハウを学び、第2部では避難所設営のための資材の組立てなど、3つのブースにわかれて避難所設営訓練・体験を行います。災害時の対応を予備体験することで、弘前市民の皆様に被災時のボランティア活動についてその実状と重要性を幅広くお伝えするために開催します。	
平成30年1月26日(金) 18:00～20:30	公益財団法人熊本YMCAながみねファミリーセンター 館長 丸目 陽子 学校法人弘前城東学園 弘前医療福祉大学 救急救命研究会 NPO法人青森県防災士会 副代表理事・弘前支部長 工藤 廣道		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学 大学会館3階 大集会室 【対 象】 市民、学生、行政関係者、教職員 【定 員】 【参加費】 無料		58名	【主催】 弘前大学ボランティアセンター 【共催】 NPO法人青森県防災士会、学校法人弘前城東学園弘前医療福祉大学

名 称・開催日	講 師	内 容	
弘前大学ボランティアセンター活動報告会 ～輝く子供たちの笑顔のために～		この活動報告会では2017年度に実施した一年間の活動を弘前市民と共に振り返り、新しい年度に向けて事業の見直しを行うべく実施する。	
平成30年3月10日(土) 18:00～20:00	弘前大学ボランティアセンター 副センター長 李 永俊 ボランティアセンター 学生事務局 あっぷる～む学習支援 学生ボランティア みらい学習支援学生ボランティア		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ4階） 【対象】 市民、学生、行政関係者、教員 【定員】 【参加費】 無料	37名	【主催】 弘前大学ボランティアセンター 【共催】 弘前市 【後援】 野田村、野田村社会福祉協議会、弘前市社会福祉協議会、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、チーム北リアス

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 八戸地域学講座 「青森県の産業文化を築いた先人たちの軌跡」 ～地域の産業文化振興のイノベーターたちに学ぶ～		青森県の産業、文化、教育などの分野において、新たな時代を切り拓いた先人たちの軌跡を通して、次世代のイノベーターの精神を養う。 ①「八戸藩の財政・産業政策に新機軸を起こした群像」 ②「北奥羽の地域開発に夢を描いた先人たちの軌跡」 ③「日本一の青森県のりんごを拓いた人々」 ④「地域の産業文化を拓いた斗南藩の人たち」 ⑤「俳句のまち八戸を全国にとどろかせた俳人たちの系譜」 ⑥「八戸の産業の近代化をけん引した先駆者たち」 ⑦「日本の文学に一石を投じた青森県の作家たち」
①平成29年6月20日(火) ②平成29年6月27日(火) ③平成29年7月5日(水) ④平成29年7月12日(水) ⑤平成29年7月19日(水) ⑥平成29年7月26日(水) ⑦平成29年8月9日(水) (全7回) 15:00～17:00	①八戸歴史研究会 会長 三浦 忠司 ②元八戸高校 校長 蛇口 剛義 ③弘前大学農学生命科学部 准教授 成田 拓未 ④青森県文化財保護協会 副会長 滝尻 善英 ⑤青森県俳句懇話会 副会長 三ヶ森 青雲 ⑥弘前大学八戸サテライト 地域連携コーディネーター 高橋 俊行 ⑦弘前大学教育学部 講師 仁平 政人	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学八戸サテライト 【対象】 青年事業経営者、一般市民 【定員】 各回30名 【参加費】 無料	346名	【主催】 弘前大学八戸サテライト 【共催】 デーリー東北新聞社

名称・開催日	講師	内容
種差海岸『食』のブランディング研究会		種差海岸の伝統文化や食材を元に、種差海岸ならではの魅力をデザインした新たな料理の創作とブランド化の推進を図る。
①平成29年10月20日(金) ②平成29年10月30日(月) ③平成29年11月15日(水) ④平成29年12月13日(水) 15:00～16:30	【講師】 メラローサ 管理栄養士 奥山 綾乃 【アドバイザー】 弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 八戸市立南浜公民館 【対象】 種差海岸の食堂、民宿事業者 【定員】 約20名 【参加費】 無料	43名	【主催】 種差観光協会、弘前大学八戸サテライト

名称・開催日	講師	内 容	
雇用対策フォーラム 「若者にとって魅力ある地方企業の採用戦略を考える」		学生が県外就職を選択する理由や仕事に求めている職業観と、企業が学生に求める人材像との相違を知り、学生に選ばれるための企業人材採用戦略を考えることで、八戸地区の雇用促進に資する。	
平成29年11月8日(水) 13:30~16:20	<p><第1部> 【調査報告】八戸地域社会研究会 会長 高橋 俊行 【講演】弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊 【講演】(株)アフターリクルーティング 代表取締役社長 池谷 昌之</p> <p><第2部> コーディネーター 弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊 パネリスト (株)アフターリクルーティング 代表取締役社長 池谷 昌之 アルバック東北(株) 取締役総務 部長 網野 康司 (株)吉田産業 業務本部人事採用・教育グループ 副主幹 原 慎 八戸工業大学 学務部就職課 課長 栗橋 秀行 八戸商業高等学校 進路指導主事 田中 信哉</p>	<p><第1部> 【調査報告】「地方の学生はなぜ県外企業に就職希望を出すのか？」 【講演1】「地方の学生労働市場における需要ミスマッチの現状」 【講演2】「定着する学生を惹きつける採用戦略について」</p> <p><第2部> フォーラム (75分) 「若者に選ばれる地方企業の採用戦略とは」</p>	
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 八戸パークホテル 【対象】 事業所、高等教育機関等の教職員・学生 【定員】 60名（最大100名まで） 【参加費】 無料		110名	【主催】 八戸雇用対策協議会 【共催】 弘前大学八戸サテライト、青森COC+推進機構、八戸市、八戸商工会議所

名称・開催日	講師	内 容	
革新的ものづくり企業連携交流サロン		大学・支援機関との連携や補助金等の外部資金を獲得しながら革新的な取り組みを行っている事業者によるパネルディスカッションを実施する。	
平成29年11月29日(水) 15:30~17:15	弘前大学地域連携コーディネーター 上平 好弘		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会場】 弘前大学八戸サテライト 【対象】 企業、支援機関、金融機関等 【定員】 30～50名 【参加費】		41名	【主催】 八戸市商工課、公益財団法人21あおり産業総合支援センター 【共催】 弘前大学八戸サテライト

名 称・開催日	講 師	内 容	
地方創生イノベーション講座		次世代の経営を担う若い経営管理者の育成と地域経済の再生を目的とする。 ①食農ツーリズムによる地域活性化の可能性 ②グローバル時代の製品・販売戦略～海外市場に挑戦する日本産農林水産物・食品から学ぶ～	
①平成29年12月21日(水) ②平成30年1月24日(水) 15:00～17:00	①立教大学観光学部 教授 庄司 貴行 ②弘前大学農学生命科学部 准教授 石塚 哉史		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 弘前大学八戸サテライト 【対 象】 事業経営者（後継者・管理職）、弘前大学地方創生ネットワーク会議参加者、三八地域の金融機関、地方創生に興味のある方 【定 員】 30名（先着順） 【参加費】 無料		79名	【主催】 弘前大学八戸サテライト 【共催】 公益財団法人シルバーリハビリテーション協会

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 むつサテライトキャンパス「ジオパーク講座」		平成28年9月に認定された下北ジオパークについて学ぶことを目的としています。今回は「地質」を視点に学びます。この「地質」は、人々の営みや下北の動植物の土台となるジオパークにおいて、重要な要素となっています。また、この講座はジオガイド養成講座の認定講座となっています。	
①平成29年8月9日(水) ②平成29年8月23日(水) ③平成29年9月6日(水) ④平成29年9月20日(水) (全4回) 18:30～20:00	弘前大学理工学部 講師 根本 直樹		
会場・対象・定員・参加費		参加人数	主催・共催
【会 場】 むつ来さまい館 イベントホールB 【対 象】 むつ市民 【定 員】 100名程度（ジオガイド養成講座受講者含む） 【参加費】 無料		延べ 197名	むつサテライトキャンパス

名 称・開催日	講 師	内 容	
平成29年度 むつサテライトキャンパス「食育・健康講座」		下北地方における特産の農水産物を素材に、弘前大学、青森中央短期大学等のシーズを活用し、その機能性や機能を活かした調理方法や加工技術を紹介する。また、食育文化の向上により、生産者はもとより加工業者や販売に関わる業者のモチベーションを高め、地域産業の活性化に大きな波及効果が期待されます。	
①平成29年8月21日(月) ②平成29年9月27日(水) ③平成29年10月25日(水) ④平成29年11月22日(水) (全4回) ① 8 / 21のみ14:00～16:00 ②～④13:00～15:00 座学・実演の2部構成	弘前大学教育学部 特任教授 加藤 陽治 青森中央短期大学食物栄養学 科長 棟方 秀和 他		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 むつ来さまい館 イベントホールB 【対象】 むつ下北地域在住の生産者や販売関係者、飲食店関係者、調理や加工に興味・関心のある方 【定員】 各講座50名程度 【参加費】 無料	延べ 142名	むつサテライトキャンパス

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 むつサテライトキャンパス 「高校生向け講座－環境エネルギー政策の動向」		エネルギーの基礎から始まり、バイオマス・風力・海洋エネルギーなどの注目されている個別のエネルギーについて、そして、それらを踏まえた環境問題とエネルギー問題に関する政策について学び、さらに、そこから発展して、エネルギーという視点で地域活性化について考える。 【講義内容】 ①「エネルギーの貯蔵」 ②「バイオマスエネルギー」 ③「風力・海洋エネルギー」 ④「最近の環境エネルギー政策の動向」 ⑤「自然エネルギーの活用による地域活性化」
①平成29年9月9日(土) ②平成29年9月18日(月) ③平成29年10月9日(月) ④平成29年10月21日(土) ⑤平成29年11月3日(金) 13:30～15:30 (全5回)	弘前大学理工学研究科 教授 阿布里提 弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 官国清 弘前大学北日本新エネルギー研究所 教授 本田明弘 弘前大学北日本新エネルギー研究所 准教授 吉田 曉弘	

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 むつ市立図書館視聴覚ホール 【対象】 高校生 【定員】 80名程 【参加費】 無料	延べ52名	むつサテライトキャンパス

名称・開催日	講師	内容
平成29年度 むつサテライトキャンパス大学祭		学生がむつ市で活動発表を行うことで、賑わいの創出を図るとともに、学生のアクティブラーニングを実施し、主体的に考える力の育成や地域志向の向上を図ります。
平成29年11月11日(土) 15:00開始 ～平成29年11月12日(日) 9:00開始		

会場・対象・定員・参加費	参加人数	主催・共催
【会場】 下北文化会館 【対象】 一般市民、他 【定員】 【参加費】	延べ 400名	むつサテライトキャンパス

Ⅲ. センター関連規則等

1. センター関連規則

○弘前大学生涯学習教育研究センター規程

(平成16年4月1日制定規程第144号)

改正

平成22年5月17日規程第53号

平成23年7月28日規程第68号

平成25年4月19日規程第74号

平成26年5月16日規程第61号

平成27年3月20日規程第48号

平成27年9月14日規程第212号

平成28年3月18日規程第126号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号。以下「管理運営規則」という。）第6条第2項の規定に基づき、弘前大学生涯学習教育研究センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、生涯学習に関する教育（医学及び保健に関することを含む。）及び研究を行い、弘前大学（以下「本学」という。）の教育研究の進展と地域における生涯学習の振興に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習に関する教育内容及び教育方法の研究
- (2) 社会人を対象とする公開講座等の生涯学習事業の実施
- (3) 生涯学習指導者の養成
- (4) 生涯学習に関する情報の収集及び提供
- (5) 生涯学習に関する相談事業
- (6) 生涯学習に関する調査・研究報告書等の刊行
- (7) メディカルコミュニケーションセンターの業務に関すること。
- (8) その他生涯学習に関すること。

(職員)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任担当教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

第6条 削除

(センター協力教員)

第7条 センターに、センターが行う事業を円滑に実施するため、センター協力教員を置くことができる。

- 2 センター協力教員の任期は、担当する業務が終了するまでの期間とする。
- 3 センター協力教員は、学長が任命する。

(運営委員会)

第8条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第9条 センターの事務は、社会連携部社会連携課において処理する。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年2月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年5月28日から施行し、改正後の規定は、平成21年4月1日から適用する。

附 則（平成22年5月17日規程第53号）

この規程は、平成22年5月17日から施行する。

附 則（平成23年7月28日規程第68号）

この規程は、平成23年7月28日から施行し、改正後の規定は、平成23年5月20日から適用する。

附 則（平成25年4月19日規程第74号）

この規程は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成26年5月16日規程第61号）

この規程は、平成26年6月1日から施行する。

附 則（平成27年3月20日規程第48号）

この規程は、平成27年3月20日から施行する。

附 則（平成27年9月14日規程第212号）

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則（平成28年3月18日規程第126号）

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

○弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会内規

(平成16年4月1日制定)

改正 平成25年4月19日 平成28年3月31日

(趣旨)

第1条 この内規は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第95条及び弘前大学生涯学習教育研究センター規程第8条の規定に基づき、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任担当教員
- (3) 人文社会科学部、教育学部及び農学生命科学部並びに大学院医学研究科、保健学研究科及び理工学研究科から推薦された教員各1名
- (4) 学長が指名する教員以外の職員1名
- (5) その他委員長が必要と認めた職員

2 前項第3号の委員は、学長が任命する。

(委員の任期)

第3条 前条第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

3 運営委員会に副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員の代理出席)

第6条 委員に事故があるときは、当該委員の指名した者が委員として代理出席することができる。

(委員以外の出席)

第7条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 運営委員会に専門的事項を調査し、又は企画、立案若しくは実施をするため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の名称、組織及び運営については、運営委員会が別に定める。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、社会連携部社会連携課地域交流室において処理する。

(その他)

第10条 この内規に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成16年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成17年10月28日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年4月19日)

この内規は、平成25年4月19日から施行し、改正後の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則 (平成28年3月31日)

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

○白神自然環境人材育成講座専門委員会に関する要項

(平成28年7月25日制定)

第1 趣旨

この要項は、弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会内規第8条の規定に基づき設置する弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会白神自然環境人材育成講座専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2 業務

専門委員会は、白神自然環境人材育成講座（以下「講座」という。）に係る次に掲げる業務を行う。

- (1) 講座計画（カリキュラム編成を含む。）に関すること。
- (2) 履修及び修了等履修生の修学に関すること。
- (3) 履修生支援に関すること。
- (4) その他講座の重要事項に関すること。

第3 組織

1 専門委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの専任担当教員
- (3) センター長が必要と認めた職員

2 専門委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

3 委員長は、専門委員会を主宰し、その議長となる。

4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

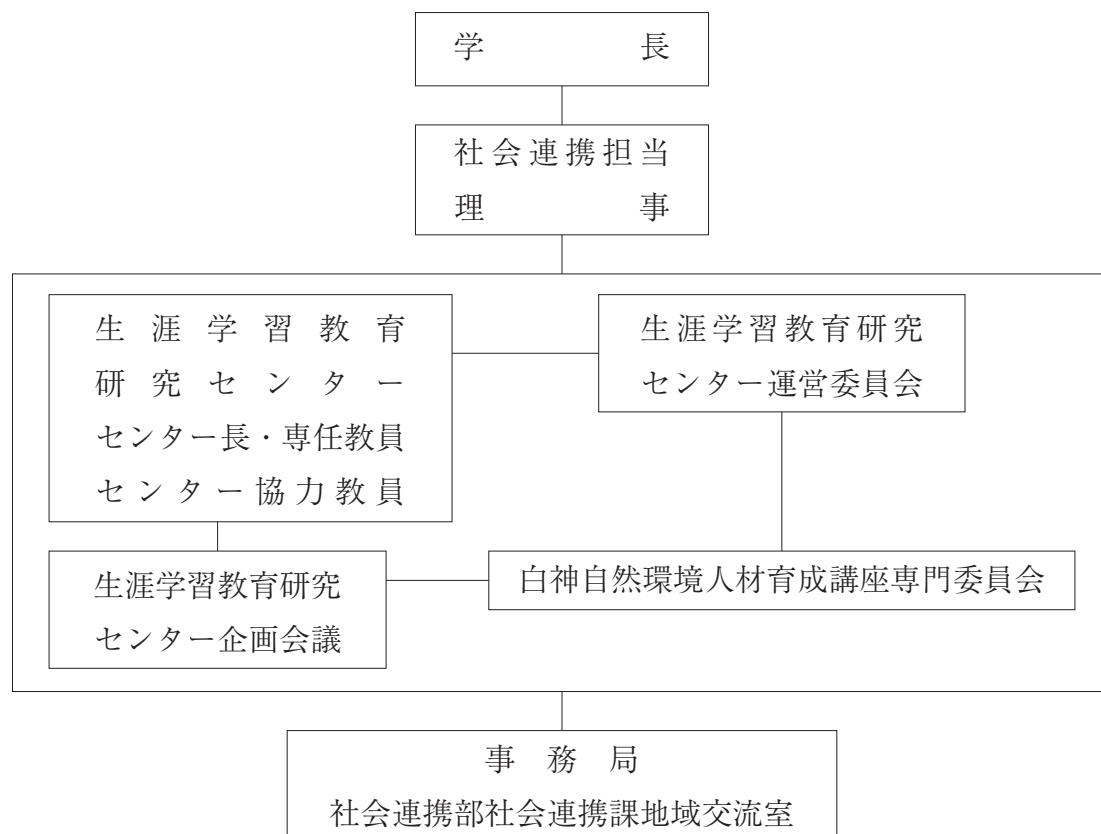
第4 庶務

専門委員会の庶務は、社会連携部社会連携課地域交流室において処理する。

附 則

この要項は、平成28年7月25日から実施する。

2. 機構・組織



○生涯学習教育研究センター運営委員会

生涯学習教育研究センター	センター長	曾我亨
生涯学習教育研究センター	講師	深作拓郎
人文社会科学部	准教授	堀智弘
教育学部	教授	大坪正一
医学研究科	教授	松原篤
保健学研究科	講師	扇野綾子
理工学研究科	准教授	齋藤玄敏
農学生命科学部	准教授	園木知典
社会連携部社会連携課	課長	小田桐努

○センター協力教員

人文社会科学部	准教授	金目哲郎 (28.4.1～30.3.31)
	准教授	近藤史 (29.4.1～30.3.31)
教育学部	准教授	小瑤史朗 (28.4.1～30.3.31)
	准教授	松本大 (29.4.1～30.3.31)
保健学研究科	助教	北嶋結 (29.4.1～30.3.31)
農学生命科学部	准教授	石塚哉史 (28.4.1～30.3.31)
白神自然環境研究所	准教授	中村剛之 (28.4.1～30.3.31)
地域社会研究科	准教授	平井太郎 (28.4.1～30.3.31)

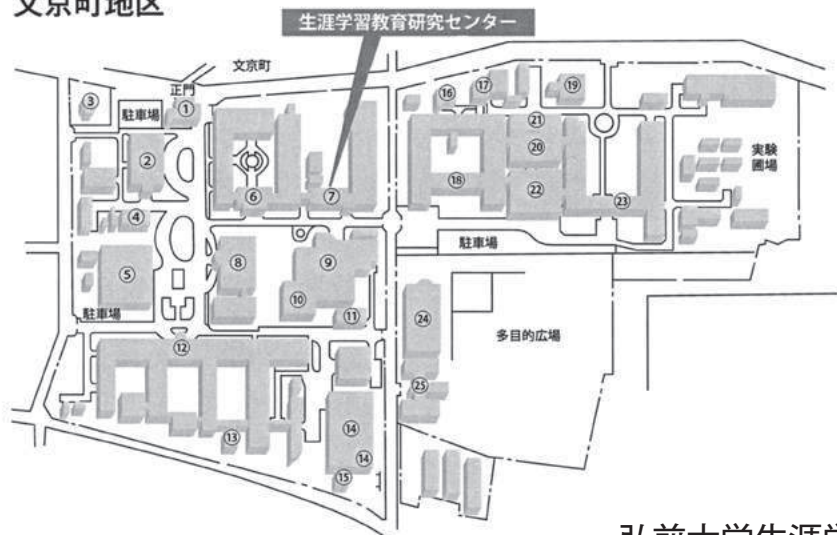
○白神自然環境人材育成講座専門委員会

生涯学習教育研究センター	センター長	曾我亨
生涯学習教育研究センター	講師	深作拓郎
人文社会科学部	准教授	金目哲郎
教育学部	准教授	小瑤史朗
農学生命科学部	准教授	石塚哉史
白神自然環境研究所	教授	石川幸男
白神自然環境研究所	准教授	中村剛之
社会連携部社会連携課	課長補佐	金沢伸也

(平成30年3月31日付)

3. 地図・連絡先

文京町地区



- | | | |
|-----------------------|-----------------|------------|
| ①案内所(守衛所) | ②事務所 | ③弘大カフェ |
| ④保健管理センター | ⑤創立50周年記念会館 | ⑥総合教育棟 |
| ⑦人文社会科学部校舎 | ⑧附属図書館 | ⑨学生食堂 |
| ⑩学生会館 | ⑪合宿所及びサークル共用施設 | ⑫教育学部校舎 |
| ⑬教育学部附属
教育実践総合センター | ⑭第一体育館 | ⑮弓道場 |
| ⑯地震火山観測所 | ⑰総合情報処理センター | ⑱理工学部1号館 |
| ⑲遺伝子実験施設 | ⑳附属コラボレーションセンター | ㉑農学生命科学部校舎 |
| ㉒創立60周年記念会館
コラボ弘大 | ㉓理工学部2号館 | |
| ㉔第二体育館 | ㉕武道館 | |

弘前大学生涯学習教育研究センター

〒036-8560 弘前市文京町1番地

TEL (0172) 39-3146 〈直通〉

FAX (0172) 39-3146

事務局

社会連携部社会連携課

〒036-8560 弘前市文京町1番地

TEL (0172) 39-3980

FAX (0172) 39-3919

編集後記

生涯学習教育研究センター年報21号を刊行することができました。例年よりも刊行時期が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。

今号では、深作教員の論文と調査報告のほか、生涯学習教育研究センター主催・共催事業の事業報告等を収載しております。

特筆すべき点として、各自治体との共催事業終了後に本センターと自治体の担当者とは協働で、事業の在り方や今後の展望について省察を行い、それを基に目的の達成度や反省点等を記した内容評価書を自治体側に作成していただくことで、事業のブラッシュアップや、自治体職員のスキルアップ、課題意識の共有等を図る取組を行っており、その成果物である内容評価書が記載されている点が挙げられます。

今後も本誌が生涯学習教育研究センターの研究活動の記録としてのみならず、若手研究者育成に資するとともに、なにより読者の皆様にとって新たな知の発見のきっかけとなり、全国の生涯学習教育研究が発展していくことを願っておりますので、皆様にはご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

(将)

発行 平成30年12月

弘前大学生涯学習教育研究センター 年報 第21号

発行 弘前大学生涯学習教育研究センター

〒036-8560 弘前市文京町1番地

☎ (0172) 39-3146

印刷 青森コロニー印刷

〒030-0943 青森市幸畑字松元62-3

☎ (017) 738-2021

ANNUAL REPORT
CENTER FOR RESEARCH AND EDUCATION OF LIFELONG LEARNING
HIROSAKI UNIVERSITY
NO.21, 2018

CONTENTS

Academic Article:

Consideration of the role of higher education in lifelong learning and
“Continuing and Adult education”

Fukasaku Takurou 1

Report of investigation “Data and analysis of survey results from the 39th National
conference of national university Lifelong learning centers”

Fukasaku Takurou15

Activity Reports: Center for research and education of lifelong learning19
Faculties and Other organizations on campus62

Rules and Organization107
